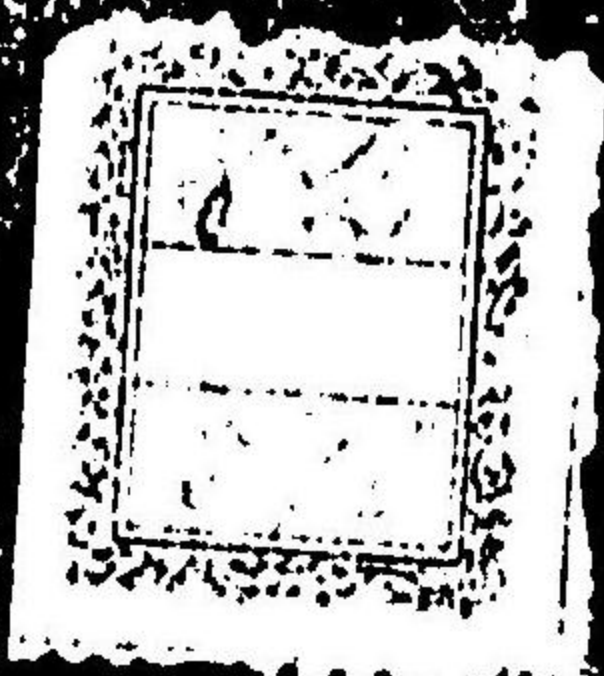
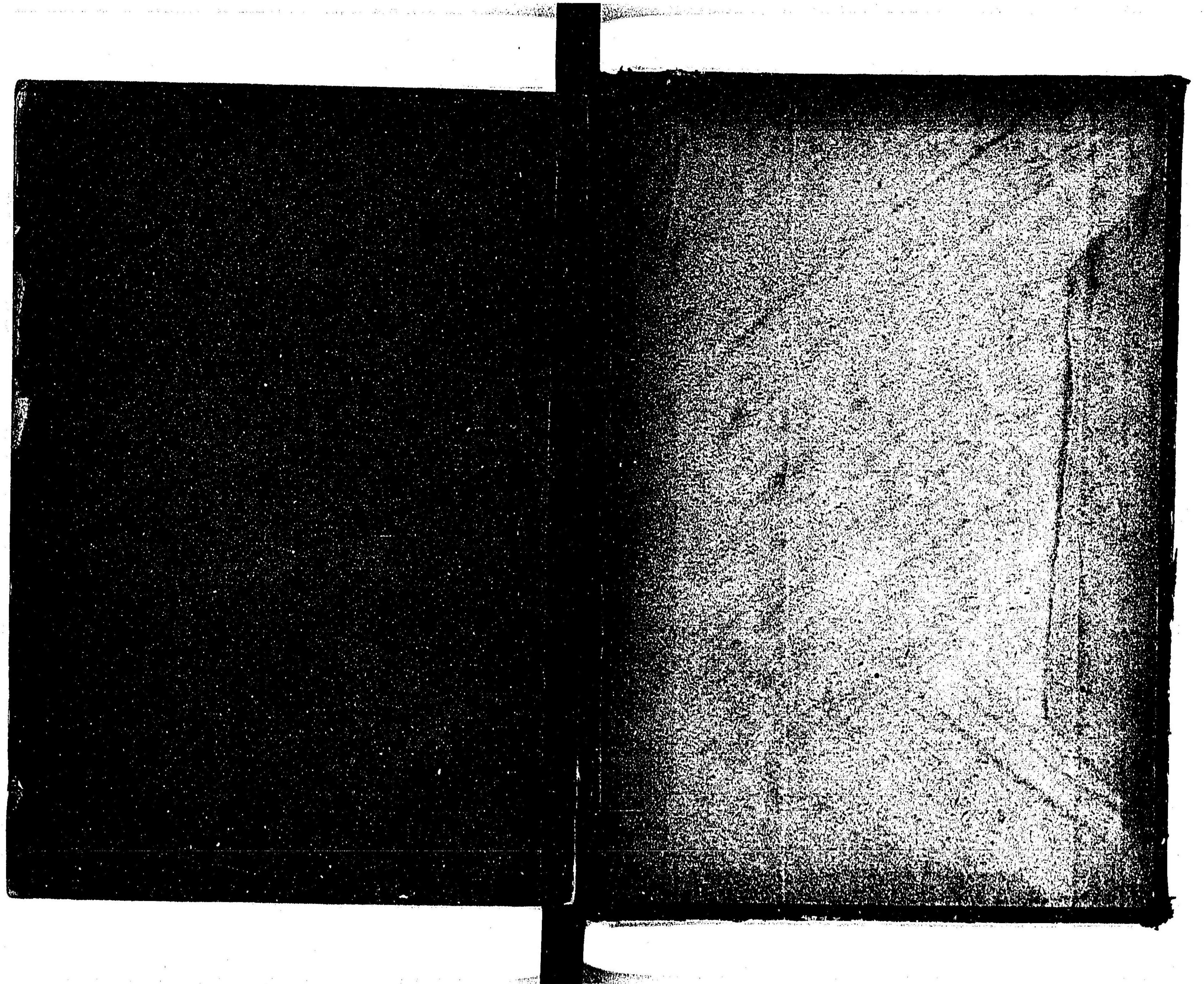


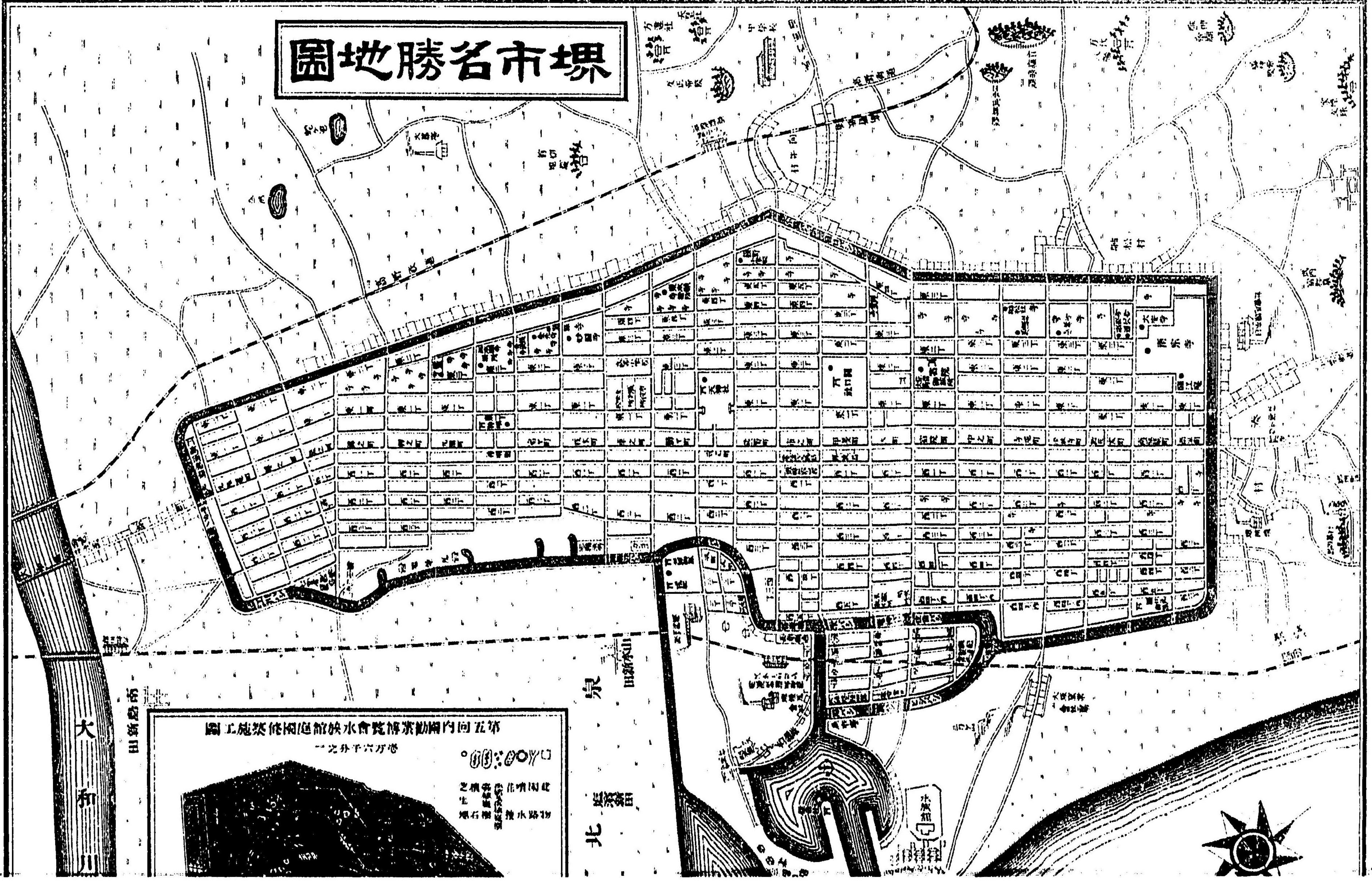
埤市案内記







# 市場名勝地園



第五回内閣勸業博覽會水鏡閣庭園建築工事圖

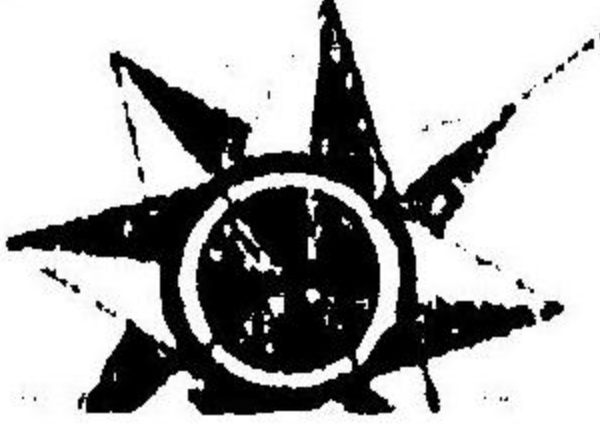
卷六十一之一

○●●●●○

芝廣敷 花噴園此  
土 池水鏡閣  
地石礎 橋水路物

大和川

新山田川





82-570

市案内記



市案内記

言

第五回博覽會堺市協



第五回博覽會も愈々近くなりました、而して水族館は我堺市に開設せられまして、水族  
 館魚類の或ひは鯉魚咆哮する、或ひは錦鯉噴喇たる、或ひは鼓翼游泳する、甲介水  
 産の珍なる府なる、庭園の宏壯美麗を極めましたる、此れ等の大觀を吾人の前に  
 臚列せらるゝのは、も一、咫尺になりました。世人は定めて吾人と共に馳待せらるゝで  
 しょ、其時は、丁度花時に屬しまして、天然も粉飾を凝らし、樹卉序を逐ふて粧を着  
 け、紅綠妍を争ひて粧を敷き、四圍爛熳たるの候でございませすから、博覽會で事物の  
 進化を察し、新知を研鑽すると同時に、必ず此の好機を逸せず、其付近なる名勝舊跡  
 を温ねて、雅味高趣を掬し、泉石の間に更らに耳目を懋めようと、御存じの方が夥多  
 ありましよう。蓋し其書は、此等の便利に供する爲め、亦た市の物産より旅宿等堺市  
 一般の形狀をも紹介御案内しようとして編しました。而して之れを讀んで津々と興味の

82  
570

來らぬのは、編者不識不文の罪です、先づ堺市歴史の大要から始めましょう。

## 堺市

我堺市は和泉國北端攝河泉の堺に位置す、即ち地名の因て起る處、其往昔神功皇后新羅征討に際し、地中に波浪の聲ありて、清泉涌出す、其味甘露の如く、出陣の吉兆を示せり、故に此地方を泉と稱され、凱旋の時堺浦へ歸航、繫纜の場處を船松とて存しあります。元正天皇靈龜二年、河内より和泉を割て一國を新置されたるより今に三國の兵と云ひまして、三國の交叉點で所謂、堺であるご申します。即ち土盤が漸次西の方海面を埋めまして、市街も從て遷轉を致したものです。降て明徳年中足利氏の時代には、山名氏清居城を築き泉府と稱し、大内細川三好など交々守護となり、享祿天文の交には、南海四國の要衝なるのみならず、商業交通の中心にして、海外貿易の開港地として、唐船鐵船の入津瀬繁で、百貨輻湊殷富比類稀に、豪華奢侈を極め、風俗從て蕪美を好み、人烟稠密今日より數倍多く、京師に比肩しました。豊臣氏に至り、泉州一國の政務を此處に執らしめ、政所と號し、小西行長が奉行でありましたが、此前後には人物輩出し、まして此行長は勿論、和歌には牡丹花宵柏、茶道には一閑齋紹鷗

千の利休、或ひは滑稽家として、鼠樓利新左衛門等、其他技藝家數多あります。大賈には伊豫屋良千、豆腐屋四良右衛門、木屋彌三右衛門、山田助左衛門等、大船數艘を擁して、遠く朝鮮暹羅南洋呂宋の貿易に従事いたしました。徳川氏の時に至りまして貿易は長崎へ移されましてより、多少衰微を來したです。而して奉行を置て統轄しましたが、元祿年中大坂奉行の支配下となり、明治初年堺縣を置かれ、今は大阪府の管轄であります。

堺浦を茅渚と云ひますが、此に關して一二を述べます。即ち神武天皇東征して本州に御涉りなされ、長髓彦を御討征のとき、官軍利あらず、皇弟五瀬命流矢に當り、瘡痕を雉水門に血を洗ふ、故に其海を血沼と云ひ、攝泉の海を移努の海と云ひます。一説には海鯽は鯛に似て其色青白、鳧魚之類多く、此海に在り故に知沼と云ふともあります。又陸地には茅渚の屯倉など、安閑天皇の時に見へて、和泉一般の名となりました。

如斯古來の名區でありまして、名所舊跡は隨て多く、其地勢たる、四面の風景明媚にして、空氣清鮮、北大和川に沿ひ、南高石濱寺に接し、東三國耳原の丘を相へ、大和河内の連峯を銜み、金剛二上の名山指點すべく、西海濱を擁して、水天一碧、遙かに

長煙を隔て紀淡の山色を望む、街衢端正家屋櫛比、南北三十二丁、東西十八丁、周圍三里餘、戸數一萬二千二百五十二戸、人口五萬二千六百六十七人を有する一都會、商工の業は随分發達して居りまして、海陸の交通は四通八達、至便にして電信電話通信の機關も完備してあります、是より個所に就き説述しましょう。

戎島

大正路吾妻橋西を北へ廻れば、戎嶋と云ふのがあります、此嶋は寛文四年、波濤濺注海嘯に依りて一つの嶋出現せり、同六年蛸子の像を海中から得たので之れを奇とし、時の刺史乃ち之れを修築し、燈臺を設け、旅船來泊の便に供し、こゝに一社を建て、此嶋の名としました。其社は今に至つて屹然と存在しています。又其後は諸國軍艦發着の湊で劇場もありて盛んなる遊所が並んで、常に狂歌の聲が絶へず、中にも織田居茶屋尤も名高かつたのです。其茶屋の庭前にありし松が泉州紡績會社構内に存在し有つたが、煤煙にて枯れ、今は幹のみ残りてあります。如斯世波の變遷を経て、今は夫等の面影は消滅を致し、煙突が橋頭交にり汽笛が狂歌の響と變りました。

七堂が濱

は、戎嶋の西北にありまして、往昔行旅大僧正が駐錫されたる高濱寺の七堂伽藍が在つた舊跡であります。

高須

此所に、

高須稻荷

の社がありて、鍛冶之辻道邊なる人、元和年中に勸請しけるが、高見の地で、境内に數株の櫻樹もあり、風景甚だ妙であります。夫れから名高き。

高須の遊廓の迹

今は昔し。此の旅籠町櫻の町東二丁邊に、高須と稱する遊廓あり。此處に名高き地獄大夫が住みけるが國色麗美の名を轟し亦天才識絶倫なりしかば、一休和尚之れを聞て



問答をしたと云ふのは、此の處です。

さ、しより見ておそろしき地獄か那 一休

こゝろの鬼に手引せられて 遊女 地獄

一休此女真に三乘四諦に通せりて、禮をなして去れりと云ひ、今尙遊樓の舊形を存したる家屋二三を見受けます。こゝは、

### 鐵砲鍛冶

亦た鳥銃と書き、堺の著名なるもので、はじめ此地の人、橋屋又三郎商用にて種が島へ滞留の際、他に率先して製作を傳授し歸り、其技に熟達したのから、人は之を鉄砲又と呼びなした。其技術が地方へ擴がり又た之れを北條氏綱に献じたものがあつて小田原即ち關東に傳はつたのであります。其後徳川家康嚴命して、當地之辻理右衛門に大砲小筒を造らしめた故に、鉄砲鍛冶は尤も早き發達を遂げ、諸國大小名へ供給し旅人來らば必ず之れを求めたもので、此櫻の町一帯は、該商軒を並べ、群客喧嘩しき有様でした。和泉名所圖畫にも、ある武士鉄砲を買はんとて、

「これは何程とへば亭主」これわ三女玉これわ五女玉打候と」答ふ「いやいや左に

あらず値は何程ととへば亭主」音はぼんとぞこたへける」  
とあります。忙殺の餘り意味の取違へを形容せしものでしよう。今三四軒の鍛冶あつて、廣く諸國へ商ふて居ます。夫れより殆んど市の東端に出で南へ曲り九間の町東一丁に、

### 經王寺

宗門は日蓮宗、開基は日延上人、應永年中の建立に係る古刹でありまして、建築見るべきものがあります。境内に伊宗芭蕉の古碑が存立してあつて、半時菴淡々が寶曆年中に、建てたもの碑文の末に「おはけなく此文塚をかへり花」なる句が刻されています、四邊青苔に蒸され、雅味掬して盡さぬ趣きがあります。

### 神明の社

乃ち神明町にありて、祭神は雨皇大神宮で天武天皇の御宇白鳳年間の勸請にして、例祭は七月十六日十月十六日でありまして、當市古社の一つです。裏門を東に向へば直

西本願寺別院

がある、文治年中榎木屋道順我が居宅を削り當院を建立し、蓮如上人に献す、道順居宅より廊下を往來し、日夜信向怠りなかりし、依て榎木屋御堂とも云ひ。亦々上人別に一字を構へ僑居せり、故に信証院とも稱します。本尊阿彌陀佛にして、十二代蓮如上人の作長三尺一寸四分、御足の裏に物形あつて、之れを造ると刻せり。初は聖徳太子作の本尊なりしが、今は東京築地の御堂へ移し安置しあり。本堂及書院、對面所は莊嚴にして、善麗なり鶴の書は古法眼の筆、奥書院は探幽の書なり、其外か室の數々は、多く竹隱齋敬市の筆にして、中にも鮎の書は筆力特とに、追到其妙に迫り、書工の常に規範とする處であります。廟堂は南の方にあつて、中祖と云ふ額社堂の額は丕承堂とあり、皆法如上人の筆、蓮師當院に僑居する時、契丹賊の營冲和なる者觀音の示現を蒙り、此津へ渡來し、蓮如上人の法水に浴し、歡喜して歸國の後謝恩の爲め書翰を貽りしは、今西本願寺に存し、彼國の畫圖を献じたのは、隣寺眞宗寺の什寶となりました。其近くに、

善長寺

宗門は淨土宗にして、本尊十一面觀世音、元龜中願空上人の開基、本尊十一面觀世音長八寸、永正十三年、三好善長此地に在陣の折り、靈夢を見て境内の松樹の下より、此本尊を感得せし故に、松觀音とも稱す。將軍松と呼ぶ松が、堂前にありますが、之れは三好善長和州筒井の城を征討し、凱陣の後得たる敵の首級を、松が枝に懸て、將士と共に勝祝の酒宴を開きて、軍威を輝かしました、故に此名ありと云ひます。宿屋町の東に、

成就寺

之れは日蓮宗、開基日驗上人、應永年中の建立にして、日傳上人この處に來りて、宗門を攝泉に傳教す。文久の頃、京都六條本國寺日助上人騒亂を避て久しく來居したので、今に六條の號を存します、堂宇古色蒼然、怡ふべしです。南の辻を東へ、

金光寺

此寺は、時宗でありまして、木尊樂師佛、之れは仁明帝承和元年、珍勢の海に夜光あり  
仍て海底へ網を布き得たる故に、細道場と稱し、勅號に依り金光寺と命せられしが、  
惜哉。今は堂宇廢滅に屬して、其内に紫藤と云ふ名高き藤があつたですが、夫れさへ  
枯果て、標木に依り只だ之れを示して居ります、其東隣に、

寶珠院

此處に藤土佐の藩士十一人の墓があります。是れは明治の初年、藤土佐藩が當市の警  
衛に任じて居りました時、淡の海濱で佛國人と衝突が生じ、遂に彼れ十一名を殺害し  
た。之れが罪に依て箕浦元章、以下十一名屠腹を命せられ、遺体を此寺に葬りました  
ので、之れ等は明治歴史に於て著名なる者です、其初めは寺の裏手に見る影もなく、  
子々として、並んで居りましたが、今は寺は廢壞に屬して、碑石正面となり、明治の光  
輝に照されて、臺石立派に屏なども、修築され、其形状は寫真判にて彷彿し得ますが  
親から此に對しますれば、孤憤義膽に思ひ至りて、當時の世變を想像すると同時に、  
勇壯なる感慨が胸臆に迫るを禁じ得なひです、近來は吊訪の人は愈々増加し、守番が  
ありまして、香華を供し、清掃に任じて居ります、東の角を南へ、

妙國寺

宗旨は日蓮宗、廣普山と號します。日光僧正の永祿中の開基、地面は三好長慶の叔父  
實体の寄付、諸堂は油屋常言の建立に係る。但し日光は常言の子にして、幼より佛門  
に入り、妙法を唱へて當時豁然たる高僧なりし、本堂には日蓮上人、及び日光上人の  
像を案じてありませす。實体塔は本堂の前に立てあります。亦こゝに、体の舎弟、安宅  
木冬康常寺に於て、連歌を催しませしたるが、其折り「古沼の淺きかたより野となりて」と  
云ふ前句が丁度出て在つたとき、實体の戦死を聞て冬康「すゝさに交る昔の一も」と  
附句をして、直に吊ひ合戦に出でたと云ふ、名高い話があります、且つ又徳川家康穴  
山梅雪を伴ひ、形勝遊覽の砌り、旅館を常寺に下し、信長父子明智光秀の爲めに殺害  
せられしを聞き、此寺より間道を取り、大和伊勢を越へて、遠州へ歸つたのです。そ  
して前に記しました、土佐藩士は、此寺の客室にて裝束をなし、佛殿前への廣場へ幕  
を引廻し、其處にて節を遂げたのであります。而して特に著明なる蘇鉄は方丈の庭  
中にありまして、奇代の古木で、幹の高さは三冊餘、大枝二十三本、小枝七十八本、  
四方十尺に達してありますが、三百餘年を経て連綿として、霜雪に堪へ翠巒點々滴る

如く、若色四時變らず、實に靈樹と云ふべきです、尙ほ外に數本の蘇鉄があります、皆巨大秀稜の者であります、遠近の旅客此地に来る者は、先づ以て之れを觀て、賞歎せぬ者はありませぬ、其概略は寫眞版にて御覽あれ、庭前の泉石花樹の配置は古雅なる致趣に富んでありまして、蘇鉄の下側に在る、六角にて地淵を刻みてある、石燈籠は、利休の好みにて有名なる者です當寺には名高き什寶が數多ありますが、其内にて優等なる者だけ、左に記載し置きました。

光り天目の茶碗

(紫古金襴袋付)

一個

是れは、天正十年徳川家康堺遊覽の節、當寺を旅館に定め、光秀の信長父子殺害を聞て、發途の折り、其祝として住持日光上人抹茶を捧ぐ、其茶碗を見て、家康其名を問ふ、日光灰被と答へしかば、其音が早勝と聞へて、家康之れを吉兆と喜悅して、其茶碗を請ひ受け、其返禮として、當寺の隆昌を祝し秘藏せる光り堂天目茶碗に、寶の一字を朱で書して之れを興へ、且つ紫地古金襴の袋に入れて、賜はつたので、之れを妙國寺切れと稱し、未だ他に所藏するものを承知しません小豆形青磁花瓶

是れは、當寺の開基三好實休の所藏でして、同人生害に臨み、敵手に涉るを吝む

の餘り、既に破毀しようとしたのを、待田某之れを止めて保存し、其後松永久秀の許に贈りたのを、日光上人久秀を説て當寺に密進せしめたと云ふ事です。

朝鮮古劔

(長さ二尺五寸八分巾一寸二分)

一口

長刀袋

(黒皮に金文字の題目が記しあり)

一口

配

(黒塗に蒔繪がしてあるもの)

一本

皆な加藤清正の寄付古劔は朝鮮戰利品

明壽春日遊山の圖

(歴七尺五寸五分横四尺五寸二分)

天啓癸亥夏仲壽昌夢之

の畫贊七絶が書きあり

瀟島(雪舟)

惠遠法師の像(同筆)

日蓮上人の像(大藏卿)

釋尊 文珠

普賢三幅(兆殿司)

十六羅漢十一幅(筆者不明)

四季耕作の圖屏風一雙(長谷

川雲谷) 現任日因教正寄付當寺の蘇鉄の記銘を高志養活が書ひたのがありませぬ。

夫より同寺の門を西南へ歩を運べば、

### 殿馬場

とて、両側に柳樹が植つてある、廣濶なる道路へ出ます。之れ徳川幕府の時代に於け

る奉行所屋敷の舊跡であります。只今は左右に洋館が巍々として峙ち、忽ち視目を牽きまします。乃ち其重なる者は、市立高等女學校、區裁判所、市役所、收税署、高等小學校、等であります。其の直ぐ西の森の内に、稻荷を祭る社がありまして、當時中々の流行を極めていたる神社で、常に參詣人が絶へませぬ。其行き當りを左りへ二丁には、

東本願寺別院

本尊は阿彌陀佛、聖徳太子の作、本堂の建立は壯大にして、樓門の彫刻特とに雄妙です。元どの殿堂は、八九年前寶物と共に烏有に歸し、三十三年頃新築成落せしものにして、親鸞上人親筆の十字の名號等を寶物として存します。門前四丁西に戻れば菅原天神の北門あり。

菅原神社

之祭神は菅原道真公で、ありまして聖廟の神像は筑紫大宰府に謫遷の時、自から神影を彫刻せられし處の者であります。天下七天神の其一であります。此神像は延喜中當市海濱に漂着せしと、人民一祠を設け奉祠せしが、長徳二年正月奇瑞を願して、廟

祠自から開いて神休飛行し、當社の紅梅の樹頭に留まりしを、貴賤奇様の思ひをなして、此に神殿を造營せしなりと云ひ、一説には當社は元と鹽穴郷淡村にありし故、鹽穴天神と稱し、中古今の所に勧請せし者にして、鹽穴は菅家の祖天忍穗耳命已來の舊領なるを以て、即ち天穗日命の神廟に菅公を合祠せし者なりともいひます。然して本殿は兵燹に罹り、燒燼せしが明暦三年北の庄、即ち北部の産神として造營せしものであります。明治三十五年本殿及び階宇に大修繕を加へ、盛大なる一千年歳を舉行せり。朱の樓門は親我として峙ち、本社の前へ兩側にて白太夫社紅梅社神樂殿あり。後方には、伊勢兩宮及び末社數多并び、左の空地には小西行長朝鮮より持歸りしと俗傳する老松。右方には壇を築き、兩宮遙拜所に當て、聚樂館、連歌所等完備し、社務所の前乃ち琴平神社の後ろに於て、石の鳥居に塙を築き其内に大神向影、梅樹の上に顯れしと云ふ、有名な老梅があります。建築皆な壯麗にして、本殿の如きは、金箔燦然として耀てあります。庭園の泉石切みに造られて優美です。其傍らに和泉式部の祠があります。境内廣ふして茶店多く設けられ、寄せ席には興行常に絶へず、又參詣人は甚だ多くして、般ひます。蓋し如斯は天神社として全國に有數のものでしょう。神祭は七月十五日を夏祭りとし九月十五日を秋祭と唱へ、此日には御渡りあつて、市中は勿論近

隣の郡村より群衆致し、雑踏を極めるのです。例祭は毎月二十五日であり、  
 寶物の内尤も秀でたるものを果ぐれば、

菅家御傳記 (後西院皇女隆慶理豐御筆)

菅公水鏡像 (菅公自筆と傳ふ)

菅公像梅櫻畫讃 (菅公自筆とし、高辻大納言繪札添)

菅公像 (菅公筆土佐光起繪札添)

全 上 (後土御門院天皇勅讃土佐光信畫)

全 上 (土佐光起筆)

全 上 (土佐家筆牡丹花の讃)

飾太刀 (備州長船忠光作)

全 上 (國重作)

術府太刀 (景依作)

削 (村正作)

削 (堺名工殿安作)

壹 壹 壹 壹 壹 壹 壹 壹 貳 一 壹  
 口 口 口 口 口 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅



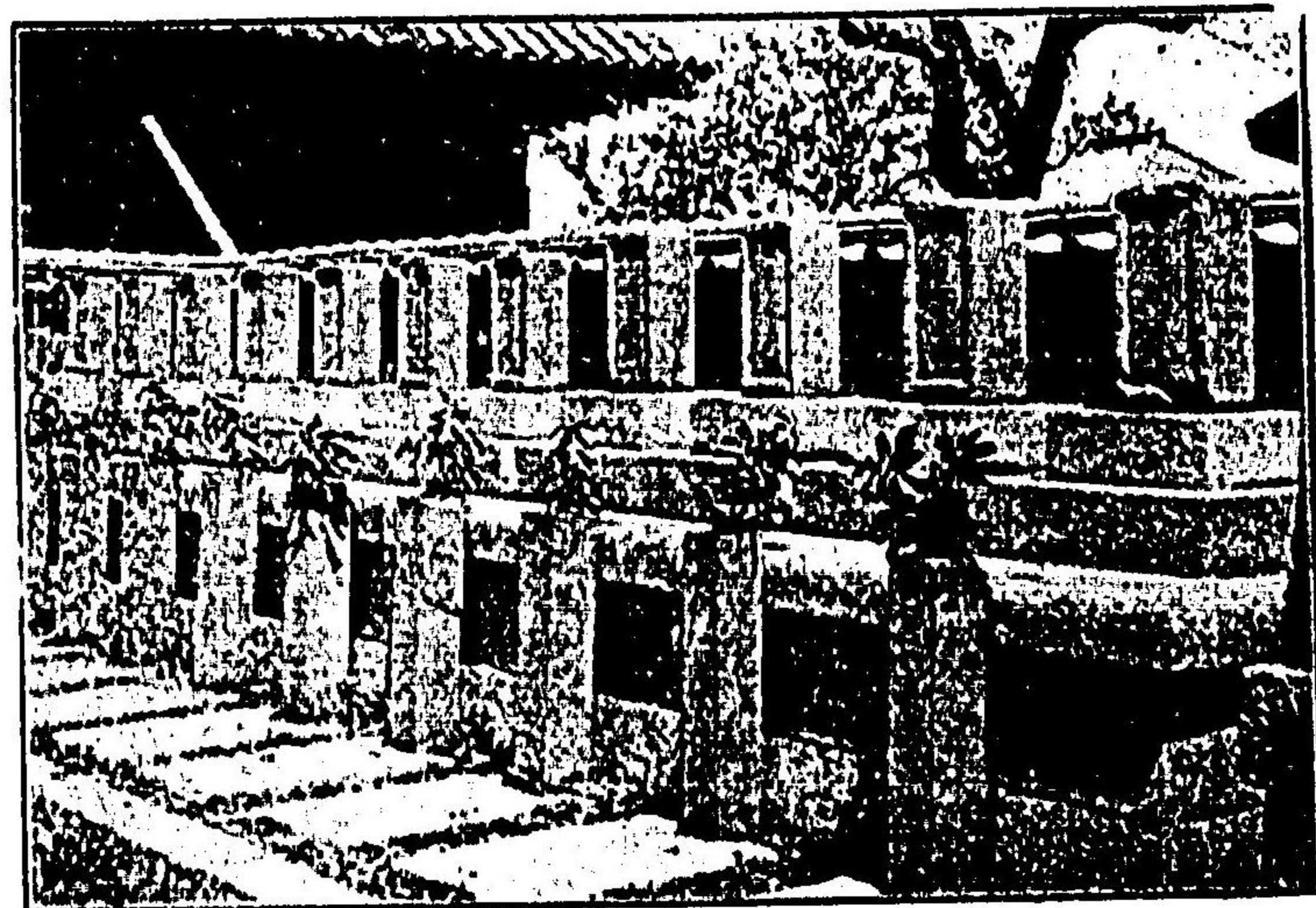
社 神 我 嶋 我



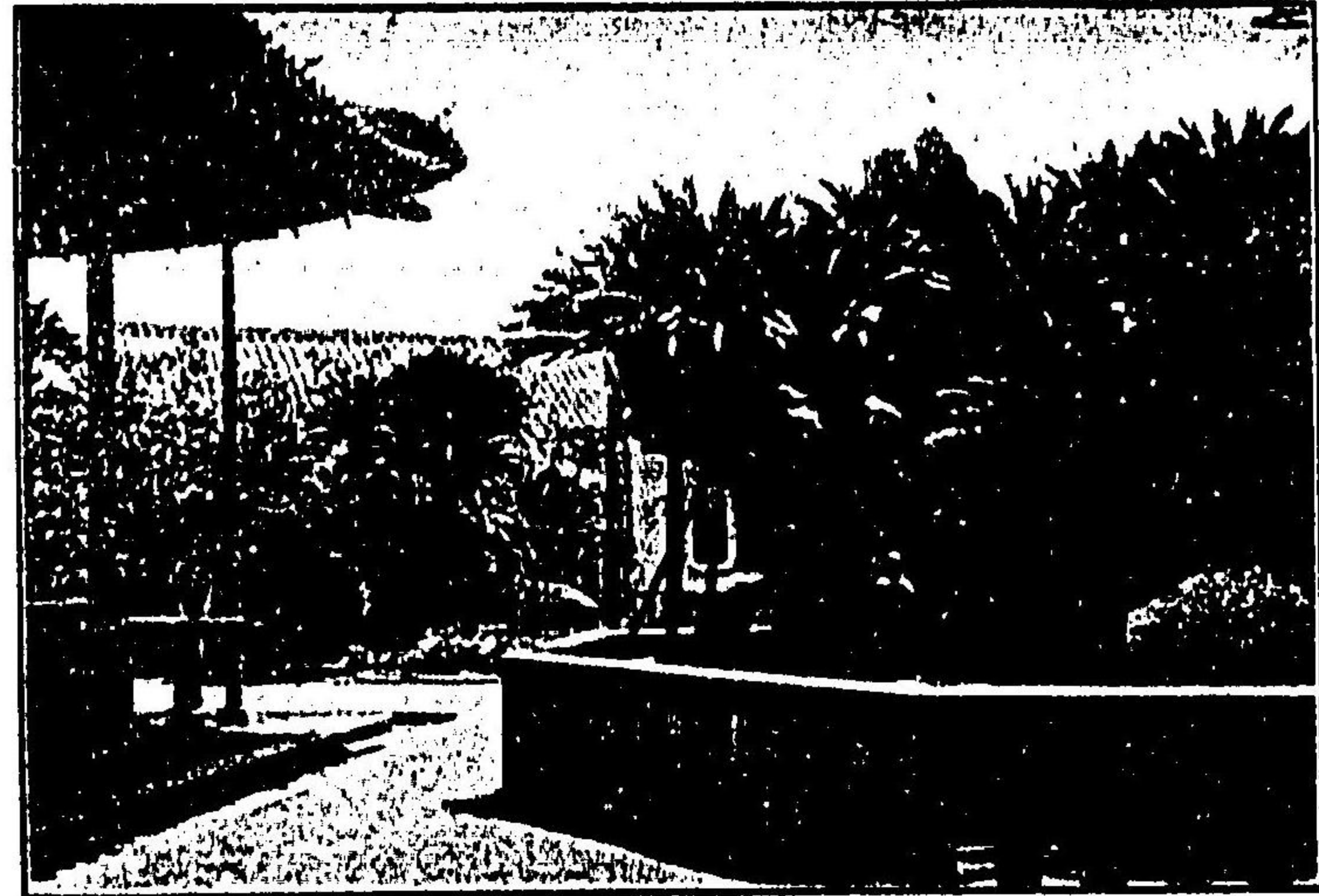
荷 稻 須 高



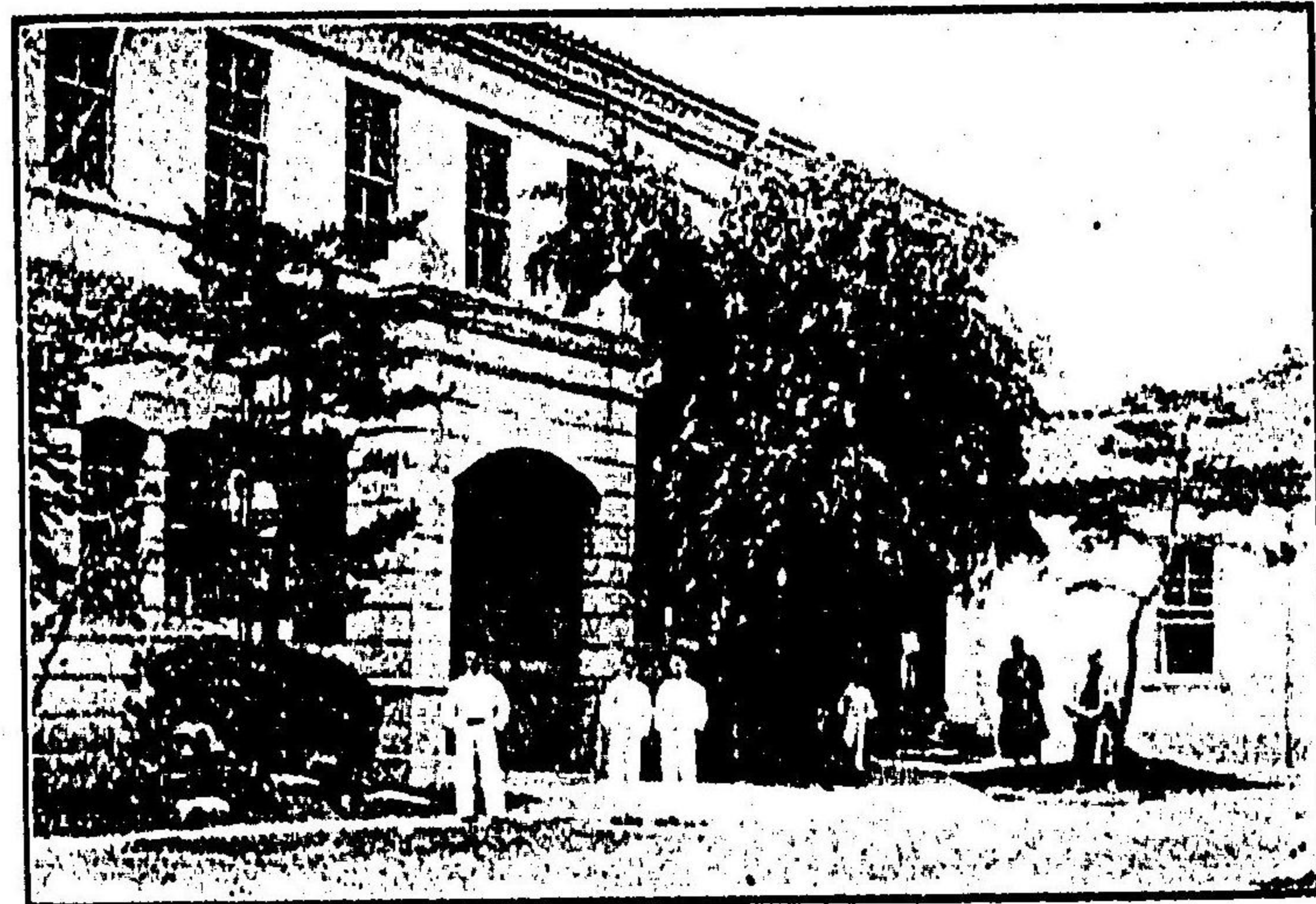
院 別 寺 願 本 西



墓 / 土 湍 佐 土

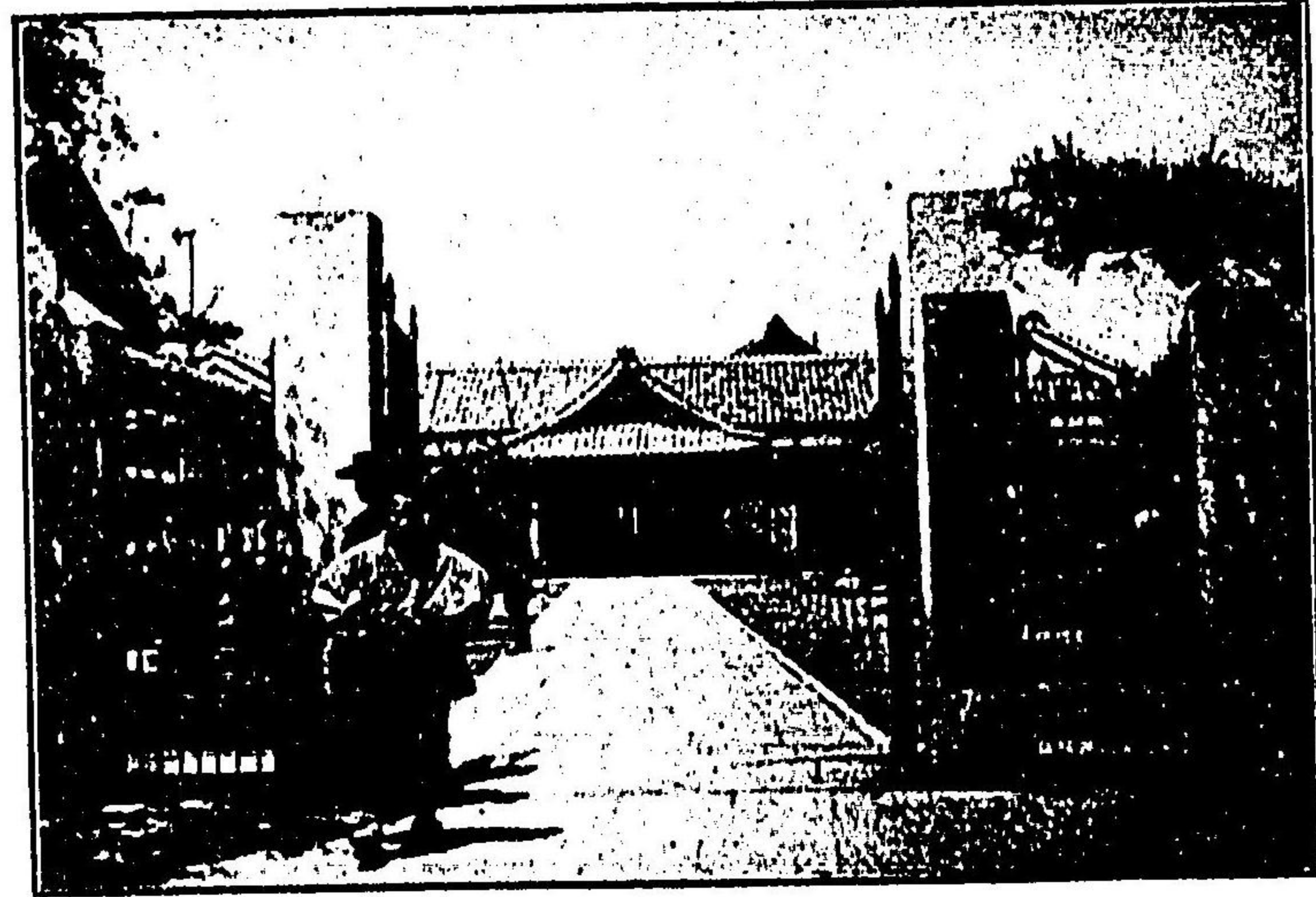


寺 國 妙

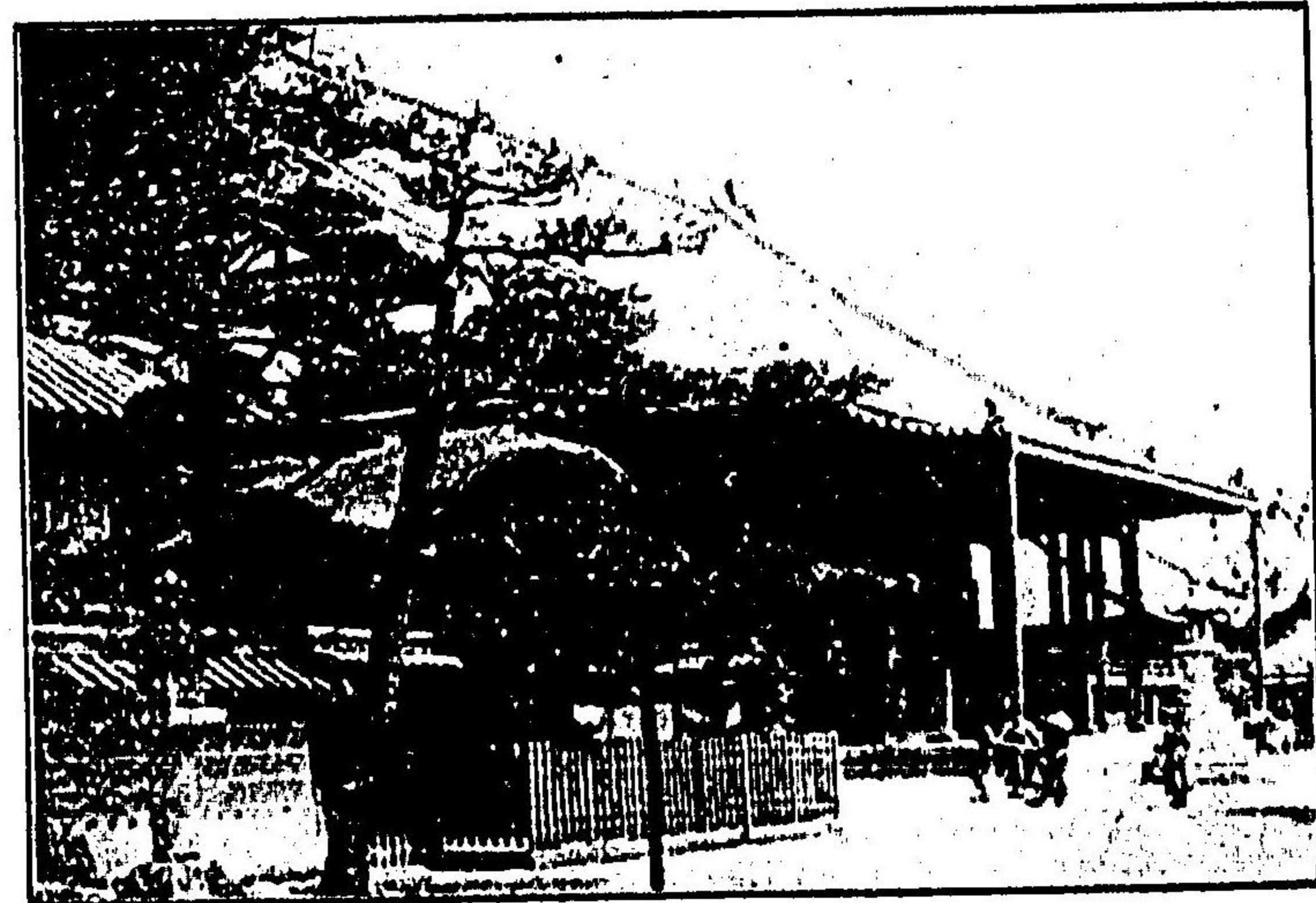


所 役 市

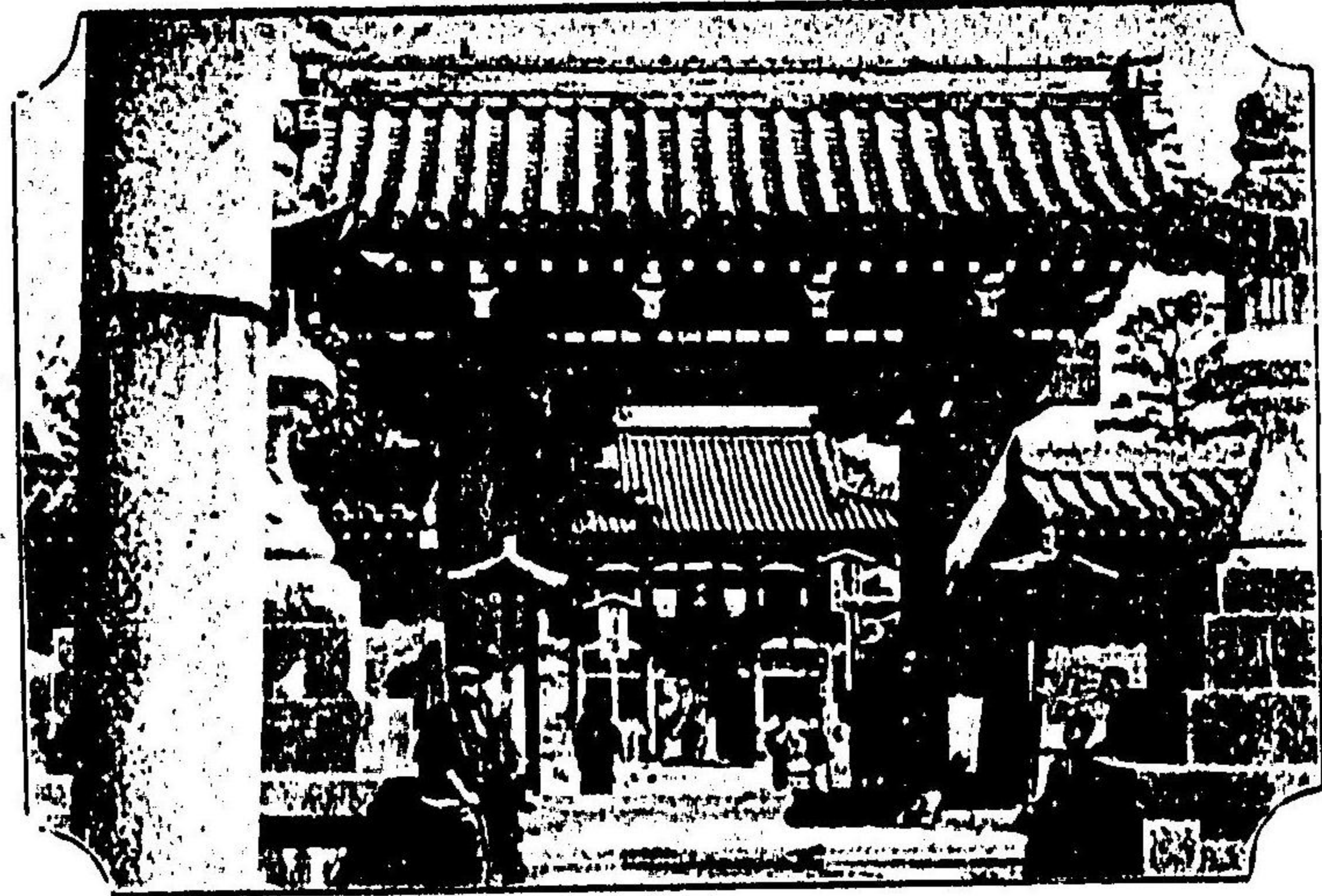




所 判 裁 區 堺



院 別 寺 願 本 東



菅 原 神 社



大 小 路 市 街

尾田松壽堂



商

登

標

錄

線香 炷香 問屋

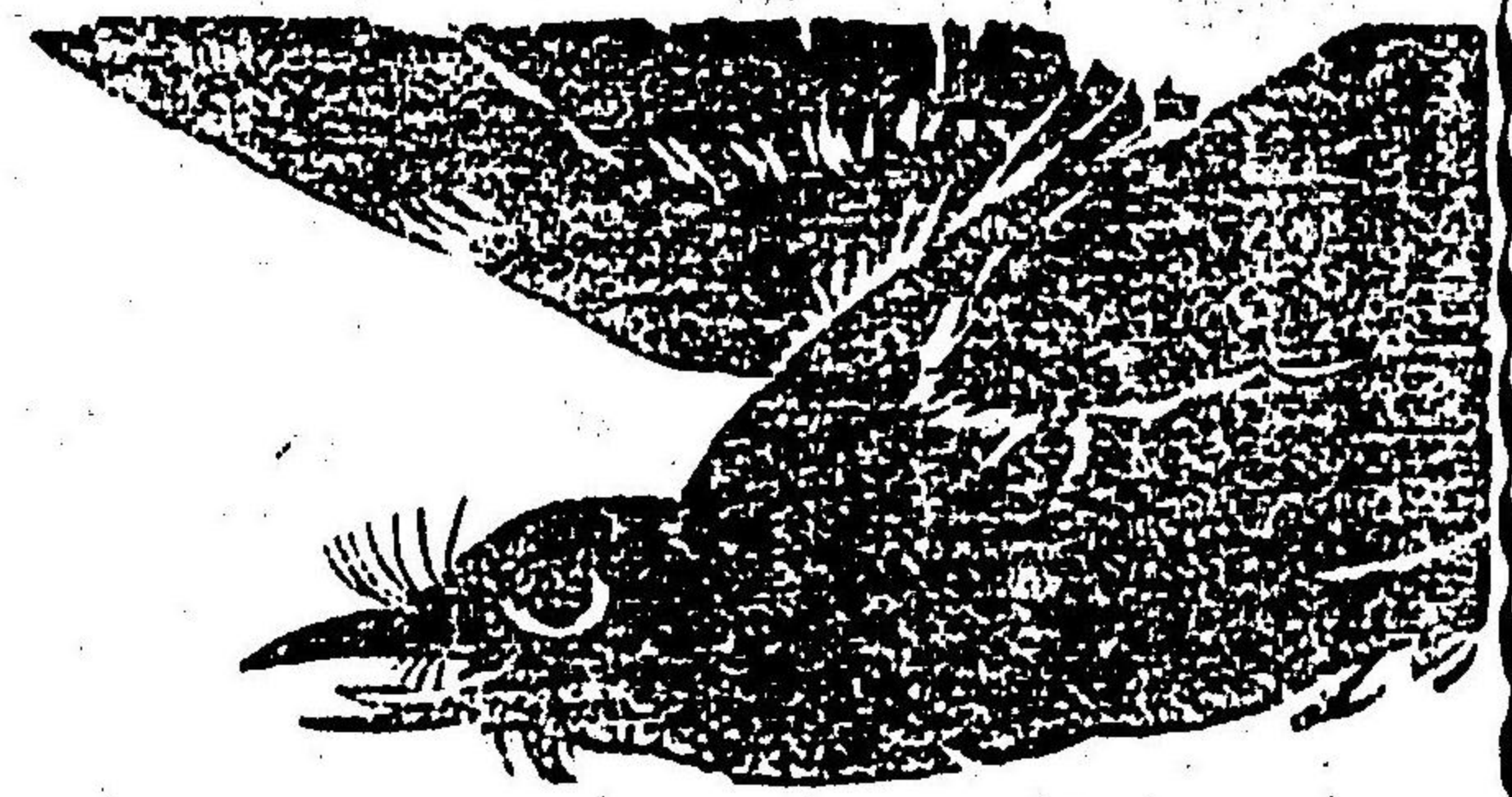
沈香屋八兵衛

弊堂祖先ハ永正年  
間ニ創業シ現代ニ  
至リ十五世引續キ  
營業シ來リ日ニ月  
ニ繁榮ニ越クハ是  
レ全ク弊堂製品ノ  
篤實佳品ヲ製出ス  
ルニ依ルト雖モ亦  
愛顧諸君ノ御引立  
ニ外ナラント深ク  
奉禮謝候

伽羅 沈香 白檀 麝香 龍腦 化粧品 香料

堺市神明町大道

電話六百五拾番



# 御料理兼旅館

堺市大濱公園地

一力樓

本店

特電話百拾貳番

堺市大濱通四丁(公園入口)

一力樓

岡店

水族館敷地内

一力樓

出張店

泉州濱寺公園地

一力樓

支店

特電話百拾四番

同公園地内

一力樓

支店  
岡店

# 御料理兼旅館

堺市大濱公園地

# 海樓

特電話貳番



文

(營業) 會席料理 金四拾錢ヨリ 宿泊料 金六拾錢  
(案内) 信支辨當 金拾五錢 總テ安價ヲ旨トス

堺濱北公園地

御料館 兼 旅館

枯波樓

電話二百三十三番

弊樓ノ地位ハ四圍海面ニシテ風色ノ佳ナルヲ諸學校生徒休憩場ニ適スルヲ

堺濱北公園地

一望千里 風景絕佳

望遠閣

通券一人三錢

〔案内〕 各階上ニハ泉州名所ノ寫真配列 其他嶄新妙味ノ趣向種々

# 御料理兼旅館

堺市大濱公園地

三樓本店

電話百三拾貳番

堺市大濱公園地

南三温泉館

電話百七拾五番

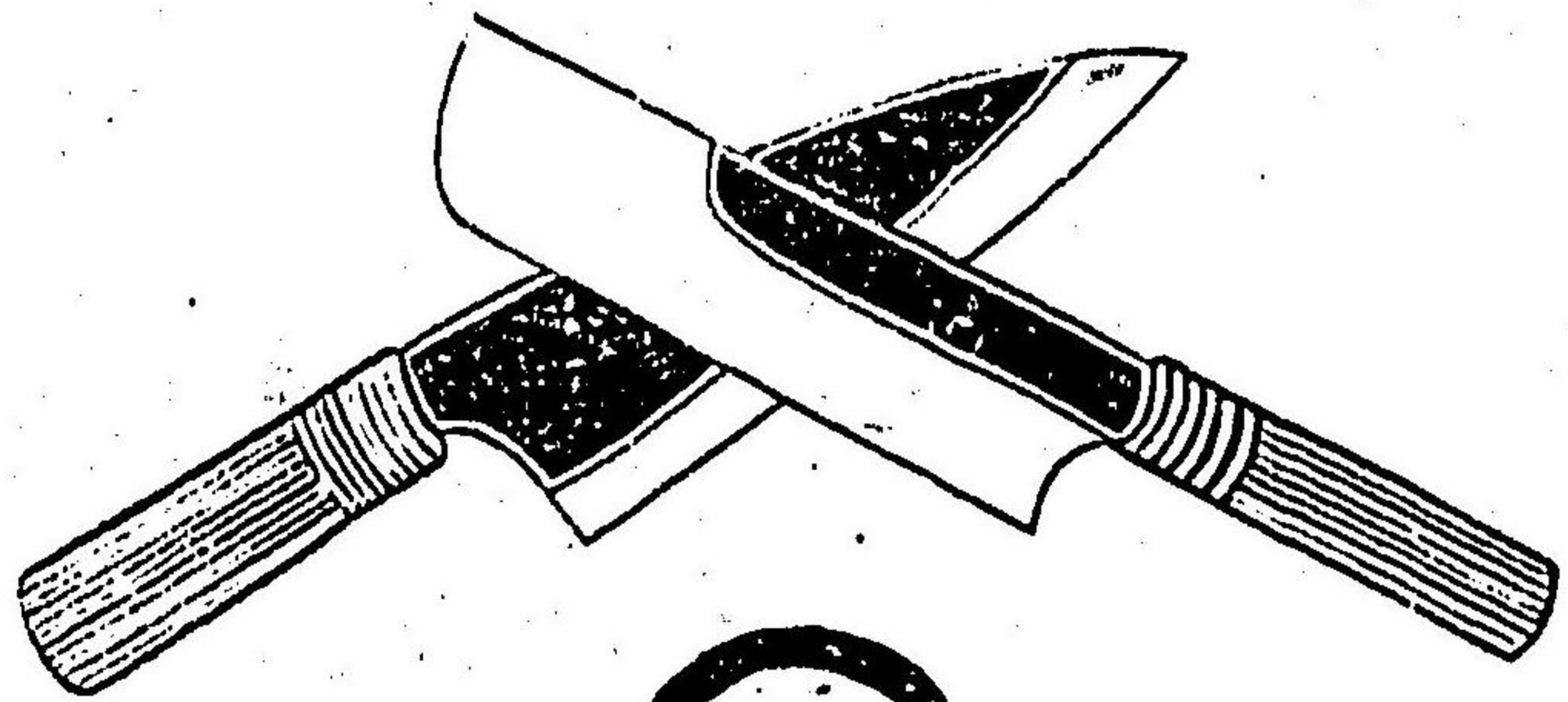


特別御引立ヲ奉願工候  
 電話百五十一番  
 堺市  
 耳卯樓  
 御料理兼旅館

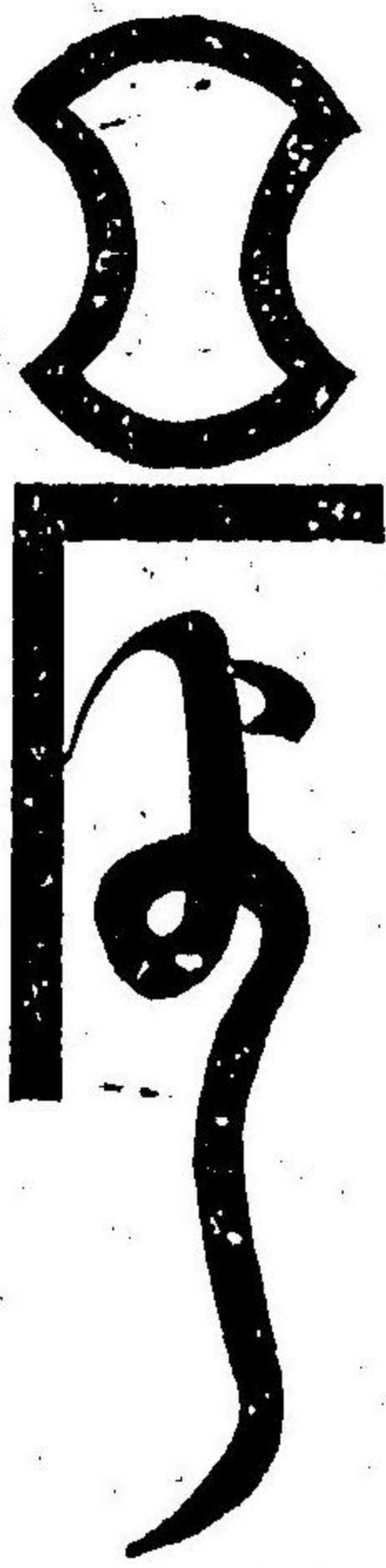
大阪府堺市大町

酒井包義本店

電話二百二十二番



有權



商標

大阪市京町橋西詰

酒井支店

電話西八百五十五番

東京市南傳馬町二丁目

酒井刃物店

電話架設中

弊店ハ堺庖刀諸刃物及ビ舶來模造  
各種ナイフノ製造販賣人ナリ  
弊店ノ製品ハ原料ヲ精選シ其工チ  
選抜・製作ニハ最モ注意シ而カモ  
價格ハ低廉ナリ  
弊店ノ製品ハ内外各地博覽會ニ出  
品シ何レモ好評ヲ博シ就中金銀銅  
ノ賞牌ヲ受領セシ事實ニ二十有餘  
個ニ及ベリ  
定價表ノ送附ヲ望メル方ハ御照會  
次第直ニ送呈ス

藤野小學校

此の歌は、明治十年天宮本市へ行幸の際、視臨を辱ふし、生徒の授業を大覽あらせ  
られた。此の歌は、今に玉座の迹を保存し、留め置かす。海軍校舎前庭の翠の  
りて、美觀を添へまし。前庭庭園の中に並石の明治御徳碑が屹然樹つて居りま  
す。此より、丁南には間日神宮がありすが、夫れは跡とし願路として都外へ出でま  
し。即ち其町を東へ

高野鐵道線東停車場

此の歌方を北へ行ふまれば、右に右の鳥居を見ま。之れが名高ひ。

伊達神社

此の歌は、明治十年天宮本市へ行幸の際、視臨を辱ふし、生徒の授業を大覽あらせ  
られた。此の歌は、今に玉座の迹を保存し、留め置かす。海軍校舎前庭の翠の  
りて、美觀を添へまし。前庭庭園の中に並石の明治御徳碑が屹然樹つて居りま  
す。此より、丁南には間日神宮がありすが、夫れは跡とし願路として都外へ出でま  
し。即ち其町を東へ

### 熊野小學校

此の學校は、明治十年天皇本市へ行幸の際、親臨を辱ふし、生徒の授業を天覽あらせられた、歴史がありまして、今に玉座の迹を保存して居ります。近頃校舍新築の舉ありて、美觀をも添へまして、前庭園の中に花崗石の明治頌徳碑が屹然樹つて居ります。此より一丁南には開口神社がありますが、夫れは跡とし順路として郊外へ出でましよう。即ち此町を東へ

### 高野鐵道堺東停車場

此の前方を北へ行きますれば、右に石の鳥居を見ます。之れが名高ひ、

### 方違神社

で。此地一帯が即ち攝河泉の堺に當り、三國の丘、又は三國の衝とも云ひます。昔時僧行基が此辻に伏屋を設け旅人の休憩に供したので、人馬往來の要衝でした。而して三國山の歌が萬葉集にも載てありますが、此の歌が側邊の石に刻してあります。神功



皇後の三韓征討の時、天神地祇三千七百五十餘座を勧請し、就中住吉の御神を魁將とし、遂に易易征平の功を奏し、凱旋の後五月晦日葦の葉を以て、壺を包み、方違の稜をなして後、今の住吉に鎮座なされられた、後世方違の災ひを除かん爲め、此地に神靈を留めて、方違神社と祭つたのです。祭神は神功皇后でありまして、社殿壯麗、境域高丘にあるので、市の全景は一眸に集まり、茅海の半面を眼下に眺め、風景絶妙です、且つ花木植へられて茶店の設けありて、休息放陣の便に供してあります。世人家土藏を建るときは、或ひは住居を轉ずる時は、此社に参詣して除厄の神符、葦の粽を受くるを例といたし、陸續として参詣者があります、中にも節分には忽ち群衆雜踏の巷と化しまして、住吉善彦子に續いて繁昌いたし、春秋などは野遊の客杖を曳き賑ひます。末社は八幡宮であります。

尙ほ一寸書き加へ置きますが、元と茲の處に、向泉寺と云ふ天平年中、行基僧正が精舎を營み、鞍作鳥佛師をして千手觀音を作らしめて、木尊とし、講堂塔塔鐘樓等巍々として峙ち、之れよりかの方違の神符を發行した、人口に能く膾炙せる著名の寺院がありました、惜哉、永正年中の兵火に罹り、其後市内へ移し、今市の町東五丁にあります。夫れより東一丁、

### 牛頭天王の森

と云ふのがあります、一名東原社と云ひ、中央は素盞鳴尊、左東原明神即王仁、右鬼道稚郎子命、の三社でありまして、王仁は百濟の人、應神天皇十六年來朝し、鬼道稚郎子命之れに師事され大ひに我國の文化を授けたことは、皆人の知る處です。境域は實に幽閑ですが、春陽燦爛たる頃には、青色園草に漲り、櫻梅時を得顔に社頭を飾り、野花之れを色どり、香世界を現出します故、堺第一の觀花の場處で、提籃を携へ、氈布を延べ、之れを消賞する人多く、菫月にも頗る妙です。祠宇も方違ひ社に譲りません。夫れより西南の方一丁に、

### 百舌耳原御陵

は、反正天皇の御陵でござりまして、此邊に三つの陵があります、大仙陵を中とし、此陵を北の陵と云ひます、周圍三百五十餘間、参拜所は南方に設けられてあり、丘上には古松老楓枝を交へ、繞らすに池水を以てし、波上鱗を漂し、無數の鳧鶴、悠々自如として浮泳するの狀、風韻颯爽として來り、外圍は稚松櫻樹相點接して、四邊の眺

望も極めて佳景です。其南側に、

### 天王山紅谷庵

は、禪寺です。往昔本市の豪商紅谷某の別荘として。其後有名なる牡丹花宵柏、晩年此處に住居して、大永七年に死没し、其遺骸は南宗寺に葬り、後宵柏の持佛を安置して、佛殿といひ、追福を營むと同時に、偉人の遺跡を存したのです。當庵に門人下田谷家柳が畫いた宵柏の像があります。又堂後に再建の願主環溪禪師の塔があります。近年堂宇廢替してありたのを、有志者修繕を加へたのです。風色も佳妙です。此庵元を園淨隔塵の場所を撰んで、設けられたのですが、今は中學校真向ひに峙立し、咄咄の聲を聞きます。之れより南方十四五丁、青々たる波狀の丘陵崛起するを見まする。之れを。

### 大仙陵

といひ、則ち仁徳天皇の御陵であります。参拜所は南方に設けられてあります。外圍の堤は千二百八十餘間、中央は二つの峯をなして、富士形に起伏し、一面に鬱々たる

松樹密生し、周池は二重に繞りて、江漢として湖の如く、金波星を輝めかして、蒼々たる綠翠と相映じ、満日肅然、大御前に傾つさずれば、威極まつて涙墮つるものがあります。畏くも帝が在位に於ける大御心、大御績に想ひ至りましては、敬虔の念うたい禁じ得ませぬのは其處です。亦た此地を百舌耳原と申しますのは、帝が六十七年冬十月、河内國石津の原に行幸あつて、陵地を定め給ふ時、鹿野中より馳せ來りて忽ち仆れし故、人々之れを怪み痕を探るに、百舌鳥耳の中より飛び去りた、故に其所を百舌鳥耳原と云ふと、日本記に見えます。而して其封域の廣さごと、殆んど無比でしょう。尙ほ前面の近傍には、九つの倍塚が點々と散在してありて、愈増し古をしのばれ尊嚴を加へます。夫れより五丁に

### 万代幡宮

古へは此邊を土師の郷と稱し、近在に野見宿禰の居所なりし土師村があります。百舌鳥、毛受、など、書しけるが、今は万代と云ひます。祭神、中央は應神天皇、左住吉、右春日、神功皇后、を併祠いたし、欽明天皇勅命にて此處に造營せられ、今は當村生産神として、世に名著るしき神社です。本殿、繪馬堂、御供所、等整然と存在し。前

面の低地には池を穿ち蓮花を植へ、中洲に辨天社が祭りてありて、社祠の家も残つて  
ありますから、境内常に清麗です。境域も甚だ廣大で、喬木森々と生茂り、日光を遮  
り、夏尚ほ涼冷の氣を卓め、幾階の石段は苔に蒸され、神殿の尊嚴と共に、古色振々  
たりと云ふべきです。昔し仁徳天皇此地に於て、初めて鷹を得て酒の君に餉はしめら  
れしが、是れが鷹匠の始まりです。當社の祭禮は、舊曆八月十五日夜を以て執行され  
る、舊式ですから、明月の節に當りまして、夕刻から社頭さして、老幼蟻集いたし、  
道路多くの燈を點じ、又篝を焚き、露店洋山並んで物を鬻ぎ、實に熱鬧を極めます。  
月輪皎々中天に懸る頃より、觀月の遊が開かれ、宴飲が始まるので、歡聲喧嘩徹夜全  
山を振動いたし、實に莊觀を極め、東天紅を潮し即ち止むので、如期は甚だ稀れで  
す。此れより凡十丁

履中天皇

百舌鳥耳原南の陵は、周地の堤八百八十三間、山の根廻り六百三十六間、南峯高さ十  
四間、北の峯高さ十六間、頂上に數株の老樹があり、俗に之れを摺鉢山とも云ひます  
是れより再び西に向へば市の南端大道筋に架せる小林寺橋の付近に

乳守の遊廓

があります、こゝは住吉の社領に屬しまして、名高き傾城廓でありました。故に住吉  
御田植の神事には此地の遊女近頃まで祭式を勤めました之も廢され。今は昔に比す  
べくもありませんが、紅屋番樓軒を並べ、絃歌の聲を絶ちません、花の曙には遠山の  
眉艶やかに、月の夕には蘭麝の香濃やかにして、一笑千金酒池肉林の快樂は、今でも  
随分取ることが出來ます、往にし頃遊女の請みける。

男なき粧さめはこわい蚊帳かな

咲花

此東に、

臨江庵

往古は南宗寺の塔中であつたのです。今は境内の空地萩の名稱となりまして、花の時  
分には、紫雲を以て一面に覆はれます故、遊覽の客が多くあります。北門側に乳守明  
神が祭つてあつて、乳無き婦人は參詣して利益が著しとて、特の外持で嘲されす。  
口碑には住吉の乳母此邊より出た故乳守の名あり。此神は之を祭る者にて、其後楠氏

より乳貰ひの祈願ありて、利益を現じ、非背面の空地に乳母の碑を存すと。蓋し其空地は元此庵内の庭園にして、東方は南宗寺其中間の低地は蓮池でありました。此庵前を北へ一直線の行當りを右へ廻れば、即ち南旅籠町東三丁に一大佛刹是です。

龍興山南宗寺

宗門は禪宗、京都紫野大徳寺派に屬す、開基は大林和尚で、弘治二年三好長慶の建立初め長慶和尚を庵居に調して傾心渴仰の念を起し、自から檢校して建立の工事を督し全三年佛殿、法堂、禪堂、七厨堂、鐘樓、經藏、山門、惣門、九十二間の廻廊、百八軒の塔頭、衆寮、寶殿、方丈、小方丈、庫裡、浴室、大書院、小書院、對面所、知客寮、施藥所、渡御門、花月亭、等堂々々として堂宇残りなく落成し。先公贈正二位右大將南宗院殿筑前守三好元長の功德所となし、大臣公卿も來興して盛大なる供養を舉行し、元正元年寺格を禪院十刹の位に準せらる。然るに翌全二年松永久秀、此地に亂入し黄金の佛像を奪ひ火を放て其半面を燒燼せり。元和元年再び兵燹に罹りしが、中興の祖澤庵和尚之を建立し、侯伯勳力之を助け徳川氏よりも税田を與へられたが、寺域六千五百坪あり。佛殿は大雄寶殿と稱し額は清嚴和尚の筆、本尊中央釋加佛、左文殊、右普賢、天井には

龍の圖狩野信政の筆。照堂の額は曹溪と書せり澤庵和尚の筆、其左楹は將軍家自國初代々の位牌を安置し、中央は普通國師、右楹は澤庵和尚なり。鐘樓の額は坐雲亭とあり天室和尚の筆。方丈の額は唐人にて東波なりと云ひしが、明治初年の混雜の際紛失せり。此處に中央釋迦佛、左右、厨子入りの唐金の毘沙門に弘法作辨天が安じてあり、この厨子青貝入りにて名品、釋迦佛と共に國寶に登錄してあります。浴室の額は澤庵和尚の筆、山門には甘露門と額し玉室和尚の筆。客殿の額は全筆にして、襖は狩野秀信の筆。影堂には舊堺の刺史喜多見忠勝花林居士の石碑。惣門の額は龍興山と書し、江雪和尚の筆、寺内には牡丹花青柏の塔、一閑齋紹歐の塔あり、此石塔に耳を當つれば湯の沁る音聞ゆと云ひ、千の利休の塔あり是は千家歴代の假墓で下に利休の頭髪が埋めらるゝと云ふ、趙陶齋の塔、其他有名なる人々の墓が夥多あります。庭前は古田織部の好み、正面の石橋は唐土の潮信橋を形どりまして、石を安排して流を造りてあります。名人の作丈あつて功緻精妙を弄した跡はありますが、三百餘年の星霜と共に大なる變化を來し、樹木老大、深山邃林の趣をなし氣韻、雄偉遠く塵世を隔て天界を視るの觀がありませす、亦北の隅には寶相庵と云ひ利休の茶室があります。此れは元と拙穴寺に在つたのを明治十一年此寺にて博覽會を開設のとき有志が爰に移したるもの

で、庭の廻りも全寺のです。壁其他總てが古來のまゝですから煤色に燻りてゐます。此室が二疊臺目の起源であるといひます。床の落しがけは弘法大師の筆にて、卒塔婆をそのまゝ用ひたるものでありますが、字体が明に存して居ます。爐は釜ずりと稱して一種奇妙な式になつてあります。庭前には袈裟形の平水鉢と云ふて、利休の好み石燈籠は向泉寺より傳來の六地藏形と稱するものです。妙國寺にも全式の者があります。ことは、其部にて御話し致して置きました。此庭の者殊に著名です。其室の造作の形狀庭園の有様、實に敷奇を極め高雅にして、古色蕭然、神目爲に玲瓏、忽ち禪味を伴め風流を解するに足り、多少趣味を有する者は、所謂羽化登仙の想ひをなして、低徊去るに忍びぬ者がありましよう。只今は、此室維持の爲め當市の紳士が瓶花會と稱する社を組織し、月に一會づゝ此室にて茶會を催して居ります。元和九年徳川二代台徳、三代大猷、の兩公當山に來り、坐雲亭に昇り遠く西南の海色に連なる紀の海、阿波淡路の嶋山、北には須磨、赤石の佳景を眺望し、逍遙時を移され之れを賞せしことがありますが、今は樹木の枝葉に阻たり其眺はありません。而して該亭は只今大に壞破してありまして、其形のみ存してありますが、利休の茶室と共に當山の尤山緒を存する者であるから、其の保存に注意ありたいとの婆心を付て之れを實視の際全寺僧侶

に話しますと、今更ら之れを修造せば、返て新材目に立ち古色を害せん、腐朽のみを拒がば却て善からんと、云ひました。實に其邊もありませぬ。而して今こゝに、二將軍が一時此寺へ來遊せりと云ふ事に付き、端なく或る説をより多く証據立つる處の怪異不思議の無名の墓と云があります。然かも其墓は照堂又開山堂と云ひて、重要な殿堂の床下に存在して居まして、其裏手へ廻れば老杉空を摩し朽葉地を掩ふの處、俯して之れを諦視しますと、暗黒の中に石の塔が樹つてをりまして、鬼氣人に迫るのです。斯く述べ來りますと、大抵或る説と云ふ事柄は推察が出来ます通り、徳川家康公が大坂と對陣の時、眞田幸村の奇計に陥り、即ち平野の燒討にもろくも敗を取り、罪を指して逃げ來る途中、敵の爲めに襲撃され、後藤が一槍の元に重傷を負ひ、遂に落命と相成り、此處に竊かに葬りしなりと云ひ、偕てこそ將軍等の來興は純單なる遊覽に非ずして、親しく追吊の爲なりしといふに在りますが、尙ほ其上、將軍家の代々は、當寺を格別に優待したる形跡は歴々數ふべく、且つ又た家康公が辛くも匿隠して首を敵に委せざりし故跡として、將軍小路などの名當市に残りて有ます。誰か知らん天下莊觀眩曜を極たる日光山の奥の院の、其本元は、此暗澹たる石卵塔其者ならんとは。尤も當時關東の勢力強大で、天下を以て大阪一孤城に對すると全様にて、老翁にして

知謀に長け、百戦を経たる全公は、さるべき不覺は無からんと云ふもあり、亦た戦ひは凶事なり、此れを以て一概にも断定しがたしと云ふもありますが、さりとて寺にも如斯記録の存する等もなく、寺僧の口にもたしなむるを憚る事なれば、今日に於て尙ほ更ら研究の材料願滅して居りますれば、齋東野人の言と見るより外ありません。否々正史は嚴然と、其后長く家康公の存在を記載して居りますから、吾人は敢て之れを信せんと欲しますが、無名の墓として有名なる者で、怪異不可思議なる事は少しも滅しませぬから、此説と併せて案内して置きます。法會は舊曆二月十五日釋尊涅槃忌、四月八日の佛誕生日と四月十七日權現祭、十月五日達摩忌等除曆十二月廿二日釋尊成道忌です。此境内の東側に海會寺があります。

海會寺

宗門は禪宗にして、宿松山と號し、京都東福寺に屬し、開基は廣知國師正暦元年の創立にして元とは開口神社の西門の前にありまして、金龍水に付ても名高くあります。寺は元和の兵火にて同録の災に罹り、此處に移つたのです。其井に付ては其所在地に於て説述しませう。南宗寺の門を出て全し南旅籠町東全町、直ぐ東に一丁許りの所に

て

大安寺

禪宗にして京都東福寺派に屬します。開基は徳秀和尚應永元年の草創にして、納屋助左衛門の開山です。殿堂には聖觀音を安置す弘法大師の作と傳ふ、之れは火防の觀音として有名なる像です。抑も當寺は本市の人納屋助左衛門の居室にして、其書院に七寶を鍍め珍花を樹へ、利休の好に隨ひ善美を盡し榮華に耽りしが、松永久秀或る時入り來り、其缺るなき結構を見て曰く、物滿れば缺くる者なり、我れ卿が今日の境遇を見て必ず不測の災の依て生ずるを恐る、故に我れ爲めに之れを缺くべしと呼で、直ちに刃を抜て柱を斫る、其痕今に存してあります。其后助左衛門禪法に歸依し、書院を舉て當寺に密附し、佛殿としましたので、其上檀の間の壁は西湖の圖で狩野法眼元僧の筆。佛間及次の室の襖には、松藤の圖各四枚、猿猴の圖六枚、梅の圖四枚、鶴の圖八枚、腰高障子には草花の圖十二枚、猿猴の圖六枚、鶴圖二枚、皆は狩野永徳の筆中にも松の畫は永徳東園へ越く前畫さしが、途中にて松の天然を見て、其畫ける松が枝の足らざるを思ひ至り、尾州の鳴海より引き返して枝を畫き添へける故、枝添の松

とて特とに有名です。之れ等の襖は金泥の上に、採色にて名手の書きし者なれば、金色燦然眼を眩する許りです。什物の中には弘法大師筆曼陀羅二幅、獅の置物一個、以上は奥障子と共に國寶に登錄されし者。印度作の木造の達摩、全出山の釋迦の銅像、助左衛門の遺物として、呂宋の茶壺、蝋の香爐等は尤も優等であります。佛殿の庭には利休の好みたる虹の手水鉢。方丈の庭には利休の時雨の雨を呼んだと云ふ井戸があります。當寺は小寺でありますが、珍寶名具に富でいます。明治十年 天皇陛下當地行幸の際には、當寺を以て臨時立退き所を命せられたので、上檀の間へ御座を出來ました。尚ほ納屋助左衛門は呂宋助左衛門とも呼び、遠く南洋呂宋に涉り久しく彼地に止まり、歸朝の時には種々物品を秀吉に獻じて稱讃を博し又眞鍮等を持歸り大金を得た者で、此輩之一個は京都西本願寺にも残ると云ひます。船舶の完全ならざる時に於て、大膽にも風濤の危険を侵し、燒燬燻煙未知の城に身を没じ、如斯海外貿易を試みて富豪を致したのは、今日に在りても、尚ほ師表とするに足ると信じます故、一寸書き加へました。

鹽穴寺

は、新在家町にありまして、本尊は十一面觀世音、和銅年中元明帝の勅命に依りて創造せしものにして、佛像は當市の海中より靈顯に依り引上げたるを以て、蠟燭多く付着せりと云ひ、附近なる勢至塚も其寺内に在りしといへば、廣大なる境域なるを知るべく、殿堂も崇嚴なりしが、今は廢寺となれり。此寺は尤も古き尤も著名なる寺院なりしは、南宗寺の記にても想像し得られます。故に其大畧を記述し置きます。其近所なる。

少林寺

は、少林寺町東三丁にありまして、禪宗にて紫大德寺の末寺です。開基は桃源和尚で元徳年中檀家小林氏の建立、故に少林寺と云ひます。古へは北城廣ふして今の寺地町少林寺町一帯は皆此寺の境内でありましたから、各此寺に縁める町名が残っている譯けです。其後漸く衰替を來しました時分は、尚ほ両町の地子を收納して居りましたが遂に之れも廢され、再び今日の姿となつたのです。此寺中に通心靈詞とて稻荷明神を祭つる俗に釣狐社と云ふのがあります。之れは永徳年中塔中に住居しける白藏主と云へる僧、常に熱心なる稻荷の信仰家として、竹林より三足の白狐を得て愛養して居り

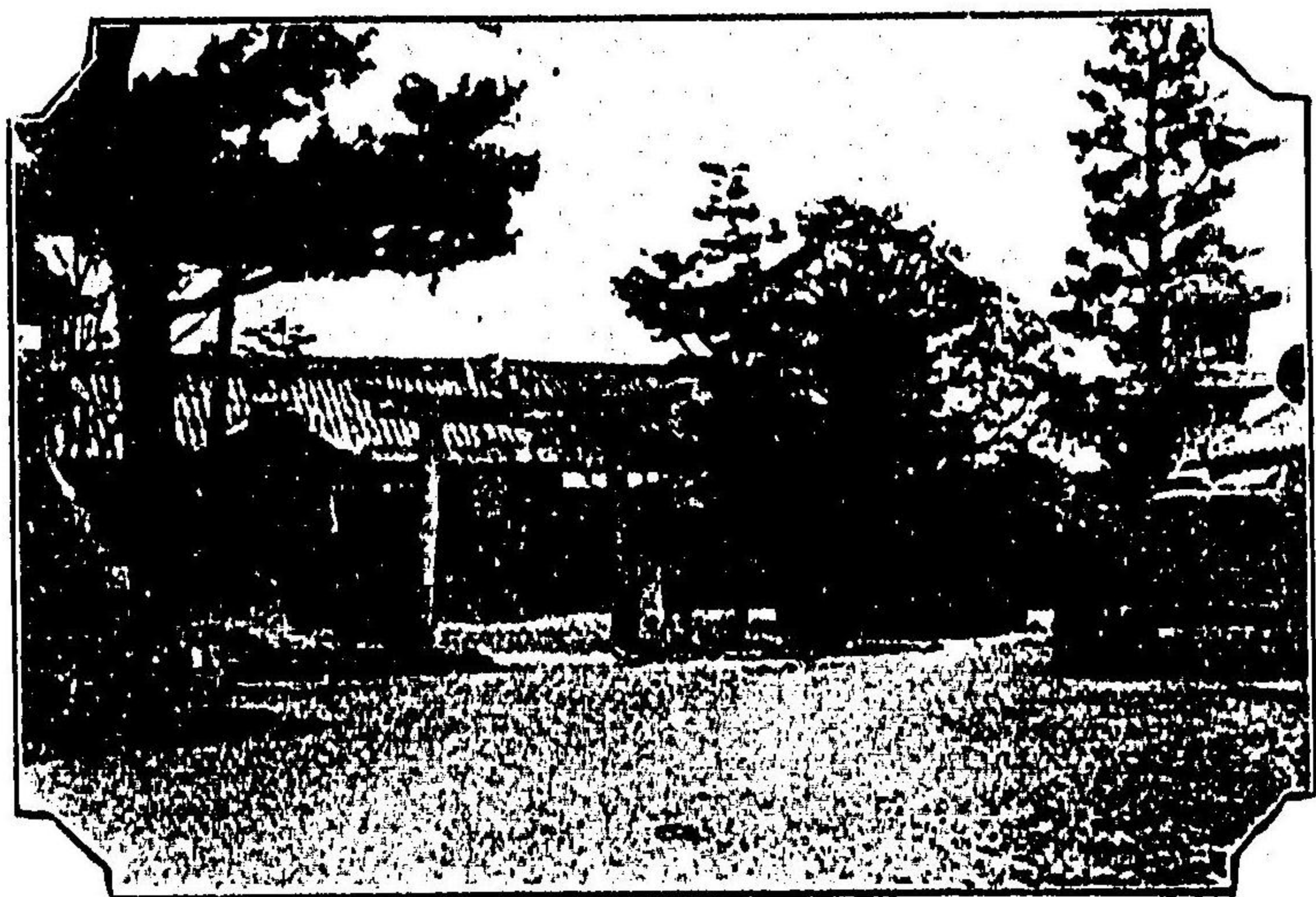
まじたが、此狐靈ありて種々の奇跡を順はし、享保十八年京都吉田家より此神號を興へられたのです。即ち現今狂言で演ずる釣狐は、此靈詞に因山するので、此狂言を初むるときは、先づ此寺に來つて白狐が棲みしと云ふ竹林の小篠を伐て、杖とするは實があるのです。今に此稻荷社は參詣人多くあります。此一丁北を少し東へ、

旭 遊 社

宗門は淨土宗、廬山派の一本寺鎮西流義にして澄圓上人の開基で、甘露山大阿彌陀經寺とも號します。花園帝文保元年上人佛經研究の爲め元國に渡航し、廬山の東林寺に於て、優曇禪師に師事し大いに得るところあり、總て二十七州を巡行して、元享元年に歸朝し、后ち後醍醐天皇の勅旨を以て廬山白蓮社に倣ひ、こゝに堂宇を建造したのであります。光明帝、後村上帝、南北兩朝の敬信厚く、菩薩號を許され税田を賜ひ、紫衣或ひは屢々震翰の下の辱ふし、亦た多種の書を著はし世に流行す。大伽藍殿門三十八宇、塔頭僧坊三十餘舎、淨土宗新進の一派として、隆昌を極め、其後豊田、徳川の朱印を得て、其雄大壯麗の美觀は、本市屈指の古刹でしたが、維新の際其維持の方途を誤り、法話の道場は裁判所と化すること十七年間、方大玄關等の堂宇を貫上と



熊野小學紀念碑

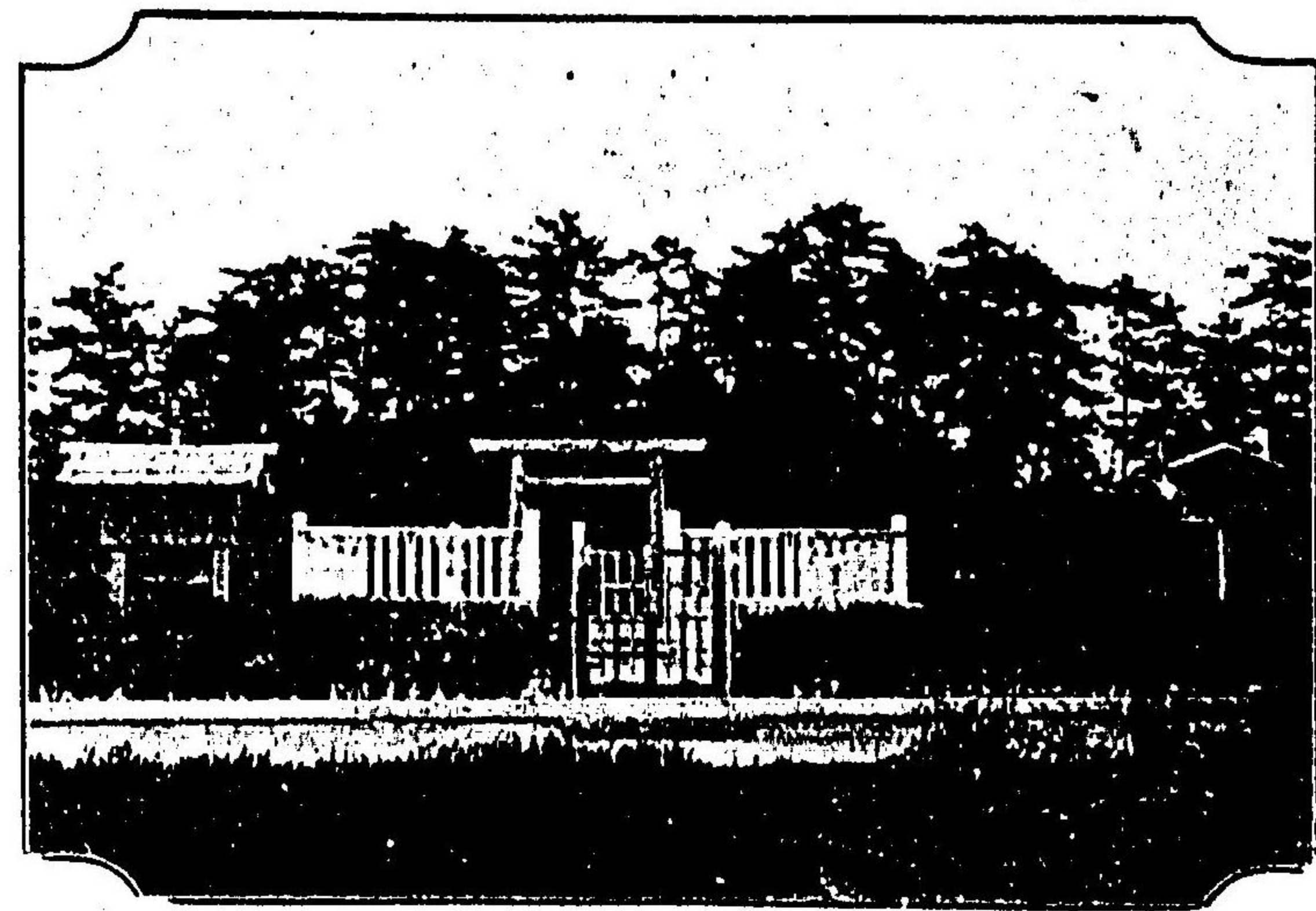


方 遊 神 社

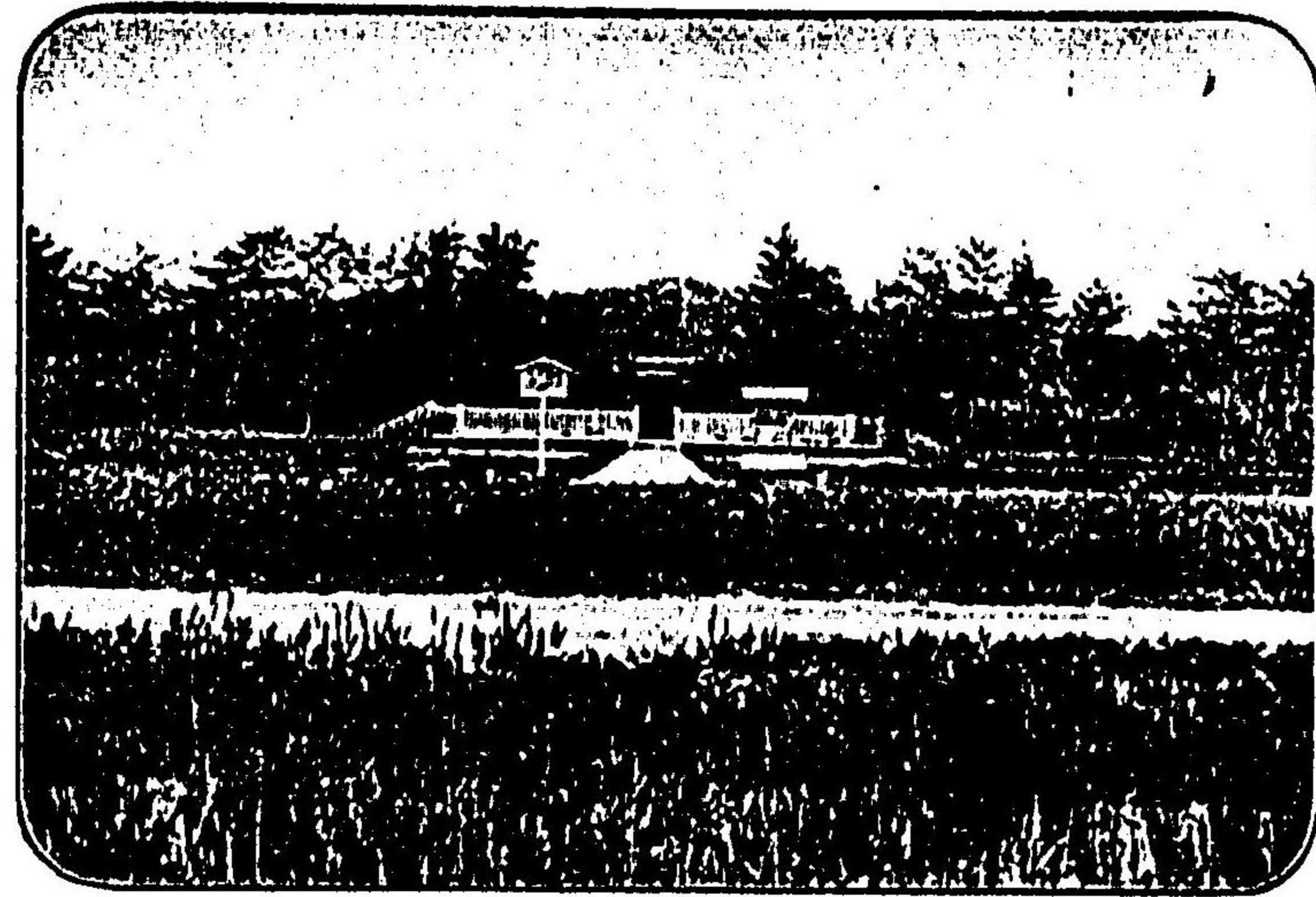




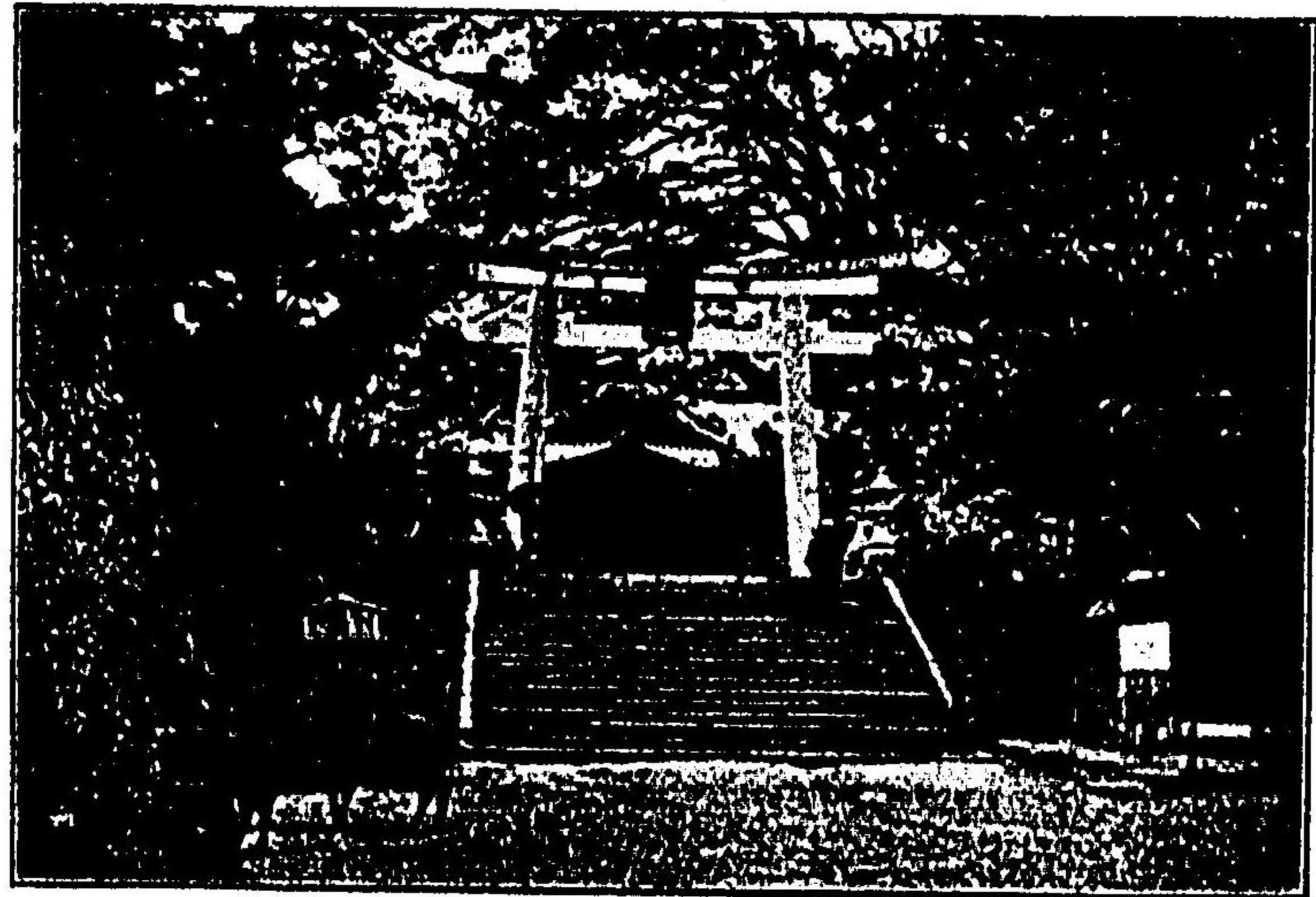
午 頭 天 王



反 正 天 皇 陵



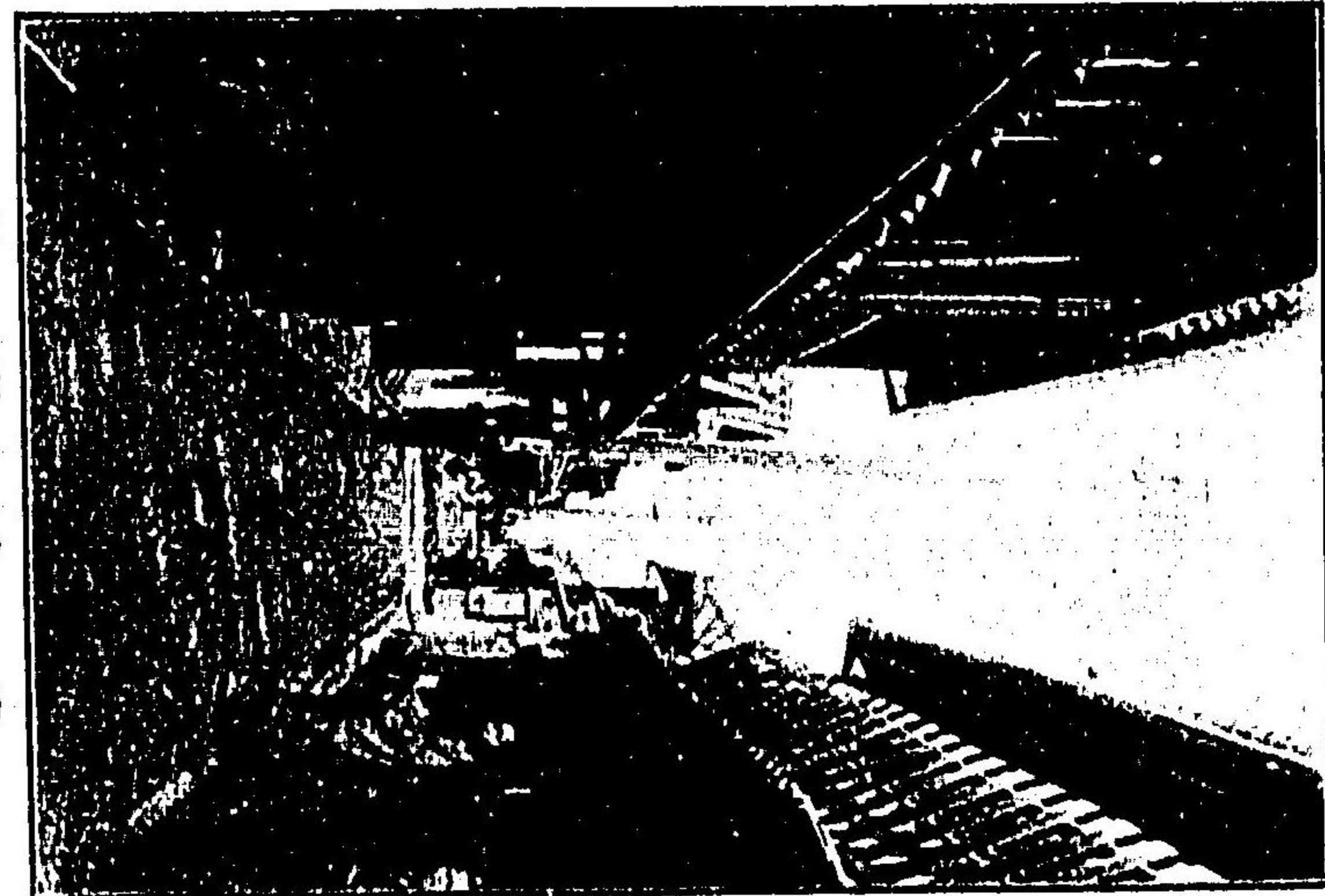
陵 皇 天 德 仁



宮 幡 八 代 万



陵 御 皇 天 中 履



廊 遊 守 乳



寺 宗 南



室 茶 休 利 內 寺 宗 南

農商務首登錄商標

優等日本酒



各國博覽會  
優等金獎牌

堺市寺地町西三

本店

益田嘉平

商號 阿波嘉

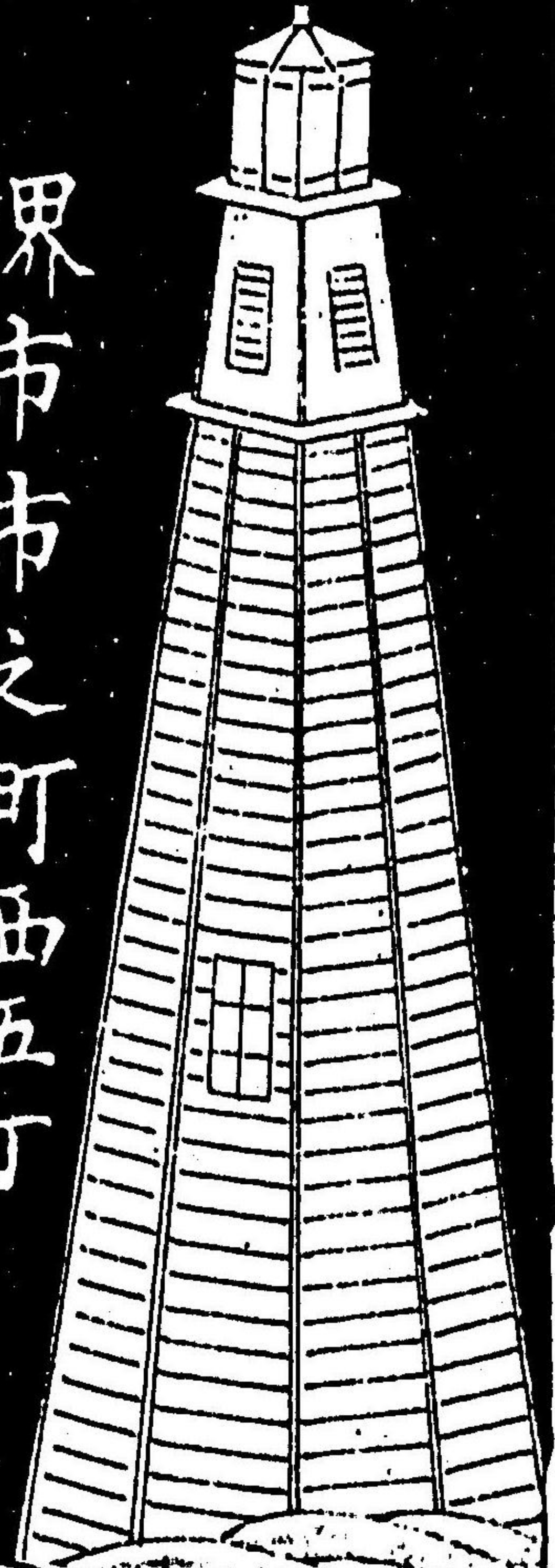
豐田十次郎

今在 西三町

及 同 豐 嘉 平

國內外國  
鹽問屋

商標 大正



堺市市之町西五丁

阪之上清三郎

電話持百五十二番

兵庫縣飾八木村

阪之上製塩場

平

盛



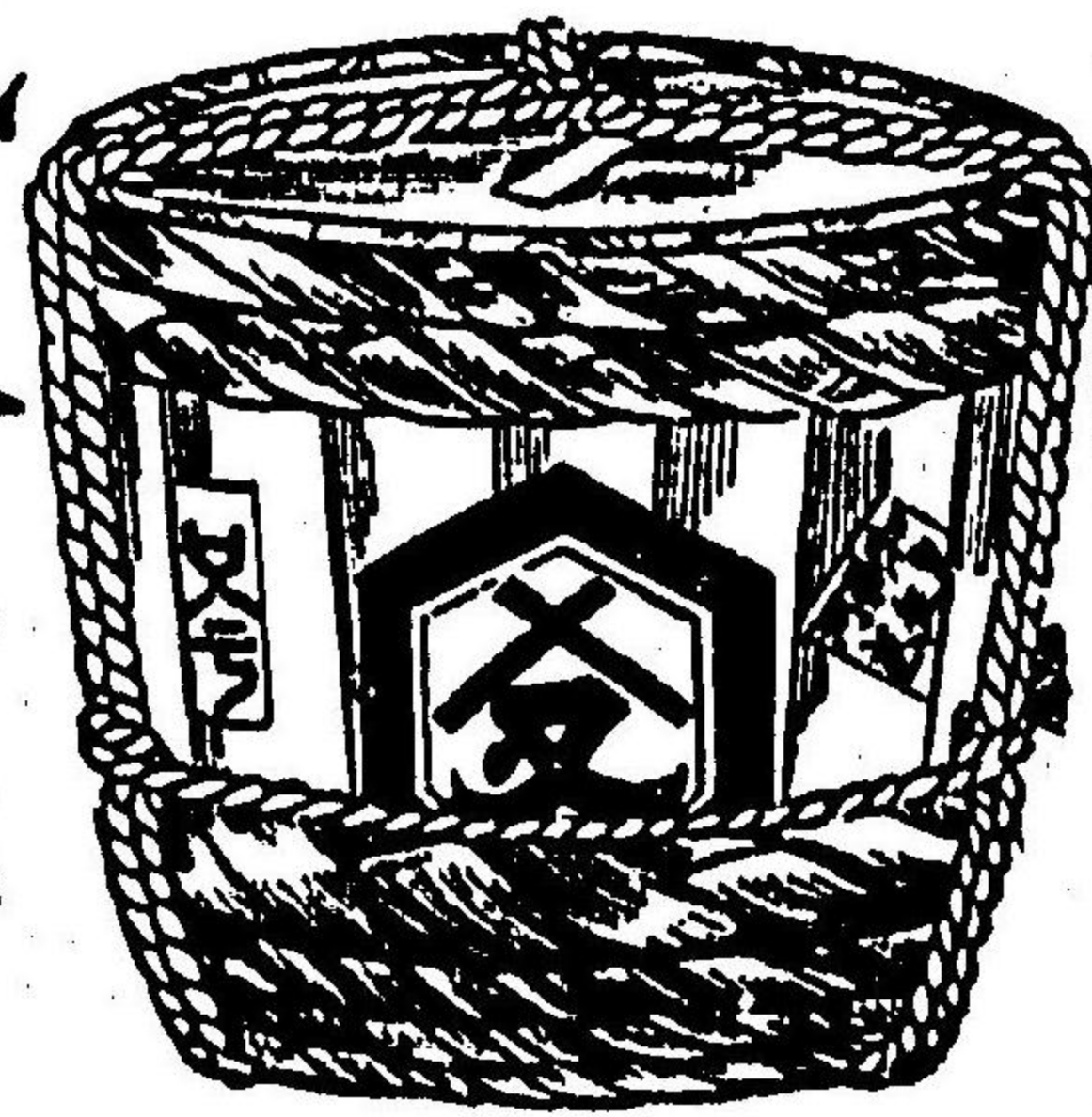
醬油

釀造發賣元

大阪府堺市

河盛又三郎

特電話百七十番



最上

交松乃盛

盛

内各博覽會優等賞牌受領

醇良



清酒



釀造元

大阪府堺市

大塚三郎兵衛

電話番號一三二番 (ナ) 電信

堺市案内

なりて引取られ、廢頽を極めました。現今は稍々修復の途に就ております。本堂は流石に雄麗にして、本尊は丈六の阿彌陀佛、天井には三間四方の狩野探幽筆の龍の畫があり、毘沙門堂には長さ八寸弘法大師作の毘沙門が安置されてあります。其他什物として保存の重なるものは、

- 一 幅 正親町天皇宸筆御影 十六羅漢畫 (極採色にて顔輝筆と傳ふ)
- 一 幅 五色佛舍利内に厨子 (芝増上寺より傳來)
- 一 幅 虎溪白蓮池之畫 (趙子昂畫季龍眠畫)
- 一 体 行基作藥師石像

尙ほ潮風呂とて元々大町にあつて、當寺の領有にして甚だ著名なるものです。之れは往古行基菩薩、井を鑿り自ら藥師の石像を刻みてここに安置し、衆人に施浴せしものでありまして、其潮湯は諸病に効驗を奏し、豊公も來浴せられたこともありて、境内寄宿舍及搦風呂の諸役御免の朱印を興へられ、諸國より入浴者多く宗教的温泉場の形狀に發達せしものであります。●潮水井は晝夜に満ちあつて、有馬の温泉と一雙なりと云ひますが、浴場は近年迄ありたるも、建物宅地は俗人の有に歸し、井戸のみ今に大町に於て當寺の有として現存してをります。

船松神廟

は初め旭津社内に久しくありしが今東隅の外側となつて居ます。祭神は神功皇后です。則ち皇后三韓より歸朝の際、艦船九艘の碇泊せし處にて九艘小路と云ひまして、即ち此廟の前の町を云ふのです。又九本の松に繋ぎせられし故、九本松、又は船松とも云ひます。後茲に社を營んで九本松明神と名けました。此邊は古への海岸でありし事が知れます。夫より道を北東へ取り大町東三丁に彼の高名なる、

祥雲寺

俗に松の寺と云ひまして、松を以て廣く響きます。神宗で紫野大徳寺派に屬し、龍谷と號します。開基は澤庵和尚、檀越は谷正安、寛永二年の建立、本尊は聖觀音、左邊摩大師、右邊庵和尚、照堂の額は、近衛基熙公の筆。方丈の額は澤庵の筆、小方丈の額は唐土僧猷録の筆、庫裡の額は天祐和尚の筆、鐘樓の額は天倫和尚の筆、玄關は唐土震廣元の筆にして、總ての建築は古雅堅牢にして佛殿等は一切佛の木材を用ひ、雨露侵す事無く莊麗です、方丈の庭には乃ち五葉の松があります、枝葉左右に流れて十間

許り、高さ一丈五尺、其形涼笠を風流に屈したるが如く、蒼々たる翠色針葉を浮べ生々として千歳變らざるは壯快なる眺めです。元と豊公の鉢植の松を移し植たものであると云ひますが、成程長大なる幹枝而かも整然たる形状は、寫眞版にもある如く、注意深き妙手が奇を弄したる盆栽の様にも見られます。其南庭には蘇鐵がありまして朝鮮國より傳來のものにて、葉並み特とに小まやかなる一種で、之れ又た當境内の奇觀の内です。其の庭は廣くはありませんが、優美温雅なる好みにて、安排せらるゝ頑石なども皆な有名なるもので、中にも芳芝石、蠶虫石、擲冠石等は尤も面白くあります。方丈の襖は狩野秀信山水七賢花鳥など、頗ぶる美事なる出来でございます。其他當地什物の内特とに擲逸せる品は、

聖徳太子像 (絹本中將姫筆釋尊像)

土佐光起筆荒磯屏風

全 筆釋尊像

土佐光長筆涅槃の圖

以上は本尊及び達摩の像と共に國寶に登録せられし者、後醍醐天皇震筆紙本和歌登首

一 幅

壹 雙

壹 幅

壹 幅

壹 幅



神日大師第三尊及十六羅漢  
唐書筆者天祥十六羅漢

茄子形硯 (紫石)

但し後水尾帝より澤庵和尚へ下賜品

堆朱香合 (大は徑一尺七寸小は徑六寸八分)

青貝の卓 (高さ貳尺五寸人物及梅樹模様)

以上總て當寺古來より傳來の者にして荒磯の屏風特とに著名で、恩賜の硯等皆な絶品です。

其門を出で少し戻りて南の辻を東へ般賑なる町へ出ます。之れが、

宿院

之は古の名越の岡の故地にて

みな月のけふのさかひにみそさして

ちとせをのふる神の宮人 家隆

住吉のなごしの岡の玉つくり

三十六

壹幅

壹幅

壹個

二個

一個

敷ならぬ身は秋ぞかなしき 好忠  
と詠まれた。即ち瑞籬あり老樹二三株之を擁し、内に北を楸取り、南を寶御前、といふ二座の祠があります。毎年八月一日の荒魂の御祓には、住吉の神輿の御渡りがある。秋祀を修められます。此式は夏越神事、とて尤も古へより連続と繼續されて、源平時代以前より行なはれて居るのです。近頃大鳥神社も前一日こゝに神幸があります。が、両日は堺市一般の夏祭り、幕を張り高張提灯を立て、其賑ひは世上に名高く近在は勿論遠方よりも織るが如き、参詣人にて市内を埋めまして、雑踏は非常です。元來此邊一圓は市中第一の熱鬧の地にして、境内近傍には青物市場あり、惣商場あり幾多の寄席あり、劇場あり。空地には種々雑多の見せ物あり、露店あり、日夜囃しの聲客を呼ぶ聲にて喧ましく、賣る人、買ふ人、見る人、素見かす人、散歩の人、参る人等各邊の人種にて充滿します。が或人謂ふ、こゝに商人の鬻ぐものも、又甚だ各種なれ共、飲食に屬するもの尤も多し、故に此處を食飲といふ。故に南側には飯匙の池あり、真向ふには山の口あり、そこに開口神社ありと。之れは全く戲言で。宿院と云ふのは、神功皇后新羅を征して御歸還の際、皇子忍熊王亂を圖る、故に此地に次して潛く宿院あり、故に然か謂ふのであります。

飯匙の池

といふは穴池にて、地神四代、彦火火出見尊、龍宮より得せられた干珠満珠の内、一つは住吉の玉出島に藏さめ、干珠はこゝに納められたと傳ふ、當所古跡の一つです。則ち水族館に於ける龍神玉を捧ぐる意匠は、この故實より出来たのでせう。其大鳥居を出る少し前に、朱の鳥居がある。之れぞ

胃の社

俗傳に、住吉神社三韓を征討あつて凱陣して還らせられし時、胃を脱で此社に藏められた所だといひます。尤も元とは雄嶽小路と云ふ處にあつたのを、白鳳年中こゝに移したので、馬を繋ぐ處を馬繋堂と崇めて、大寺の北門にありしを之れも、此處に合併したといひます。是れより大鳥居を出た所を、

山の口筋

と申しまして、大坂ならば心齋橋筋といふべき所で、雜貨店軒を列らね、店頭美麗に

海會寺井

百貨を陳列して居ります。こゝが本市第一の繁華を占めて日夜賑ひます。此通りを一丁北へ行きますと開口神社、此門前に、即ち

開口神社

がある、金龍井とも稱します、元と海會寺の境内にありしが、其寺南宗寺に移りましたので井のみ此所に存しをります。其昔し龍神出で、乾案和尚に謂て曰く、清水を知らんとならば試に地上に鶴の羽を布きて白雲浮ばんものは清泉を得べしと、和尚其言の如くす果して名泉進出すと相傳へますが、兎も角此井は泉南第一の名泉で澄清なる事は人々の感歎するところす、

俗に大寺と呼びます、當社は式内にて三村明神とも號す。舊と掘穴の郷の内開口村木戸村原村の間にありしを以て、三村開口といふ皆な舊地名です。祭神は伊弉諾尊の御子事勝食勝國長狹なり、後に生國魂神、素戔鳴尊をも併祭りて住吉の外宮と稱し、朝廷より二十年毎に住吉と共に改造ある、末社も數多ありまして境内方登町許りにて頗

る廣瀨です。神殿元の造替は明徳年中でして、現今は修繕造作中です、夫れは殆んど市内全体より大金が寄進されましたから落成の上は美麗目を驚かしませう、繪馬堂三重の塔は建造甚はた功妙を極めありますが、併しは兩部で密乗山念佛寺といへる眞言の靈刹がありました故、大寺の名があるのです。尤も其他金堂、鐘樓、食堂、なぞが彬然と揃ふて居りましたが、維新の際神佛分離の實行で以て諸坊堂宇を毀し紀念として此塔なぞ残されたものです。而して天狗が住みしといふなる瑞の森とて、北東の方に一つの森がありまして、今は白髮神社の後ろに古木一二株をといめてをります。亦た名高き紹歐好み八ッ窓の茶席と云ふのが在りて、今に月一回釜が懸りて居ります。當社は如斯市の中央般服の巷にありまして、境内には茶店軒を連らね參詣人常に肩磨し、露店なども并べられ、寄席があつて諸興行間斷なく櫻牡丹も點々と植へられて、花時には錦を綾どり、夜は燈火舞とに相反射し、見物群集し一層の賑ひを添へるのですが、今又た神園をも裁替して居ります。其前面に三拾二年五月建立重野文學士の撰なる開口神社の碑石は立つてあります、之れは明治以來郷社なりしを氏子等遺憾として、之れを請願して府社の格に列せし時之れを立てたのです。神殿の開口神社と書せる額は左大臣近衛忠熙公の筆、鳥居の三村大明神と書せる額は竹内良尙法親王

の筆西門に密乗山と書せる額も全筆です、其結構の一斑は寫眞版にありませう。寶物には念佛寺相傳の者も澤山ありますが、其内の逸品を擧ぐれば

|                  |    |
|------------------|----|
| 聖武天皇宸筆 (般若心經)    | 一冊 |
| 土佐光起の畫 (繪傳記)     | 三冊 |
| 堺名工柳彌介作 (松に馬の銜立) |    |
| 菅公親筆 (影 像)       |    |
| 但し北野神社より傳來日本三品の一 |    |
| 足利義政義教義勝の文書      |    |
| 秀吉公の朱印書          |    |
| 判付及秀次の文書         |    |
| 村重銘劔             | 一口 |
| 三條小鍛冶宗近作劔        | 一口 |
| 堺名工文殊四郎作劔        | 一口 |

等です神事にて特に賑ふのは

舊四月八日

境内にて植木市

五月十二日

白髭神社祭

七月十二日

夏大祭

九月十二、十三日

田實祭

此日渡御あり

十一月十二日

火鑽祭

例祭は毎月一日と十二日です。  
當社内南門の西側に、

名物 大寺餅

があります。風味頗美にして廉價です。其名は遠近に流行して現今愈々繁昌ですが一日の賣れ高數百圓に達すとは驚くべきではありませんか。夫れより再び山の口筋を北へ甲斐町へ出でこゝを一直線に西に向へば榮橋。此れを渡り橋詰を南へ、

南の 新地

元と此地は寂寥たる邊陲でしたが、運河に添ひ、海岸に近き形勝の位置に居り、加ふるに四面環濠の勢之を驅り、石を積み道路を修築し乃ち各地の例に洩れず、初り二三

の青樓を設けしが遂に一區畫を成して。増々繁榮に邁いたので、紅屋青樓を併べてをります。今は二つに分れ曰く龍神町曰く榮橋、

榮 橋

本年十月間にては貸座敷三十九戸、娼妓百十九人、藝妓なし、來客三千八百十八人、消費高金二千九百九拾九圓、にて此街は白粉紅裝の者店頭に排列せらるゝ方で、之れを小店と稱しますが、わながち左様ではなく即ち輕便を意味した者でしょう、故に却つて漂客は軒下に重來して甚だ賑ひます。

龍 神 町

は本年十月間にて貸座敷七十戸、藝妓九十七人、娼妓三十三人、來客數二千百九十三人、消費高金四千四百貳拾七圓、此處は大樓と稱して中々高尚なる構へです。乳守は高名なる來照を保持し、こゝは事實に於て隆盛です、常に音曲の暖響は耳を掠め舞姫の長袖は風を送ります、紅燈は一井に點せられ景氣誠に華やかなる不夜城です。此遊廓を西へ出て湊橋を渡ると、右側は、

旭 館

の側面、周圍石堤を透らし上に松樹等を樹ゆ、庭園屋舎の設備行届、莊麗です。こゝは阪堺紳士の倶楽部様の組織になつてをります。出た處は海岸で、此邊が、

堺 の 港

であります。橋頭林立、和船洋艦港に沿ふて舳を揃へて幅濶し、行き交ふ舟は瀕繁です。向ふに見ゆるのは北濱ですが、左へ行くと

貝 細 工

を販賣する店が併んでゐるのを見ます。染具、藥玉、簪、又は花卉、盆栽、花籠、或ひは禽鳥、猫、狎、など種々色々のものを貝にて細工し、遊客土産の需に應じて居ります。中に器用に出來たのがあつて、水産に縁んで土産には適當でしょう。程もなく水族館の表門がある。

水 族 館

抑も水族館は、勸業博覽會の一部として常に海岸の地を撰んで開設さるゝのは、鹹水の必要上に於て、然らざるを得ない譯けですが、獨り夫れのみならず、博覽會其者が已に地利及び便宜の上に於て、種々の條件が必要とする如くに、水族館も亦た然らざるを得ませんのです。尙ほ事物の進歩は漸次大仕懸けの設備を要することゝなりましが、今回の開設地は實に之れ等の總ての要求を満して餘あるものと云ふべきです。従て其規模の大なること其敷地として用いられたる面積は、一万五千坪に及ぶの、其施設は遺憾なく完備され、建築庭園の宏壯美麗なることは實に空前です。且つ亦た以前兵庫和川の時に於て催開せし時分は、未だ他に水族館の設置がなかつたが、今はそれとは變はり處々に水族館を見るの時ですから、充分撰擇に注意を加へ、珍奇にして有益なる學術上參考となるべきものを集收し、水族館の巨擘として摸範たるを期する筈であるのです

元來こゝは舊砲臺跡であつて、高さ丈餘の廣き土堤を以て四方を圍まれ、中央は廣潤なる平地なりしを、今度位置に應じて土を崩し又は積上げ自由自在に建築庭園の術藝

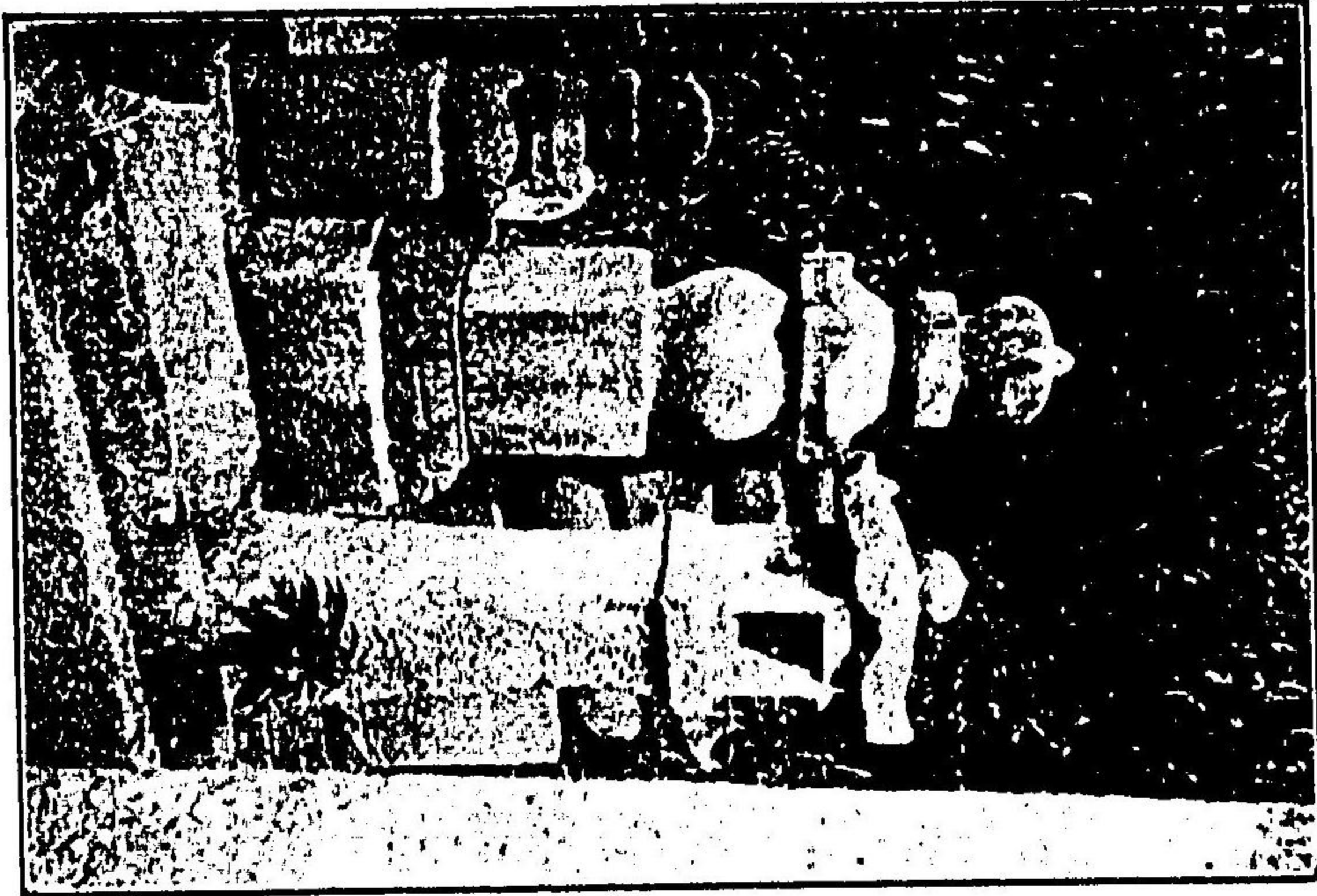
を弄したものですから、大体を云へば種々形容を有する築山が屏風の如く引廻され、中央は植込にして其北方に於て本館が設けられてゐるので、現今は庭園の工事殆んせ工を竣へて居りますが、本館は未だ不充分でありますから、既に外面に願はれたるもの及び設備の殆んど確定せしものに付き、是れより今少し細目に涉り脱述しませう。先づ東北の方表より入れば、正面に於て第一に植込を隔て、高く龍を戴ける龍神が神柱の上に直立して、右手に玉を捧げ、足下には八つの龍頭より飛泉の噴出するを見ます。其高さは總べて二丈五尺にして、龍神の丈は七尺です。夜は掌上の玉に電燈を點じ、亦た柱の上部龍頭の下に四方四個の寶鏡が懸りあつて、電燈が之れにも點せられるので、噴水が燈火の色硝子を越へて相映した壯觀は、思ひやらるゝのです。其の下の池水の廣さは、直徑八間半の人造石によりて成りてあります。そこを右手へ向へば、壯大なる藤の棚がありまして、其下には金魚の魚槽がありますが、其魚槽は長さ十一間に中二間半のが兩側に並行して、中央及兩端は一面の藤の棚で、兩方後側は簷屋根の口獲ひが出來ます。其眞向は水族館事務局で、其西が本館です。煉瓦造二階建にして南向きに建ちて、長さ十七間、奥行上層は六間で下部は十一間あります。其入口は東の方で、出口は西の方です。其兩口の中央壁柱に沿ふて、第二の噴水があ

り、其形は裸体の童子大なる貝を頭上に捧げて、上部に龍頭があつて、之れより吐出する水を受けて、下部基石より六條の噴水が奔騰するのです。其童子の丈は四尺で、基臺の高さ二尺三寸です。其池水は直徑一間半で其半徑は館壁に凹入してあります。其内部には大なるシラヤマの海中岩窟の景像を寫し、そこには山椒魚並に潜水鳥類を入るゝとのことです。其兩側及び東側には魚槽が相並んでありますが、中央天井にも一つあり、其魚槽の数は大小廿七にして内淡水槽が七つあり、西側には海驢及海鹿の養檻があつて、之れは三間に六間半です。今其の魚屬甲介等の名を記述することの出來ませんのは、甚だ遺憾です。夫れより庭園に出て逍遙する順序ですが前に述べ通り、中央を噴水にして、其周囲平坦なる廣さ一面の芝生には、數限りなく緑紅の樹木及び花齊の類を集め、種々の模様を織出されたる如くに、參差として其配置の妙を盡くして経路は縦横に導かれてあります。之れを遠圍する築山は、より多くの妙を弄して千變萬態行々眼界を改め、或ひは深山幽谷に擬して楓松枝を交へ、山茶花林間に點綴して花咲き、竹林は鹿を擁して重疊たる際茶梅りなきが如く。或ひは徑路樹蔭に没して溪間を行くが如く、忽ち快濶なる櫻林に出づ。亦た梅林あり、松林あります。其西南に於ては禿山元として高く聳へ、斷壁には瀧を作り、岩石功みに排置して水落

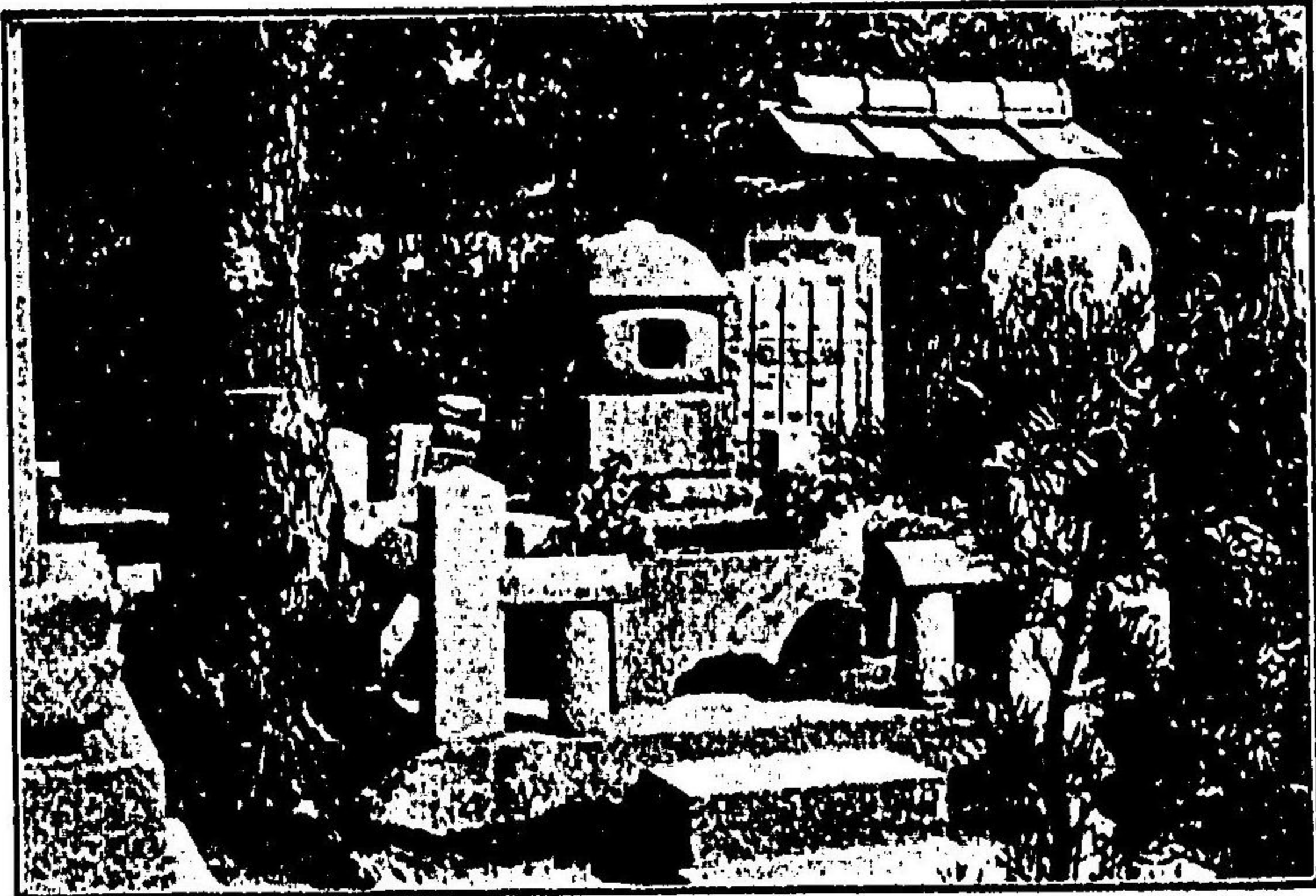
ち石出でたるが如く、浣木の類わたりに叢生して自然に逼まるのです。巖壁に腹に起臥して山骨を露はし、岩窟あつて蘇鉄植へらる、頂上にも特とに碗偉なる蘇鉄巨樹の上に樹立して、こゝに榭亭設けあつて、眺望に供してあります。蓋しこの位置風景には歴落せう。館内の全景はパノラマの如く一陣に集まり、頭を二轉せば茅渚の浦曲の海色は渺々として目の届く限り惜げもなく其絶妙を呈するのです。其他公設の休憩所二ヶ所、私設ではビヤホール、西洋料理、菓子店、北海道水産物販賣店、辨當及び料理、等にて七八ヶ所の茶肆があります。是等は皆な一定の直段がありすから、觀覽者には至極便利でせう。尙ほ奏樂館設置の計畫中ですから、嚙明たる音楽は其耳を悦ばすことも出来ませう。尤も夜間も開場の筈ですから、アーク燈十個の設備があります。尙ほ本館内總ての設備が完成致しますに随ひ、この記事の足らざるを異日増補することありませう。園の西方が乃ち出口です。而してこの右方に本市生産品及商品を江湖に紹介する目的にて共同販賣店の設計があります。

大 濱 公 園

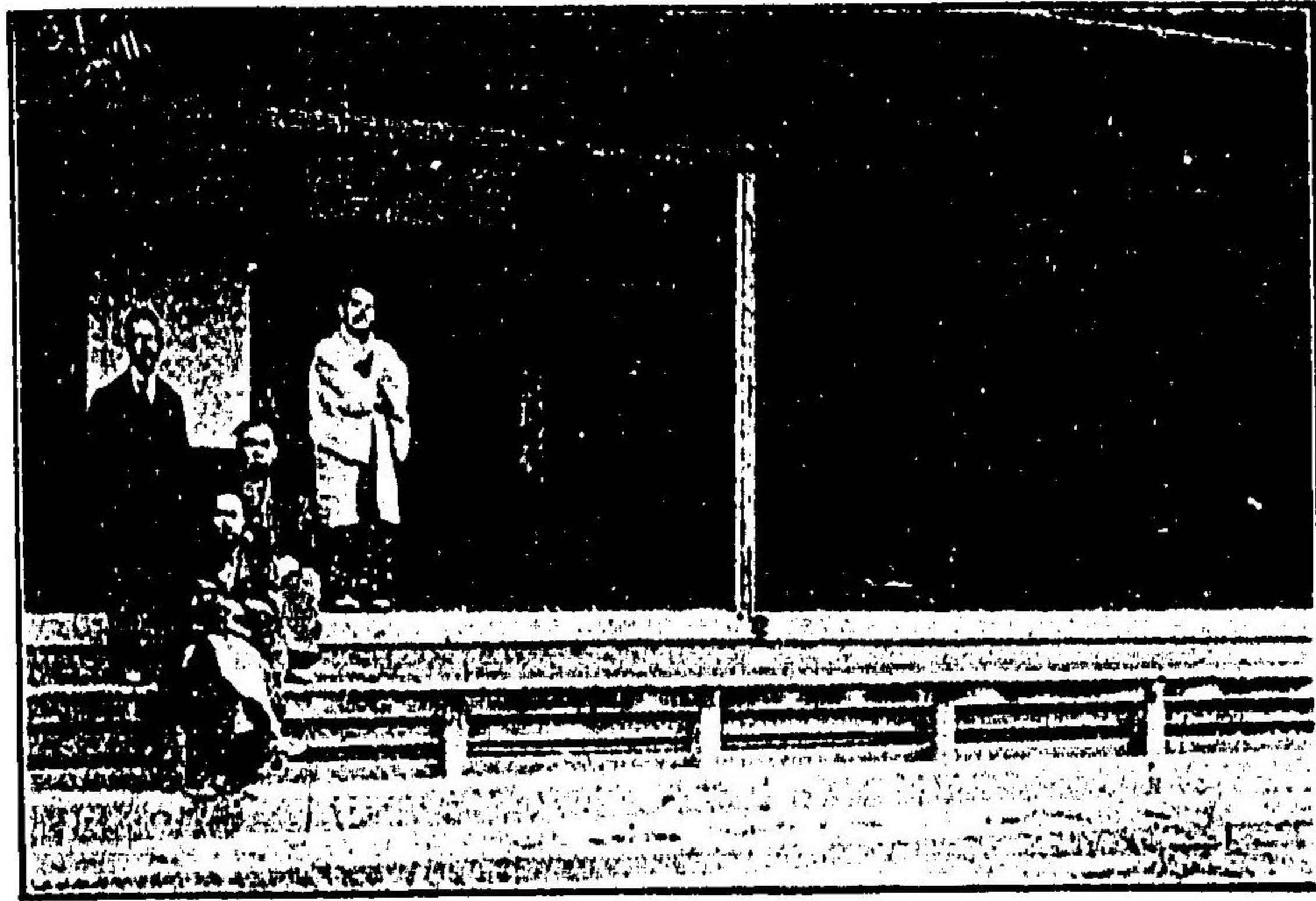
其風光は西北入り口の左岸には、幼松列をなして栽へられ、大濱公園の制札が立つて



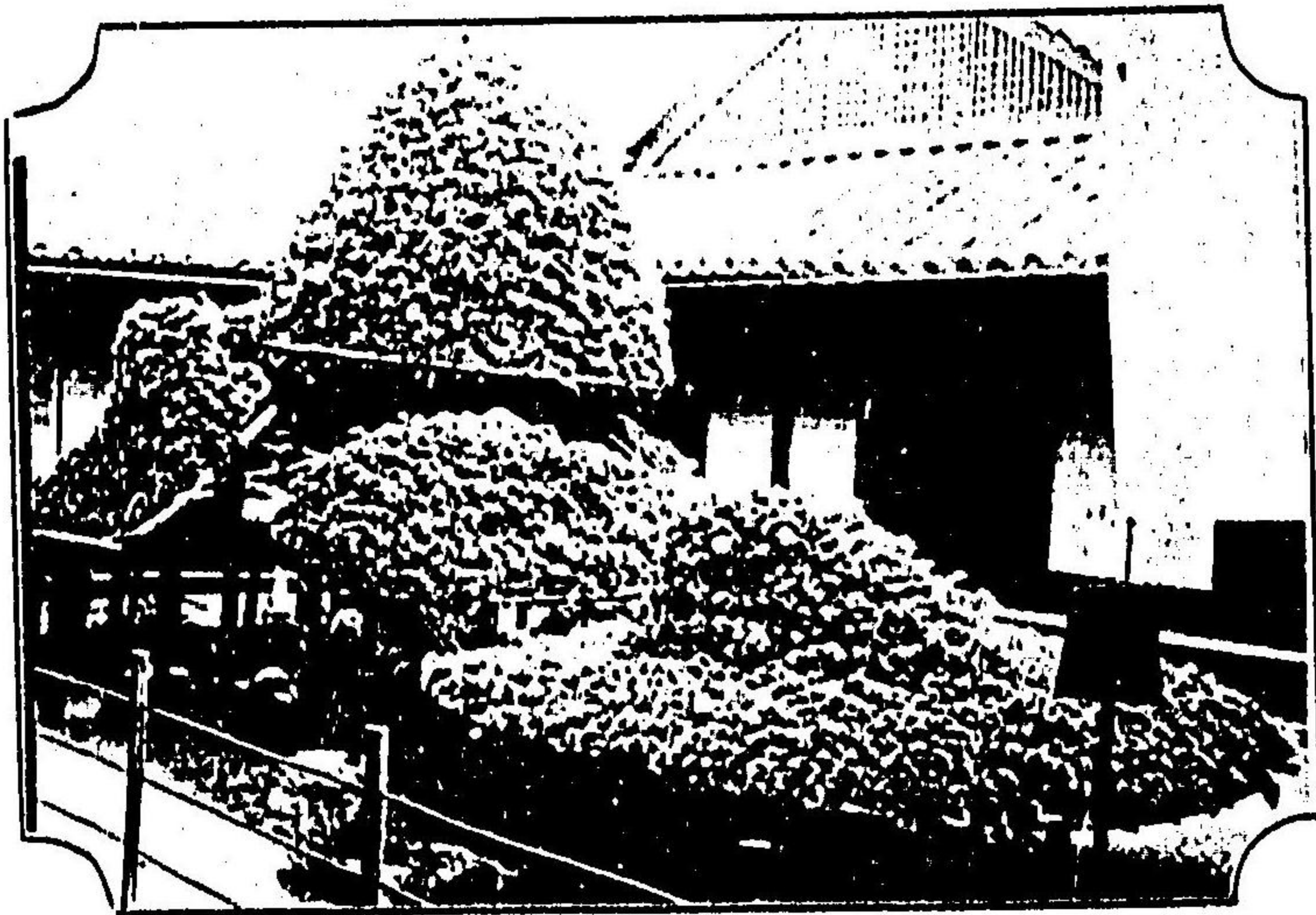
南宗寺内墓園



南宗寺内利休墓



大 安 寺



祥 雲 寺

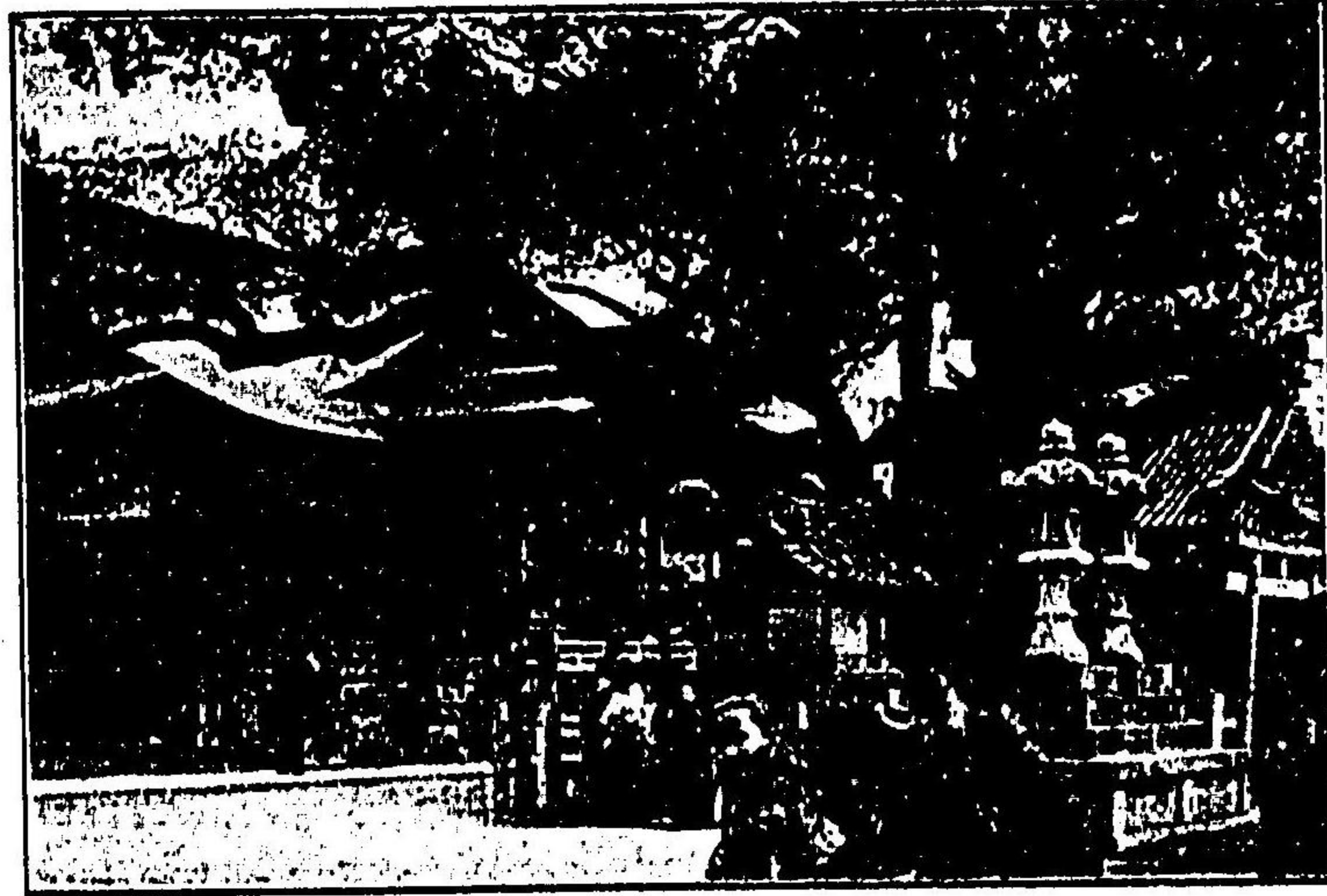




宿院御旅所



山ノ口市街



開 口 神 社



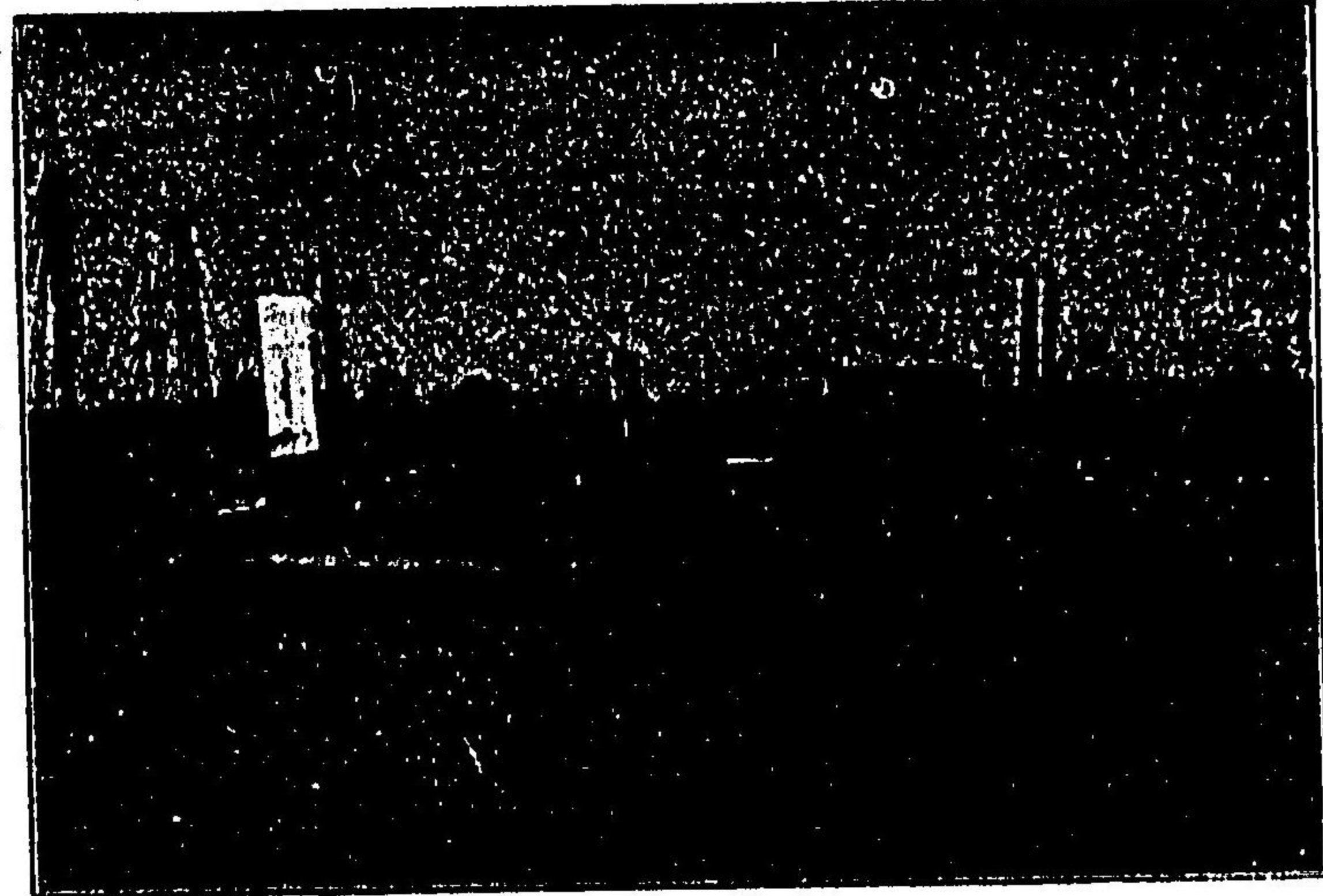
櫻 神 遊 廊



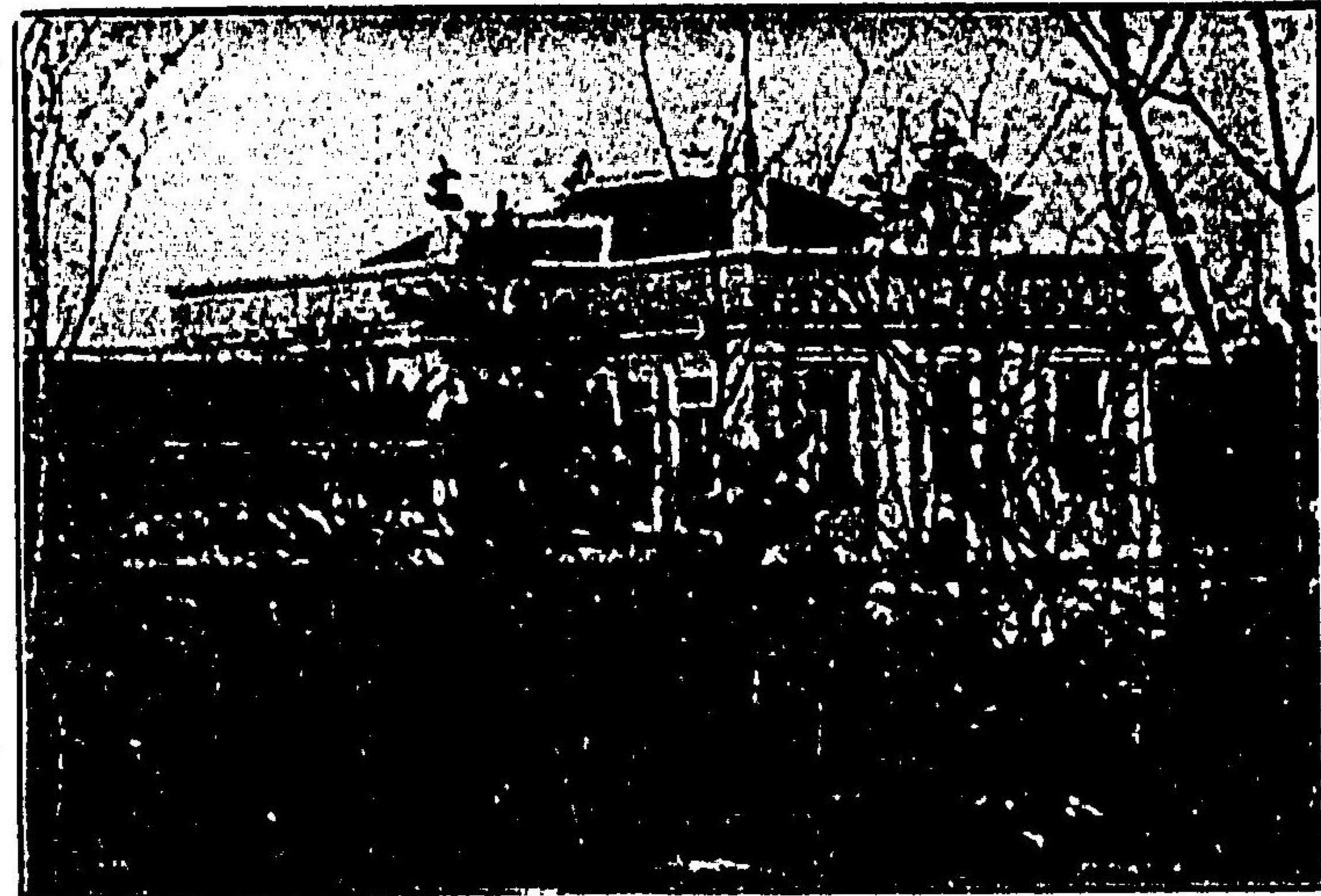
開 口 神 社



枇 神 遊 廊



海 港 坝



館 族 水

堺市宿屋町大道



御香慶

田畑薰清堂

電話二二二番

(新柄) 農商務省 發明人 齋井寺田楠次郎

發明特許

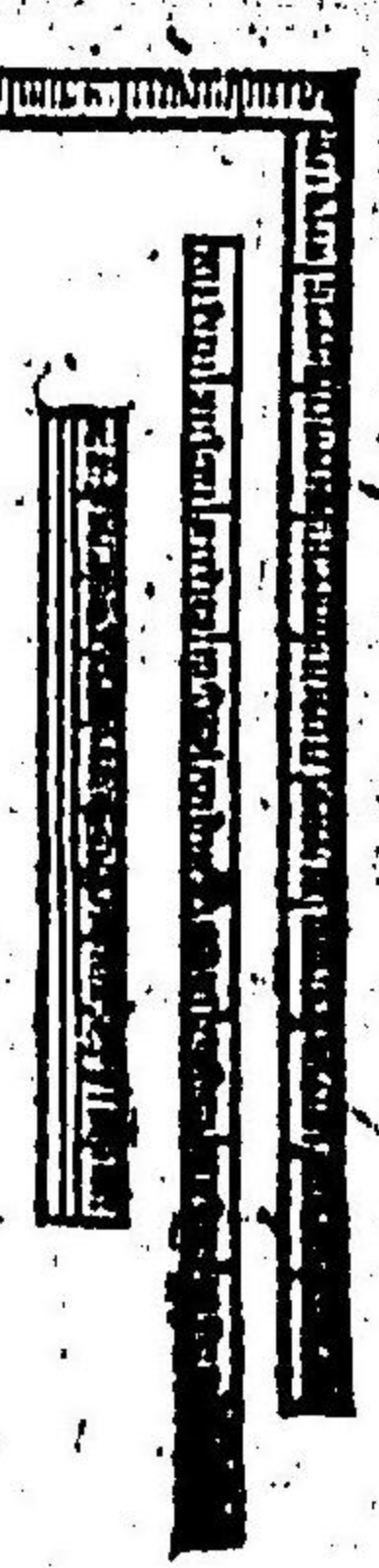
弊舖ノ發明ニ係ル製品各略  
切ニ示スルカ如キ極メテ其適  
切ヲ得タル者ニテハ其廉  
價ニシテ實用ニ適セシ普  
通ノ各案ニアラサル新規發  
明ノ各家必要ノ利器ヲ發  
達シテ各埠覽向共進會ニ  
テ發賣受領セル銳利特製  
品ナリ  
御注文ヲ乞御報次第詳  
細ナル定價表送呈ス

製造元 大阪府堺市大町  
大工道具金物商 大儀舖

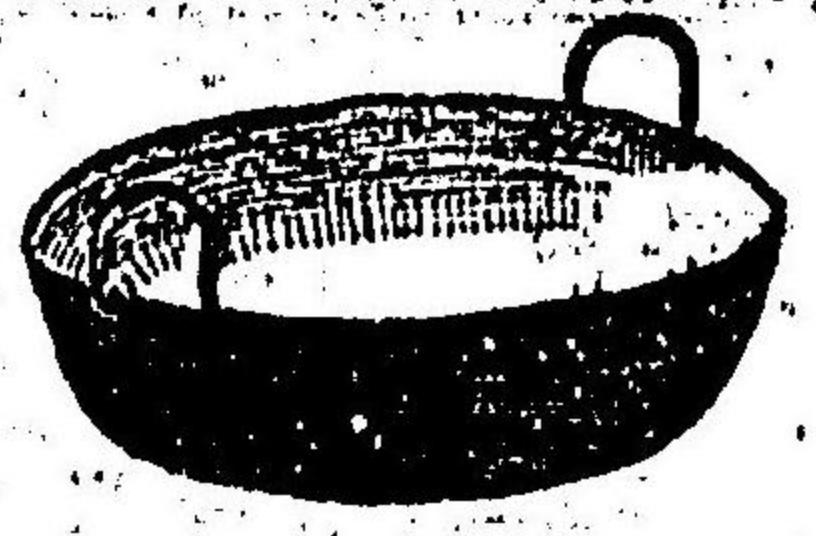
農商務省 發明特許



(鋸折元) (畫搦) (具道工大便輕) (柄新)



度器製作修覆  
鑄物鍋釜製造商  
鋼板鍋釜製造



食

大阪府堺市錦之町九番屋敷  
弊店製造ノ瀬戸引鍋釜ハ  
瀬戸「ハゼ」亦メクレ又ハ  
特色ナリ  
淺香長藏  
特電話五拾五番

薰香  
線香  
老舖

商標 九重香



第四回國勲業博覽會  
紀念新製品  
九重香  
線香  
聖德香

商標

櫻井合名會社

堺市熊野町大道

電話 叁百拾番

各博覽會優等賞牌受領



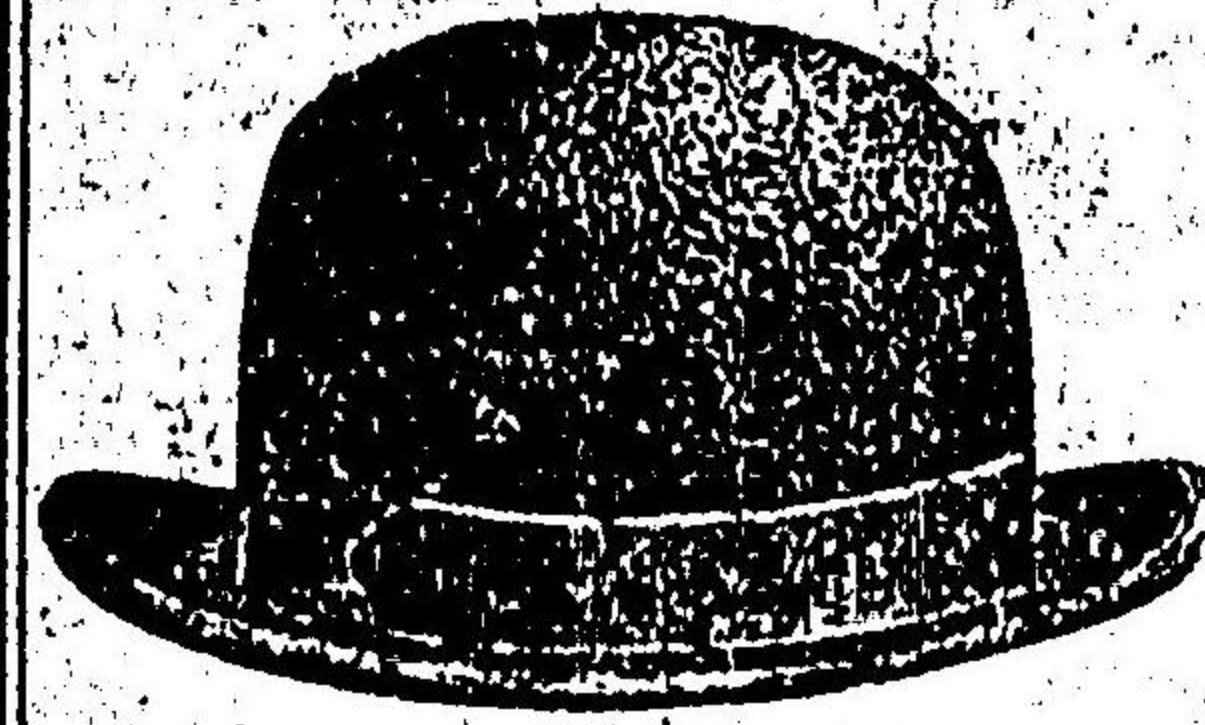
釀造元

森本仁平

大阪府堺市戎之町東四丁

電話五百四十四番

確實正札



舶來雜貨

堺市市之町大道東五入

里見商店

電話特貳百貳番

日本郵船株式會社  
日本海上運送保險株式會社  
瀛船積荷取扱所  
取扱所

堺市榮橋通二町廿七番邸



合資會社

郵船組

電話拾七番

TELEPHON

NO. 120

SULPHURIC ACID & BLEACHING POWDER CO.  
LIMITED  
SAKAI OSAKA JAPAN

TRADE MARK



SULPHURIC ACID,  
BLEACHING POWDER,  
MURIATIC ACID,  
COPPER SULPHATE,  
BISULPHITE OF SODA,  
IRON SULPHATE,  
GLAUBER'S SALT,  
ARTIFICIAL MANURES

硫酸晒粉製造株式會社

大阪府堺市住吉橋通壹丁六十七番邸

電話特一二〇番

◎過燐酸其他各種肥料

◎芒 硝

◎重亞硫酸曹達 ◎硫酸鉄

◎鹽 酸 ◎丹 礬

◎各種硫酸 ◎晒粉

製品種目



商標

登錄

南洋興業株式會社

總代理

奧野久次郎

堺市熊野町六小餘通  
南海鐵道堺驛三二東



各國木綿商

御印裁縫所

電話八〇

市場甲斐町西丁

商號長谷彌

薰物線香  
製造販賣  
環市大町大道  
林田清薰堂

其盡くる處、防波の石堤數十間海中に突出し、に燈臺を築き、不動綠色の光輝遠く海面を照し、暗夜船艦來船の便に供せられてをります。潮波さすがに嬰々の音をなして汀濱を洗ひ、多くの茶肆之れを縫ふて設けられ、花卉植込の庭園を隔て、廣濶なる沙地滑かに道通に廻し、三樓四層の樓厦巍々として鱗次し、和風洋式美を重ひ壯麗を競てをります。其山の重なる者は茅海樓、鶴樓、一方樓、川岸樓、等といたし之れ等の諸樓に登りて欄に凭りて遙かに眸を放らますと、東北には岡阜延々として和河の清櫓を雲翳に抜き特とに水族館の建築庭園は瞰下一目に集まり、西南には海色湛々として波瀾不驚、遊苑萬頃、紀淡の山霞に連なり、白帆搖々として緩々浮々、煤煙長く曳いて疾く颯す、眺望は海よりも妙に朝暾夕陰は特とに佳にして月に宜しく雲に宜し、酒は醇にし、香は鮮なり、風は清く氣は純なり、海水には浴すべく潮湯には洗ふべし。故に避暑には絶好でありまして、若し夫れ春日景明の節、満を引て長嘯すれば、心曠く神怡、洋々として其樂極まりはありませぬ、誠に一場の仙窟です。且つ將た一馳車を驅れば身は早や流車中の人で、目的地點は眼前にありませぬ、馬を把り輔を含みつゝ、百里遠隔の談話を聞けます。之れを双壁山全の樂郷といひます。夫れ故遊客は群集して常に四時喧嘩の聲が絶へませぬ、僅か十數年前は此邊問とした寒村漁邑でし

其盡くる處、防波の石堤數千間海中に突出し、人に燈臺を築き、不動緑色の光輝遠く海面を照し、暗夜船艦來船の便に供せられてをみます。潮波さすがに聲々の音をなして汀濱を洗ひ、多くの茶肆之れを縫ふて設けられ、花卉植込の庭園を隔て、廣濶なる沙地滑かに逍遙に適し、三樓四層の樓閣々として鱗次し、和風洋式美を争ひ壯麗を誇ります。其市の重なる者は茶海樓、白樓、一方樓、川井樓、等といはし之れ等の精樓に登りて欄に凭りて遙かに陣を放ちますと、東北には岡阜延々として和河の清澗を雲烟に抜き、特とに水族館の建築庭園は瞰下一目に集まり、西南には海色湛々として波瀾不驚、遊艇碼頭、紀淡の山嶺に連なり、白帆搖々として優々浮々、煤煙長く曳いて疾く驅す、眺望は盡よりも妙に潮汐夕陰は特とに佳にして月に宜しく露に宜し、酒は醇にして肴は鮮なり、風は清く氣は純なり、海水には浴すべく潮湯には洗ふべし。故に避暑には絶好でありまして、若し夫れ春日景明の節、滿を引て長嘯すれば、心曠神怡、洋々として其樂極まりはありません、誠とに一場の仙臺です。且つ將た一馳車を驅れば身は早や流車中の人で、目的地點は眼前にわります。危を把り胸を合みつゝ、百里遠隔の談話を聞けます。之れを双聲兩全の樂郷といひます。夫れ故遊客は群集し、至るに四時噴霧の聲が絶へません、僅か十數年前は此邊則とした寒村漁色ぞし

だが、風景の絶佳は言はずして遊覧の客を誘ひ、杖を曳く人多く、茶席酒樓漸やく増  
加し建上げ建て連らね、短日月の間に於てかく繁昌に趣き、今日の盛況を致したので  
今亦た水族館の設立を見れば、府下寧ろ全園有数の公園となる事は日を期して待つべ  
きでしよ

魚市

は毎朝未明より漁船此濱邊に集り來り盛んに魚市を開き、鮮魚を雜賣するのですが、  
數百の商人四方より集り、奇妙なる手振りをなし高く呼んで先を争ふて魚を買ふので  
す、魚は沙上に躍り、其有様面白くして甚だ壯觀であります、殊に例年七月三十一  
日住吉大祭の宵宮の夜は大市を開き、殆んど終夜にて流東も亦間断なく觀覽の人を送  
り、四圍に群がり、廣き大瀆も立場なき迄熱鬧となるのです。

北大濱

こゝは渡しの小舟にて海岸に達するので、常に横装して舟夫がをります、而して港灣  
の海水が殆んど西方を遶りて灣を擁して巴形に築出でたる岬崎の形状となりてゐるの

ですが、中に海水を導き入れたる溝渠の如き地点もあつて、面積も甚だ廣く、元とは  
砲臺でありましたのです。此處も風景富麗で、南の公園とは比較的閑靜でして、眼界  
を異にし眺望を革めます。西北には須磨、明石、神戸、大阪灣、を見渡し、近く住吉  
の松林、高燈籠等が見へます。酒樓には松波亭がありて茶肆なども數多掛りて居りま  
す。殊に陰曆上巳の節句には大汐と唱へて潮水が數里の彼方迄干潟になつて砂洲と  
なるので、沙干狩の遊びには實に適當の場所です、それ故幾多の男女こゝに集り、腕  
を捲くり裳をからげ、嬉々として楽しむ様は之れ亦た冒ふべからざる好景です、この  
西南隅に神社が一つありますが、之れは浪除住吉とて船夫漁者其他よりの寄進で、風  
波安全の神です。其北畔に石の瑞臍に天然石にて臺石を壘み岐然と一碑石が立つてを  
ります、之れが寛政より文化年間に涉りて三十四年間堺港改修の功を完了し偉大なる  
利益を本市に與へし、吉川倭右衛門氏の紀念碑で明治三十三年市の有志者が建立した  
のです、今其事業に關する大半は碑文に於て窺ふに足りりますから、先づ之れが要畧  
を掲載することゝいたしました。

(前畧)曰く寛永元年及大和川新成一港口爲之と填塞し絶舟船之出  
入商賈不振至享保戊申歲總年寄糸割符元締町年寄之徒相

肥内案市界

謀自熊野町堀止而西新堀鑿市十間之川濠築之。以長百五十間高二間半之壘石舟人便之。後安永年間爲洪波大濤之所。衝激一壞無跡不能衆。皆享其利。上下相警。無圖更造者。商賈愈不振。江戸淺草福川町人吉川儀右衛門偶以事到是地。見海港之衰廢。痛惜不措。奮然自立。修理志安永西歲到書。江戸町奉行請允。可不省。七年志益堅。至天明甲辰歲正月。絕獲其派。翰者致之。堺奉行寬政辛亥歲二月初。得許可。於是以其歲三月三日。掘工。至文化庚午歲。埃工焉。蓋閱三十四年之久。其間或有激浪妨其工。或有銀主變其心。辛若百端。儀右衛門志愈益同。而固終成。是偉業乃得再見。大帆高橋之林立。曰。自市之町濱南。抵中之町堀止。內川堀割曰。際川筋堀割曰。南濱一休築造曰。自櫻之町濱南抵綿之町濱堀割。此費不取官資。一費已其銀萬何。其儼也。始江戸町奉行有命。工成。則賜不租地一區。且其。堀浦人永祀。其後儀右衛門以工成。歲歿。子孫落魄。至今百年。有奇人。漸遺其名。況後世乎。(後畧)

肥内案市界

今少しく是れに細説を加ふれば、儀右衛門氏は享保十五年に江戸に生れたので富有にして何不足なき身分であつた。然るに彼れは娘女を男装せしめて伴ひて高野山へ參詣した、即ち高野山は婦人嚴禁之時であるからである。其歸途當地を過ぎ行て地之利を見る。と全時に港灣の廢頽を歎じ勃然として、此れか修築の念慮を起し、奮然之れを双肩に負ひ成就せんと決意し、一度は江戸に還り貳万金を調へ來りて大小路邊に寓居を構へ、日夜専心計畫に従事した。畫策稍々成つて出願せしも却下のみにて遂に路傍に伏して奉行の通行を待ち願意を面陳する等、種々苦心を盡した。蓋し時の公吏は彼を山師全然に認めたのであつたが、漸く官許を得てよりも數多の障害を續出し、資金に不足に不足を續き、其長日月間の苦心慘憺たることは想像し得られぬ程でありしも、志毫も屈せず愈々堅く、且つ天與ふるに海を以てして、遂に目的を達したのは壯なりと謂ふべきである。而して開鑿せし新川に第一に架せし橋は自分の故郷の名を命じて吾妻橋と云ひ、第二には其地の繁榮を祝して榮橋と稱し、第三には事業愈々功を奏し所期に達する近きを喜んで、勇橋と呼び、遂に堺港を成就したのでありて。其子孫は吾妻橋停車場前の茶店山本小梅と云ふのがそれで、其家の庭に井戸があるから井筒茶屋とも稱して、其井の傍らに儀右衛門の親族知己が石碑の代りとして建た碑が存在し

て、之れに左の如く刻てあります。

正面　うらやまし八十に餘る年をつみなき跡もまたあふがる、身は

左面　天地四方姿獨歩奇計百切舌三寸文者班馬俱低昂辯者蘇純於上下

右面　文化七年二月二十日　新川開發人　吉川儀右衛門

裏面　泉順院奏傳信現居士

そこで知ることの出来るのは、彼れが強厲不屈の精神のみでなく、文學にも長け且つ能辯なりしことである。今哉築港諸所に經營し亦た經營せられんとする氣運に際會して、尙ほ種々困頓批難の聲が聞るかに人文開けざる時代に於て獨立經營如斯大事業を成就せりと云ふに至りては、益々希世の快男子でありしことが感られるのである。夫れより直ちに吾妻橋へ陸路出ることも出ますが、再び對岸へ涉り東へ旭館を廻れば旭橋と云ふ橋があります。其角より旭橋の道路が、即ち既に寶珠院の處にて御案内致した明治初年土佐藩士箕浦元章以下が、佛兵と衝突し彼れ十一名を屠殺した場所であつて。其橋の西階濱側に、

天誅組義士上陸地

で、樹木生ひ茂り碑石が立つてあります。頃しも文久三癸亥年の八月十五日の夜、蒲月中天に煌々として光りは丹き心の芽淳の浦山にみちわた渡つて、晝を欺く夜半過ぎ義軍の總大將中山大納言忠能朝臣第三の公子待從中山忠光卿を始とし、之れに従ふ吉村寅太郎、那須信吉、上田宗兒、池田藏太、嶋浪間、伊吹周吉、(后に従三位男爵石田英吉)其他田中楠松に至る何れも國に許せる一騎當千の全志三十余人、(后に位記を追授せらる人多し)夕方大阪天保山を出で、より懸悟の証、神明の誓として、皆な髻を斷ち切り短髪を縮ねて背後に振亂したる其勇しさは云ふばかりなく、此濱先きの上陸し櫛屋の町大道旅籠屋扇屋より仕度を取寄せ、侍從の卿には特とに白木の三寶もて朝食を捧げ、斯くて一行は衣服を着替へて甲冑に身を固め、兩刀を佩き軍容を整へ、足並揃へて、先づ大小路を田口橋に出で、高野街道を河内に入り、狭山藩の領内に出で、和州は五條に踏込み、愈々天下の長眼を醒覺し、事必勝を期せざれ共陳勝吳廣を以て自ら任じ、幼より其生命を擲ちて悔ひず、勤王の大義を唱へて輿論を捲起して、遂ひに維新の曙光を放つに至る。其千才の魁を成せし者は此等天誅組義士其人にして、其初めて武装を修め軍容を整へしは此上陸地点即ちこゝであります。其艦船を繋ぎしは今眼のあたり見るところの楡の老樹にて、忠木とさへ稱へられます。只だ其紀念の設備

が營造中にして未だ完成せられざるは甚だ遺憾とするところです。是れより濱寺公園にうつります。

### 濱寺公園

は大濱公園の南隣で南海鐵道堺駅の南湊驛に次で最近停車場のある處、人車に依るも左程の事はありません。こゝは高石濱の舊跡で、今尚ほ高石の名があります。元亨年中三光國師の開創したる大雄寺の宏壯なる七堂伽藍が建列ねられたる地です。濱寺と云ひまして今に此名を呼びます。舊記に和尚は奥州の人で、後醍醐天皇歸依なされ戒法を受け賜ひしが、此時國師の號を興へられたといひます。今は公園となり區域頗る廣大東西十町、南北廿町に餘りて、一面の眞砂地にして古松多く、西に淡路島北須磨、明石、一の谷、鐵橋が峯、南に紀の海、阿波の鳴門が遙かに見へて風景明媚、勝の地であります。此邊は目の届く限り古松一帯に潮漫してありしも、現今は其幾部分のみが存してあるのです。如斯名地であります。世波の暴風は不關焉として吹き荒れて、不惜名所も斧鉞の下に危く、珍滅に歸せんとしました。此際時の内務卿大久保利通公は府縣巡回の序で、此濱を過ぎられその荒廢を嘆するの餘り、

### 名にしとよ高石の濱の濱松も

世のあら波は免れざりけり

と、一首和歌を咏せられたが、之れが大に人の注意を喚起し、隣駅の内に舊跡保存の優さしき氣運に向ひ、鐵道の便開けて氣笛の聲邊りに鳴りしより、颯々たる潮風は松林を通ふして嘯を吹く音鮮やかに、人々見聞して來遊の客漸く多く、府知建野郷三氏等も力を添へて遂に此地所一万八千坪を有する一大公園となつたのです。且つ海濱院は海水浴又は療病保養者の便に供する爲め、之れ等の人に依て最初に設立されてより其後榭亭茶店増加して旅館酒樓建設され文した。其重なる者は即ち海濱院、一力樓川芳樓など何れも宏大美麗にして、料理の攄梅、來客の接待等大濱と伯仲を争ひ、増々繁榮を加へつゝあります。其宛然畫上に施せる金沙其者の上に、數千株の老松は千態万狀の妙を盡し、鶴の翼を展べて如將飛、獅の勢を蓄へ如將搏、龍の雨を呼んで如將沖於天。躍るが如く、舞ふが如き。奇趣妙姿に至りては、其玲瓏たる風光と共に松を以て著名なる播洲舞子の濱でさへ、儼に一籌を輸するでしよう。塚に遊ばん人は一覽の價値があります。こゝより十二町東に官幣大社大鳥神社があります。

大鳥神社

常社は官幣大社に列しまして祭神は日本武尊です。祀祭は飛行天皇四十三年であります。初め尊、全天皇二十七年御齡十六、熊襲を撃ち平げ、全四十年再び東夷を御征討あるとき則ち道を枉げて伊勢神宮に詣で、倭姫命より草薙の寶劍を受け遂に進で東夷を平定し凱旋の途、伊勢の能夜野に薨せらる御歳三十。仍て能夜野陵に葬つた。然るに神靈は八尋の白鳥に化して飛去り、倭國の翠原原に止まる又こゝに陵を造りけるが更に飛んで河内國古市郡に至る又其地に陵を造る。其後宮殿を建造して大野里に鎮座す、即ちこゝで、白鳥三陵の一つにして八尋の白鳥にちなんで大鳥神社と稱したのです。尊、資彥武勇絶倫、親から屢々遠征の勢に服され、王化邊境に洽ねく、億萬歴史に赫々として後人の崇敬措かざるどころです。其周囲の森を千草の森と云ふのは、宮居の際一夜の内に種々の樹木が生へたからです。其後天武天皇の時神靈再び顯る故に白鳥と改元なされた。今俗に高天原と唱へ、こゝより神靈天翔り給ひし云ふ高草が神社の南千草の森の中にあります。又天平の清盛が重盛を伴ひ熊野より歸るさ、こゝに來り重盛平日愛する飛鹿毛なる名馬を奉納す、清盛も和歌を奉る。

かひ子そよかへりはてなはとひかけり  
はこくみたてよ火とりの神 清盛

此歌明治初年神園を修むるとき、税所堺縣知事命じて石に刻し、現今神園正面築山の上に植つてあります。其後亂世相繼ぎ神殿毀頽せしと見へ、慶長七年豊臣秀頼再遣せりと云ふ、大阪役の時又兵燹に罹りしを、徳川家綱堺の刺史石河利政をして、之れを造營せしめたのですが、其時利政草叢の中より風雅なる一個の神石を見付け、持歸りて己が庭前に移せしに、其夜靈夢あり大に驚き元の地へ戻し、神怒を宥めんとて、石の鳥居を寄進せり、俗に其石、利政の庭に在つて啼きしと云ひ傳へて啼石と呼びます。が、影向石とて本殿の後ろ、東北の方に、前に鳥居あり石の玉垣を出來へ、其内に嚴存してあります。又其時奉納の鳥居は、墓石のみ大手口の兩側に残ります。尙ほこゝに、僧行基開山なる大鳥山勸學院神風寺と稱する寺院がありまして、一時荒廢せしを寛文の頃再興せられ、夫れより當社の別當職として維新の際迄總ての勤務に服してありしが、例の分離にて廢寺となつたが、行基井と稱する行基の鑿りしと云ふ井が、本殿の後ろ森林の中に存在してあります。今は不用に屬してありますが水は特とに清澄です。當境内は甚だ濶大で地領總坪殆んど一万三千坪に及び、森林鬱々として茂り神殿

の壯殿は云ふ迄もありません。神園として梅林あり櫻樹も數多ありて、池築山を設け  
て風趣甚だ高妙です。境内攝社は大島美波比神社、祭神は天照皇大神、之れは東夷御  
征討の節參詣の御縁に依るので、境外攝社として濱寺、高石、八里莊村、の三ヶ所に  
あります。祭神は妃たちであつて濱寺には行宮があり、花摘祭には御神幸があります  
當社寶物の逸品は

天皇陛下御寄付寶物 (眞清作)

古縁起 (九條道家公筆)

流記帳 (延喜廿三年四月五日筆蹟、國司代珍目禰花押あり)

神祭の重なるものは

例祭 八月十三日

花摘祭 四月十三、十四日 此兩日尤、般ふ

十三日濱寺へ神幸

七月三十一日 塚嶺宮へ神幸

冬季祭并に軍人武運長久祈禱祭 十一月二十八日

月次祭 毎月十三日

是れより東北二十丁には有名なる、

### 一 乘山家原寺

は神宗にして、開基は行基菩薩です。本尊は文珠佛、左釋迦、右普賢、共に行基の作  
であつて、本尊の額に一寸八分の黄金佛が納めてあるとの寺傳で、之れは天竺の波羅  
門尊者が天平十八年南都東大寺建立の時來朝し、是れを納めたとのことです。こゝは  
大僧正行基田舎の家地であるので、家原寺と稱されたのですが、其山嶺を三乘菩提峯  
と云ふので一乘山と號したのです。抑も行基は今より殆んど一千二百年以前即ち天智  
天皇七年に生れ、唯だ衆生を教化したのみならず、諸道に巡遊して草茂を開き橋を  
架し堤を築き、國家福利の増進に力を致し物質的の文明に導きしことは、實に多大に  
して歴々と其跡の示すべきものがあります。故に上皇武天皇の敬重を受け下人民の尊  
崇を得るのは非常で、至る處道場を建て、此數畿内のみにて四十九院あり、實に一個  
の英雄でありしことは皆な人の知るところです。父の名は高岡貞知王仁の後にして遠  
く漢の高祖の裔なりと云ひ、母は蜂田首虎尊の女樂師姫と云ふので、今此寺の近隣蜂  
田の美林寺は其家地であります。竟に天平勝寶元年歳八十歳を以て死没したのです。



境内は甚だ廣く、古へは尙ほ廣大なりしことは、現今民家を隔て、建造物あるを以て想像ができません。建造物の存在するものは本堂の外、不動堂、薬師堂、鐘樓及び鎮守の社、今は村社となりしもの等は其付近にありまして、祖師堂は西の民家の側にあります。而して誕生水と稱し行基の胞衣を掛けし榎の樹は、幼木と替りてをりますが其南の塚の上の玉垣の内にあります。又た里人が其池の魚を胎とし戯れに行基に薦め行基之れを吐出せば忽ち小魚となつたと云ふ、これはおみだか、併し放生池は正面石橋の架せし處、辨財天理天尊の社のありし處は西出口の南の池中に、善光寺塚は北にあります。三反田とて田畔の家割を人民に教へしと云ふのは南大門の前の田地を指し多寶塔及び開基平居の禪宗は今惜むべしありません。かの白龍淵、赤龍淵は其巽の山路を登れば、石の顛頂にありて、以前は漢の高祖を祠りあつたので、一方は清泉涌き一方は空地です。其山の周圍に西國八十八ヶ所を摸しありますが、之れは嘉永年間に出來、一時廢滅せるを近年再興したものです。經塚は其左の山高き所にあります。坊舎も數多ありしが今二ヶ寺残りて、其一ヶ寺は甚だ壯麗です。全寺は甚だ閑靜ですが諸人の信仰厚く、優に行基誕生地の面目を保ち、其建築は古色蒼然趣味渾々たりです其寶物の重なるものは、

五色の佛舍利 (天竺波羅門尊者傳來)  
 行基菩薩行狀繪傳 (巨勢金剛筆)  
 般若心經 (弘法大師筆と傳ふ)  
 全 上 (行基菩薩筆)  
 家原寺緣起 (高野山雲石堂筆)  
 法會の特とに般しきは、

一月十五日 左儀長あり 二月節分の法會 舊三月廿一日 御影供

住吉

は本市の北隣で、南海高野兩鐵道の最近停車場のある處で殆んど町綴りであり、故世俗多く堺の住吉と呼ばれます。尤も此地は古來緣故が深くして、古へは素より其間に國別的經界がありませんでした。堺の並松町も住吉の安立町も全しく彼松原の内であり、今其間に界在する處の大和川岸より始めます。乃ち大和川橋詰に、

住吉神輿火替所

があまりまして、七月三十日夜の神事に界の人炬を把りて爰の川迄送り來り、住吉の生産人に渡し住吉生産は之れを社壇に納めるので、御稔の火替と云ひます。安立町一丁目

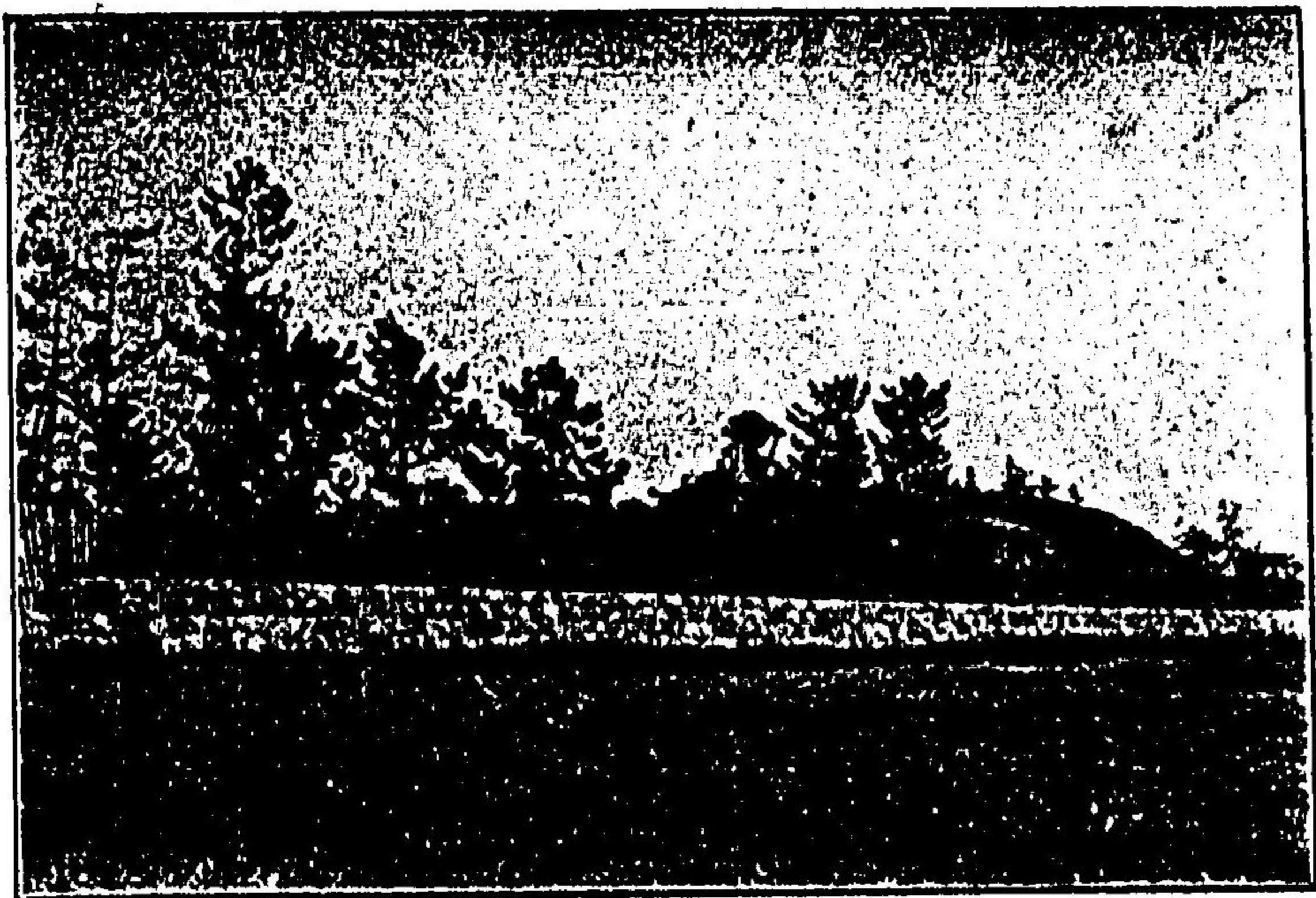
難波屋の笠松

之れは難波屋の庭前にある奇代の松で能く人口に膾炙し、長明等にも歌はれたのですが、今は其古木は凋落に屬し新樹之れに交りて居ります。安立町の北端に茶店ありて其形ばかりを存する處の、

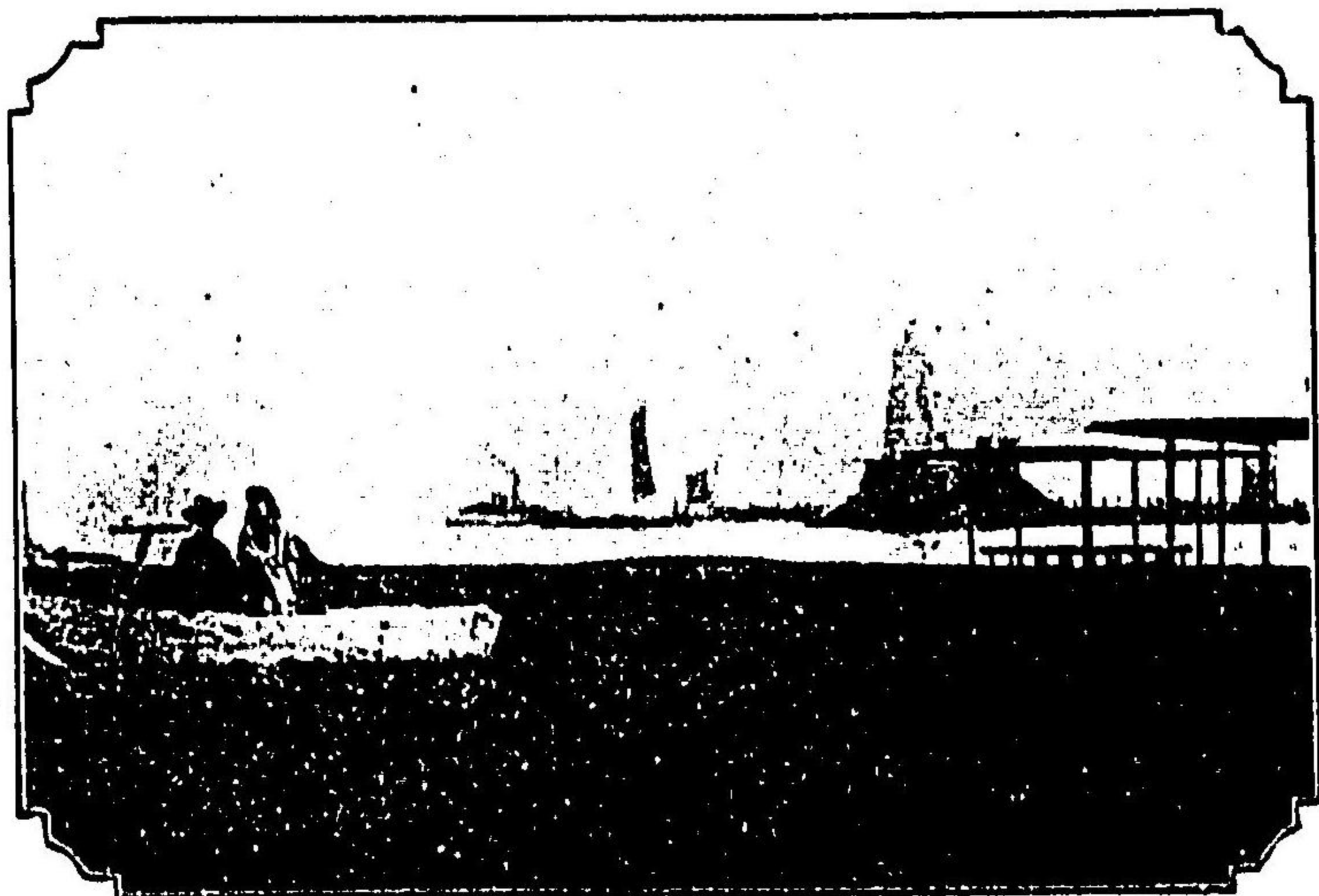
小町茶屋

といふは、昔住吉の松原の土手の上に席を設け、長柄の杓で茶を往來の人に薦めて居りました者ですが、此茶店の女が夫を待ちませぬので、時の人之れを小町茶屋と呼做したといひます。而して元と爰の、

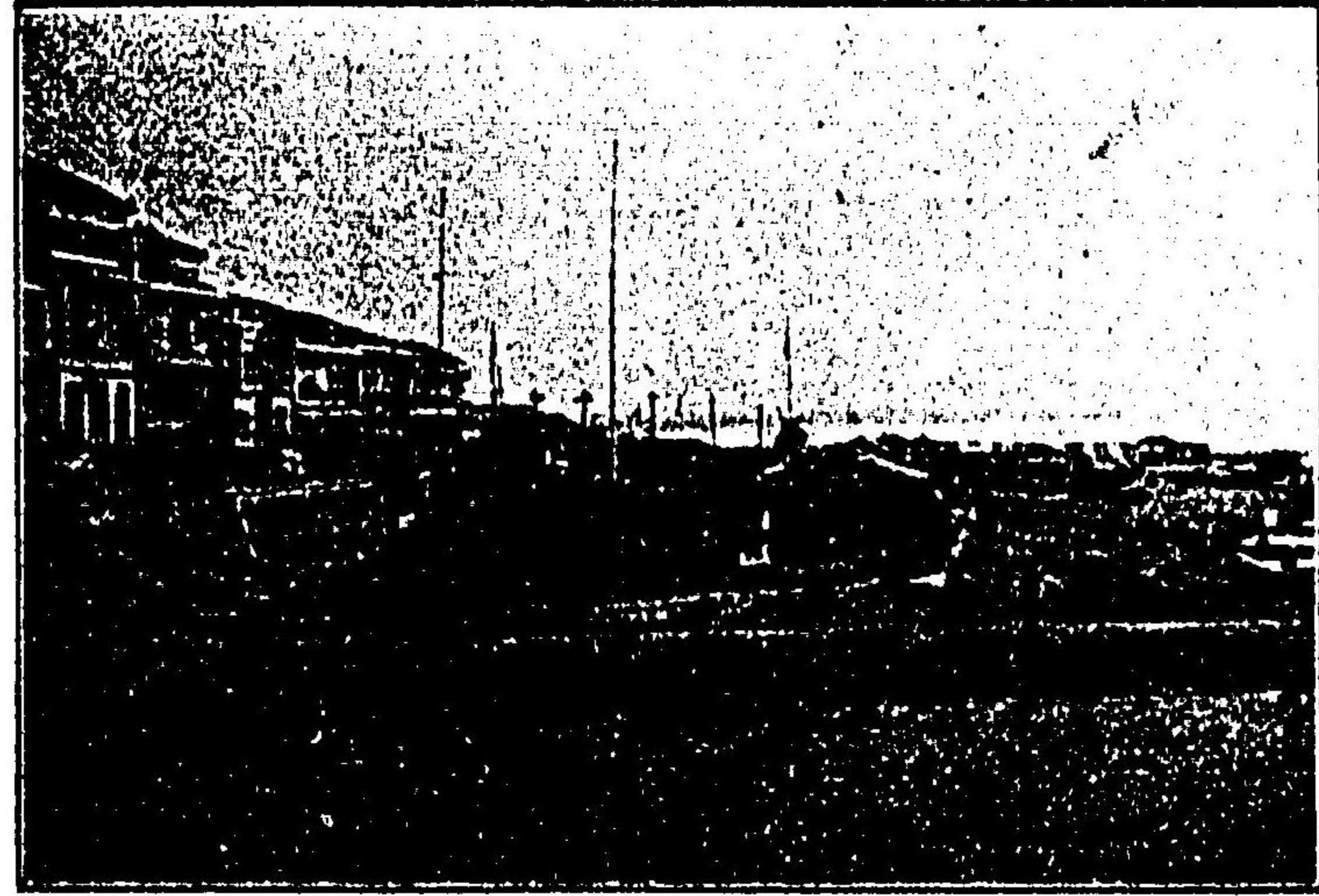
安立町



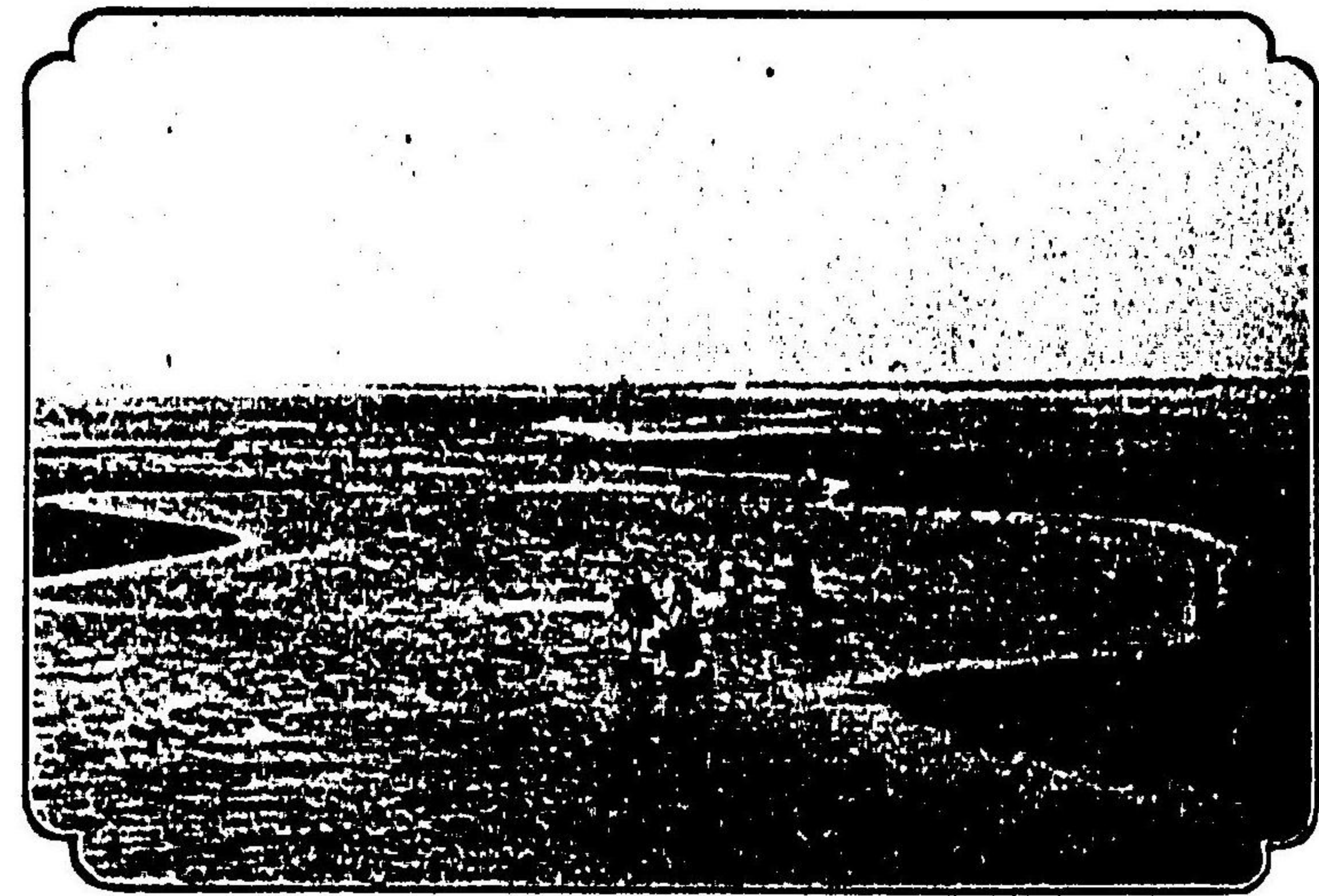
水 族 館 庭 園 南 側



大 演 壇 燈 臺



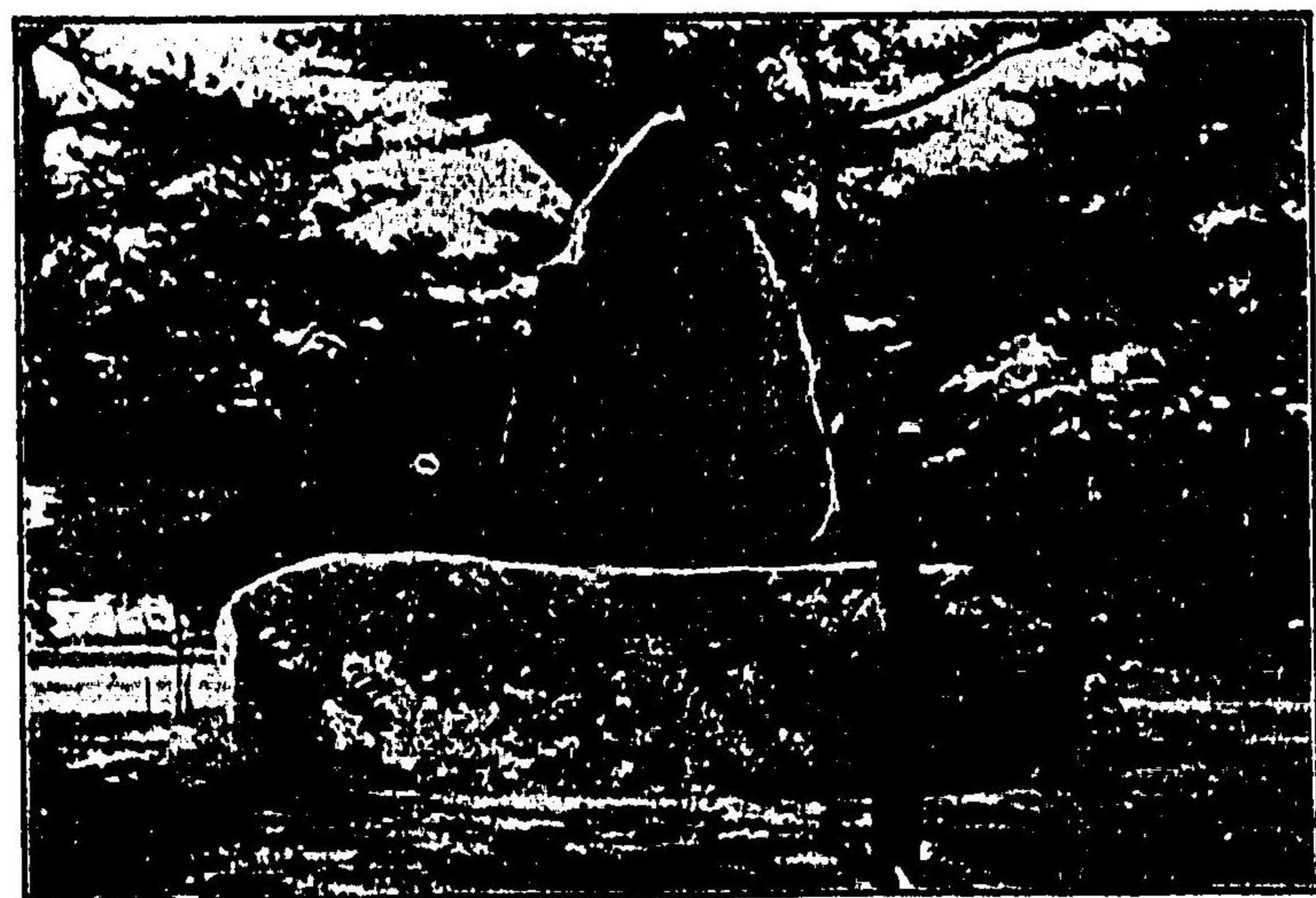
大濱料理店



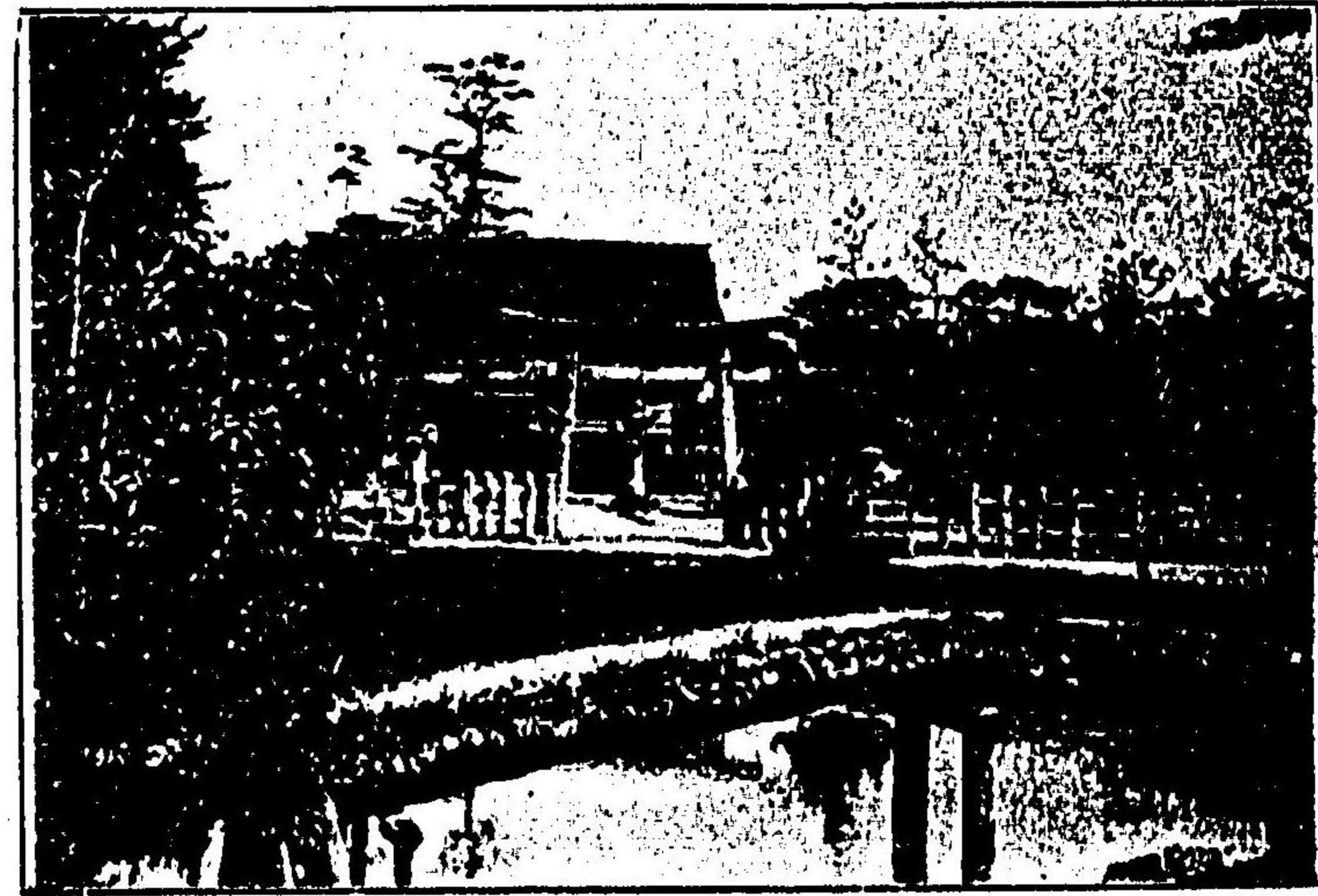
大濱沙干



天 誅 組 義 士 上 陸 地



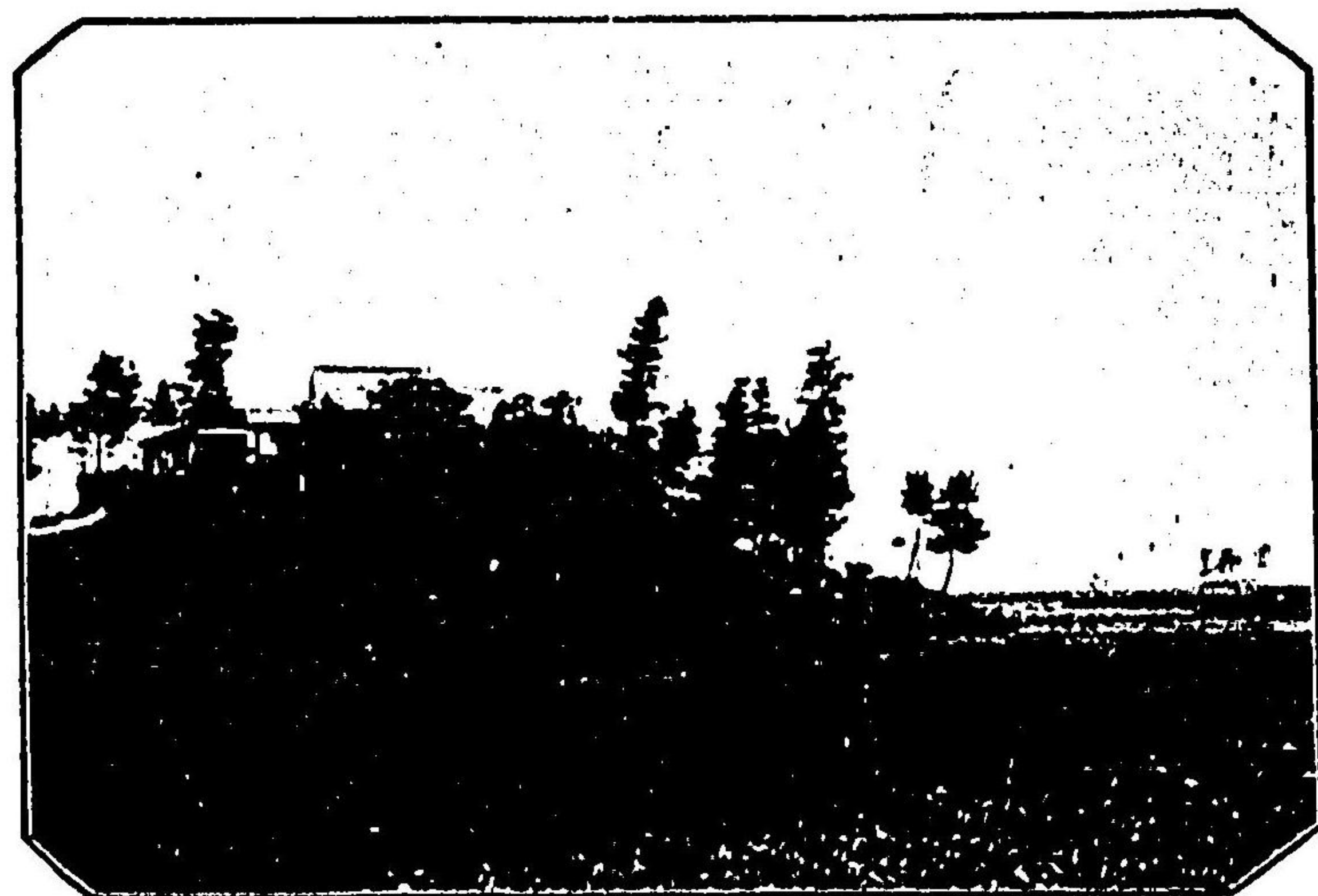
濱 寺 公 園



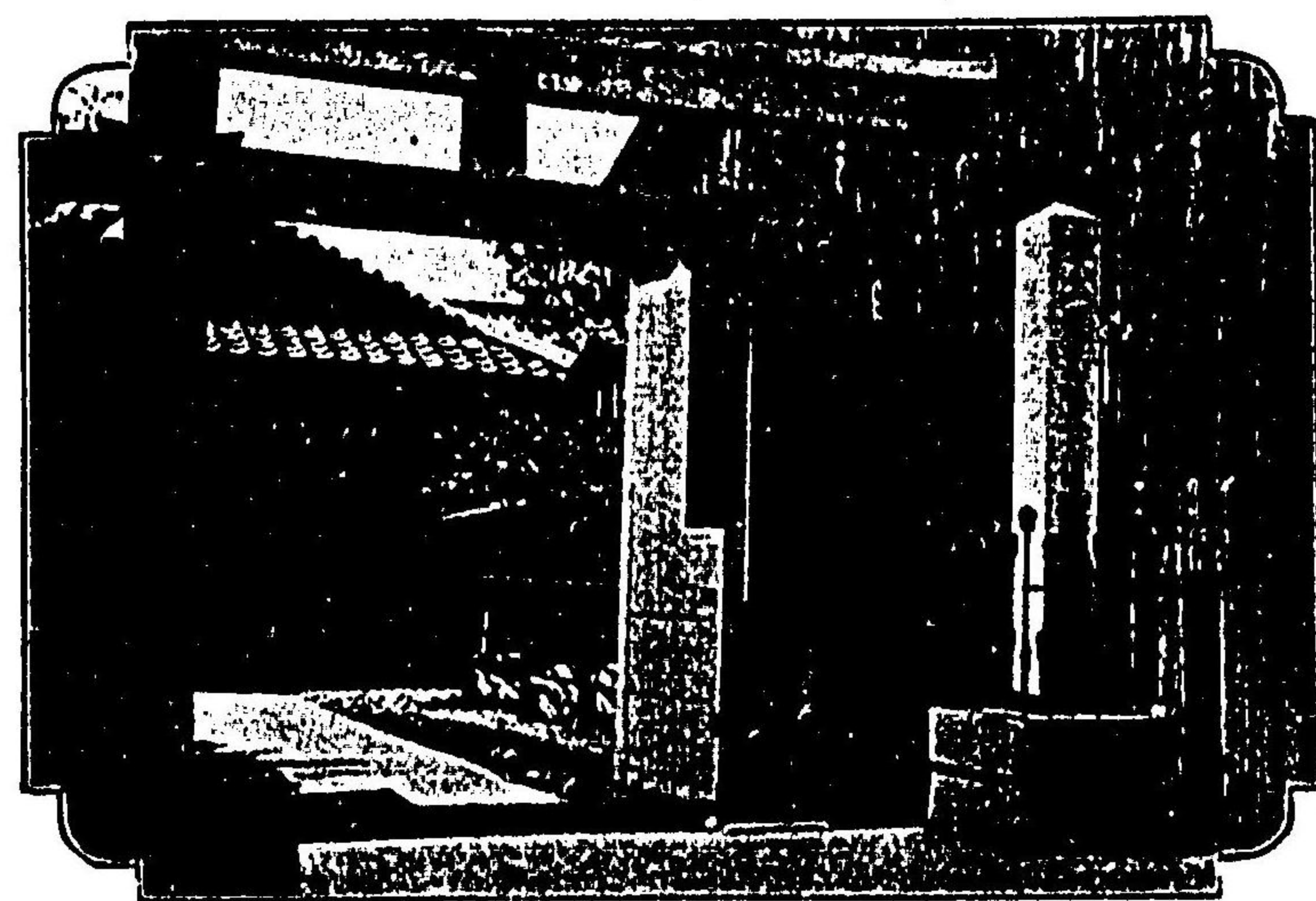
大 鳥 神 社



家 原 文 珠 院



岡の乳



所 在 行 舊

は、昔の叡松原で此邊は皆な松林で有つたのを、後に安立といふ者之れを拓いたので  
其人の名を呼んで名となりました。夫れより

住吉神社

の境内に入れば、先づ石燈籠の多きことに驚きます。巨大なる者は二丈に餘り其餘は  
算ふるに暇なく、金の燈籠も數多ありましてかゝる廣き境域に奉納の燈籠にて滿てを  
りますが、社會の信仰の厚き事は如何許りでしょう。

抑も當社は官幣大社でありまして、第一正面の神殿は底筒男命、第二の神殿は中筒男  
命、第三の神殿は表筒男命、第四の神殿は神功皇后です。此の住吉三が所の大神は原  
く神代の昔に淵源し、伊弉諾尊、日向の小戸の橋の檣原に棲したまふ時、海底より現  
れ給ふ御神であつて、其后神功皇后新羅征討し給ふ時、此御神再び海底より出現し給  
ひ皇軍の魁をなし給へり。故に三韓平定の後皇后其功徳を賞せられ歸朝の勅り筑紫に  
祝ひ奉られしが、其後大神皇后に託宣してのたまふて曰く、吾が和魂は大津の渚中倉  
の長峽に居り往來の船を見んと、則ち此住吉の津に鎮座まし給ふたのであります。其  
后神功皇后を併祠し奉つたので、一社を増し、四社となつたのです。此處に鎮座相殿

つたのは皇后攝政十一年辛卯四月二十三日ですから、今日迄實に一千六百有餘年にな  
りまして、連綿として官府から宮居の御造營を命せられたのです。而して宮居の体裁  
は軍神として祭られたのですから、所謂八陣の法に象どり、三社の進むのは魚鱗の備  
へ二社の開くのは鶴翼の圖を顯はした者で、之れを住吉造りといふと傳へます。境内  
の廣さは東西九丁、南北五丁、四方の鳥居の内東西百九間餘、南北百八十間餘りて。  
神社への家は七軒ありて津守氏を上位とし、其他數百人ありましたが、津守氏は今に  
連綿として宮司の職にあり華族に列します。昔の神祇は二千六百石でありました。其  
攝社末社は應神天皇、武甕槌神、若宮八幡宮、其他夥多ありますが簡畧に附してをさ  
ます。舊跡としては杳石、神館殿の前にあります。形に依て名があるのです。后土木、  
神宮の館内西北の隅にあるので、此神木の下に神供を薦て祀る此れを后土祭といふ。  
誕生石、嶋津忠久誕生の故跡、神頭椿鼻の邊にあります。反橋、神代高橋の遺製にて  
當堺で尤も有名のもので、神木橋、三韓より我朝へ貢物の中の一品といひ。楠大木  
は本殿の後にあります。便宜水、社頭の御手洗であるといひ、又詳かならぬといひ  
ひます。長峽橋、西の鳥居の馬場前長峽浦にあります。嶋橋は、社頭の石の舞臺の東  
の石橋をいひ。神馬舎、社頭にありて田邊村の神徒毎朝神馬を牽き來り毎日率き歸る

白鷺は、住吉の神使なりといひます。其他獨梁橋、淺澤の西にあり、龍の橋、淺澤の  
東にあり、玉出櫻、舊神宮寺の跡にありて舊大阪府知事建野郷三氏書、の碑が立つて  
あります。尙ほ舊跡も澤山ありますが畧します。夫れより本社正面の處を出ますと、

### 住吉公園

で、此松原及び高燈籠の邊を、古への出見の濱といひますが、高燈籠は反れ橋と共に  
特にと著名です。此海の内の名を名吳海といひますが、之れは雄略天皇御宇漢織吳織  
が韓國より渡航の途中、住吉の津に泊りし故であります。朴津に朴津の海、津守、敷  
津、等皆な此邊の海の名です。此等海邊の風光も甚明媚です。沙干狩りも亦た古來よ  
り有名な者です。近年松林の間より濱邊へかけて茶店、旅館、酒樓、等數多く建て並  
べられまして、學校其他の運動會など種々の催し者が時々あります。此神社の參詣人  
の多き事、遊覽者の賑しき事は、他に多く其比を見ません。年中の神事は、

毎月卯の日

例 祭

一月一日より三日迄

新年神事

四月 卯の日

大神鎮座日特に賑ふ。



六月十四日 御田植の神事  
 七月三十一日 夜宮と稱し、堺大濱の大魚市の見物人參詣人と共に終夜雲霞の如く賑ひます。  
 八月一日 南祭と稱し、堺宿院御旅所へ渡御。

尙ほ本市大道に行宮跡として、元有名なる舊家なりし河盛仁平氏の別荘を以て明治十年當市行幸の際行在に供せし跡あり、今は神道教會となりあれども其室を保存せり、乳の岡は上石津村の東、即ち堺南端より十丁許南の道路の東にあつて、周圍は今田地なれども荒陵の形を存し、或ひは石津の連の祖、野見宿禰の墓なりとも云ひます、其他餘塚とて、南農人町にあつて住吉神、韓國より凱陣のとき御銚を埋め給ひしと云ひ。寺院にては願本寺長谷寺行接寺等の古寺遺蹟多を残しますが、際限がありませんからこのへんに筆を擱します。初めに付け加へたる地圖に於て各スライション所在地及び各箇所、巡路に至るまで朱点を付しありますから、之れを照合おらば至便でせう。其外に

- 堺郵便電信局 甲斐町大道
- 堺電話交換支局 市之町大道
- 堺警察署 市之町西二丁(大小路)
- 市役所 東之町東二丁(殿馬場)
- 堺商業會議所 市之町西五丁
- 第五博覽會堺協賛會 全所内
- 其他の官公署は、遊覽巡回中にも散見してありますから略します。而て本市製産物の内尤も著名なる者は、
- 酒類 醬油 煉瓦 油 土樋 綿糸 足袋 緞通 實庖丁 及物類 鉄鍋釜 シヤフル 線香 硫酸晒粉 陶器 汽車客車及び附屬品等にして、重要商
- 品としては、
- 木綿 材木 薪 炭 壘表 操綿 等です。

旅 宿

は大濱にある分は既に記載を經しが、皆な備進行届て居りまして、西洋室の供へもあ  
ります。尚ほ全所に於て外に二三の旅宿がありますが。市内にては先づ、

- 澤田 大小路大道
- 山喜 大小路東端
- 大宮 榊屋町大道

此外にも多くありますが、此等は相當のものです。夫れから人力車賃金は南海鐵道  
吾妻橋ステーション、及び高野鐵道堺東ステーション、の特置組合人力車賃金表を  
左に記載して置きます。

| 發場車停橋妻吾        |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 内以錢五金          |                | 内以錢四金          |                |
| 材車櫛或熊市甲大宿中寺少大北 | 櫛或熊市甲大宿中寺少大北   | 櫛或熊市甲大宿住龍大吾    | 熊市甲龍榮或         |
| 之野之野之野之野之野之野之  | 野之野之野之野之野之野之   | 野之野之野之野之野之野之   | 野之野之野之野之野之野之   |
| 大東大東大東大東大東大東   | 大東大東大東大東大東大東   | 大東大東大東大東大東大東   | 大東大東大東大東大東大東   |
| 丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁   | 丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁   | 丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁   | 丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁   |
| 二二二二二二二二二二二二   | 二二二二二二二二二二二二   | 二二二二二二二二二二二二   | 二二二二二二二二二二二二   |
| 丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁   | 丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁   | 丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁   | 丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁   |
| 以錢七金           |                | 内以錢六金          |                |
| 神宿材車宿中寺少新南高柳九神 | 宿材車宿中寺少新南高柳九神  | 宿材車宿中寺少新南高柳九神  | 宿材車宿中寺少新南高柳九神  |
| 大東大東大東大東大東大東   | 大東大東大東大東大東大東   | 大東大東大東大東大東大東   | 大東大東大東大東大東大東   |
| 丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁   | 丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁   | 丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁   | 丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁   |
| 二二二二二二二二二二二二   | 二二二二二二二二二二二二   | 二二二二二二二二二二二二   | 二二二二二二二二二二二二   |
| 丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁   | 丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁   | 丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁   | 丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁   |
| 金賃増            |                | 内以錢九金          |                |
| 人觀ハ各三倍トス●二人乗ハ  | 雨ノ際ハ三割以内ヲ増ス●   | 北旅籠町東東東東東東東東   | 北旅籠町東東東東東東東東   |
| 夜間ハ二割以内ヲ増ス●晴天ニ | 夜間ハ二割以内ヲ増ス●晴天ニ | 夜間ハ二割以内ヲ増ス●晴天ニ | 夜間ハ二割以内ヲ増ス●晴天ニ |
| テモ泥道ノ節ハ二割以内ヲ増  | テモ泥道ノ節ハ二割以内ヲ増  | テモ泥道ノ節ハ二割以内ヲ増  | テモ泥道ノ節ハ二割以内ヲ増  |
| ス●待合一時間五錢トス●二  | ス●待合一時間五錢トス●二  | ス●待合一時間五錢トス●二  | ス●待合一時間五錢トス●二  |
| 七十一            | 七十一            | 七十一            | 七十一            |

南海鐵道吾妻橋特置組合人力車賃金表

右之萬力反  
 外各代正  
 地一里神天  
 備切三付金社社  
 自午十二時至正午十二時以上者每五分鐘  
 自午十二時至正午十二時以上者每五分鐘  
 自午十二時至正午十二時以上者每五分鐘  
 自午十二時至正午十二時以上者每五分鐘

| 高野鐵道<br>東野驛<br>特置組合<br>人力車賃<br>錢表 | <table border="1"> <tr> <th>錢七金</th> <th>錢四金</th> </tr> <tr> <td>西南大柳九河南南新少宿村車中宿寺</td> <td>反中方法花極日大</td> </tr> <tr> <td>妻仙之園明半</td> <td>正田遂口橋新</td> </tr> <tr> <td>橋島段町町町町町町</td> <td>段校社東木町東</td> </tr> <tr> <td>西一東以道大</td> <td>西以道大</td> </tr> </table>  | 錢七金     | 錢四金 | 西南大柳九河南南新少宿村車中宿寺 | 反中方法花極日大 | 妻仙之園明半  | 正田遂口橋新  | 橋島段町町町町町町 | 段校社東木町東 | 西一東以道大 | 西以道大  |      |       |       |      |      |
|-----------------------------------|---|---------|-----|------------------|----------|---------|---------|-----------|---------|--------|-------|------|-------|-------|------|------|
| 錢七金                               | 錢四金   |         |     |                  |          |         |         |           |         |        |       |      |       |       |      |      |
| 西南大柳九河南南新少宿村車中宿寺                  | 反中方法花極日大  |         |     |                  |          |         |         |           |         |        |       |      |       |       |      |      |
| 妻仙之園明半                            | 正田遂口橋新  |         |     |                  |          |         |         |           |         |        |       |      |       |       |      |      |
| 橋島段町町町町町町                         | 段校社東木町東   |         |     |                  |          |         |         |           |         |        |       |      |       |       |      |      |
| 西一東以道大                            | 西以道大  |         |     |                  |          |         |         |           |         |        |       |      |       |       |      |      |
|                                   | <table border="1"> <tr> <th>錢十金</th> <th>錢八金</th> <th>錢五金</th> </tr> <tr> <td>北山淡血大</td> <td>北北國錦綵</td> <td>柳九神南南新少</td> </tr> <tr> <td>島嶼公南村</td> <td>旅旅旅</td> <td>旅在旅</td> </tr> <tr> <td>東四四町地</td> <td>東以道大</td> <td>西以道大</td> </tr> </table>   | 錢十金     | 錢八金 | 錢五金              | 北山淡血大    | 北北國錦綵   | 柳九神南南新少 | 島嶼公南村     | 旅旅旅     | 旅在旅    | 東四四町地 | 東以道大 | 西以道大  |       |      |      |
| 錢十金                               | 錢八金   | 錢五金     |     |                  |          |         |         |           |         |        |       |      |       |       |      |      |
| 北山淡血大                             | 北北國錦綵   | 柳九神南南新少 |     |                  |          |         |         |           |         |        |       |      |       |       |      |      |
| 島嶼公南村                             | 旅旅旅   | 旅在旅     |     |                  |          |         |         |           |         |        |       |      |       |       |      |      |
| 東四四町地                             | 東以道大  | 西以道大    |     |                  |          |         |         |           |         |        |       |      |       |       |      |      |
|                                   | <table border="1"> <tr> <th>錢八十</th> <th>錢九金</th> <th>錢六金</th> </tr> <tr> <td>八東東中</td> <td>住酒北北國錦綵</td> <td>材車中宿</td> </tr> <tr> <td>寺野野深</td> <td>島天旅旅</td> <td>橋或熊大甲市</td> </tr> <tr> <td>公大寺井</td> <td>之之之</td> <td>之野之野之</td> </tr> <tr> <td>越二村岩村</td> <td>東以道大</td> <td>東以道大</td> </tr> </table> | 錢八十     | 錢九金 | 錢六金              | 八東東中     | 住酒北北國錦綵 | 材車中宿    | 寺野野深      | 島天旅旅    | 橋或熊大甲市 | 公大寺井  | 之之之  | 之野之野之 | 越二村岩村 | 東以道大 | 東以道大 |
| 錢八十                               | 錢九金   | 錢六金     |     |                  |          |         |         |           |         |        |       |      |       |       |      |      |
| 八東東中                              | 住酒北北國錦綵   | 材車中宿    |     |                  |          |         |         |           |         |        |       |      |       |       |      |      |
| 寺野野深                              | 島天旅旅  | 橋或熊大甲市  |     |                  |          |         |         |           |         |        |       |      |       |       |      |      |
| 公大寺井                              | 之之之   | 之野之野之   |     |                  |          |         |         |           |         |        |       |      |       |       |      |      |
| 越二村岩村                             | 東以道大  | 東以道大    |     |                  |          |         |         |           |         |        |       |      |       |       |      |      |

九明  
 月治  
 改世  
 正五  
 年

**堺大濱公園地** 各地方發車堺鐵特置組合人力車賃錢表

|     |     |
|-----|-----|
| 七錢  | 金廿  |
| 高南備 | 石王田 |
| 山寺明 | 田村神 |
| 增貸金 | 附合  |
| 一日  | 二入  |
| 號子  | 號子  |
| 街切  | 街切  |
| 堺市  | 堺市  |
| 接續  | 接續  |
| 地   | 地   |
| 限   | 限   |
| 八   | 八   |
| 拾錢  | 拾錢  |
| 半日  | 半日  |
| 全上  | 全上  |
| 四拾  | 四拾  |
| 五錢  | 五錢  |
| 二人  | 二人  |
| 號子  | 號子  |
| 六倍  | 六倍  |
| 額トス | 額トス |

| 大濱公園    |          |       |       |
|---------|----------|-------|-------|
| 錢七      | 內以錢六     | 內以錢五  | 內以錢四  |
| 大宿中寺少新南 | 西市甲大宿中寺  | 甲大宿中寺 | 龍住    |
| 町院之地寺旅  | 妻之嬰院之地   | 妻町院   | 龍住    |
| 大町町町町   | 橋町町町     | 橋町町   | 龍住    |
| 道大大四四四  | 通四四四四四   | 四四四四四 | 龍住    |
| 東東丁丁丁丁  | 一丁丁丁丁丁   | 丁丁丁丁丁 | 龍住    |
| 二二三三四五  | 四三四三四    | 以以以以  | 龍住    |
| 丁丁丁丁丁   | 以以以以     | 以以以以  | 龍住    |
| 內以錢八    | 內以       |       |       |
| 山材車橋戎熊市 | 甲大宿中寺少新南 | 北     | 北     |
| 木之屋之野之  | 妻之嬰院之地   | 旅在旅   | 旅在旅   |
| 町町町町町   | 橋町町町     | 橋町町   | 橋町町   |
| 木四大大大大  | 東東東東東    | 東東東東東 | 東東東東東 |
| 二一三四五   | 丁丁丁丁丁    | 丁丁丁丁丁 | 丁丁丁丁丁 |
| 新丁丁丁丁   | 以以以以     | 以以以以  | 以以以以  |
| 以以以以    | 以以以以     | 以以以以  | 以以以以  |
| 田四四丁丁丁  | 東東東東東    | 東東東東東 | 東東東東東 |
| 內以錢拾    | 內以錢九     |       |       |
| 材車橋戎熊市  | 甲大宿中寺少新南 | 北     | 北     |
| 木之屋之野之  | 妻之嬰院之地   | 旅在旅   | 旅在旅   |
| 町町町町町   | 橋町町町     | 橋町町   | 橋町町   |
| 東東東東東   | 東東東東東    | 東東東東東 | 東東東東東 |
| 二三四五六   | 丁丁丁丁丁    | 丁丁丁丁丁 | 丁丁丁丁丁 |
| 丁丁丁丁丁   | 以以以以     | 以以以以  | 以以以以  |
| 以以以以    | 以以以以     | 以以以以  | 以以以以  |
| 東東東東東   | 東東東東東    | 東東東東東 | 東東東東東 |

堺市案内記終

| 地          | 發  | 堺名所見物  | 増賃金  |
|------------|----|--|--|
| 宿屋町東一丁二丁三丁 | 拾錢 | 大濠公園地より宿院御旅所、松の寺、大寺、天神、妙國寺、浜花屋の松へ廻り住吉神社迄 金拾錢 | 雨天ノ際ハ三割以内ヲ増ス夜間ハ二割以内ヲ増ス 晴天ニテモ泥道ノ節ハ二割以内ヲ増ス 待合ハ一時間五錢トス 二人乗ハ各三倍トス 二人乗ハ總テ一人半額トス |
| 神明町大濠東一丁二丁 | 拾錢 | 大濠公園地より宿院御旅所、松の寺、大寺、天神、妙國寺へ廻り香妻橋停車場迄 金貳拾錢    | 右之外各地一里ニ付金拾貳錢以内 以上端數ハ壹町毎ニ五厘ノ   |
| 九間町大道東一丁二丁 | 拾錢 | 大濠公園地より宿院御旅所、松の寺、大寺、天神、妙國寺、浜花屋の松へ廻り住吉神社迄 金拾錢 |  |
| 柳之町大道西一丁二丁 | 拾錢 |  |  |
| 錦之町四一丁二丁三丁 | 拾錢 |  |  |
| 綾之町四二丁三丁   | 拾錢 |  |  |
| 櫻之町四三丁四    | 拾錢 |  |  |
| 北中町四二丁     | 拾錢 |  |  |
| 北中之町四一丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町四二丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町四三丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町四四丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町四五丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町四六丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町四七丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町四八丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町四九丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町五〇丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町五一丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町五二丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町五三丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町五四丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町五五丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町五六丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町五七丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町五八丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町五九丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町六〇丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町六一丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町六二丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町六三丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町六四丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町六五丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町六六丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町六七丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町六八丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町六九丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町七〇丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町七一丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町七二丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町七三丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町七四丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町七五丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町七六丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町七七丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町七八丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町七九丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町八〇丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町八一丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町八二丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町八三丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町八四丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町八五丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町八六丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町八七丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町八八丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町八九丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町九〇丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町九一丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町九二丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町九三丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町九四丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町九五丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町九六丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町九七丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町九八丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町九九丁    | 拾錢 |  |  |
| 北中之町一〇〇丁   | 拾錢 |  |  |

七十四

明治三十六年一月二十三日印刷  
 明治三十六年一月二十八日發行

定價金拾錢



編輯者

第五回博覽會堺市協賛會

右代表者 谷 恒 三 郎

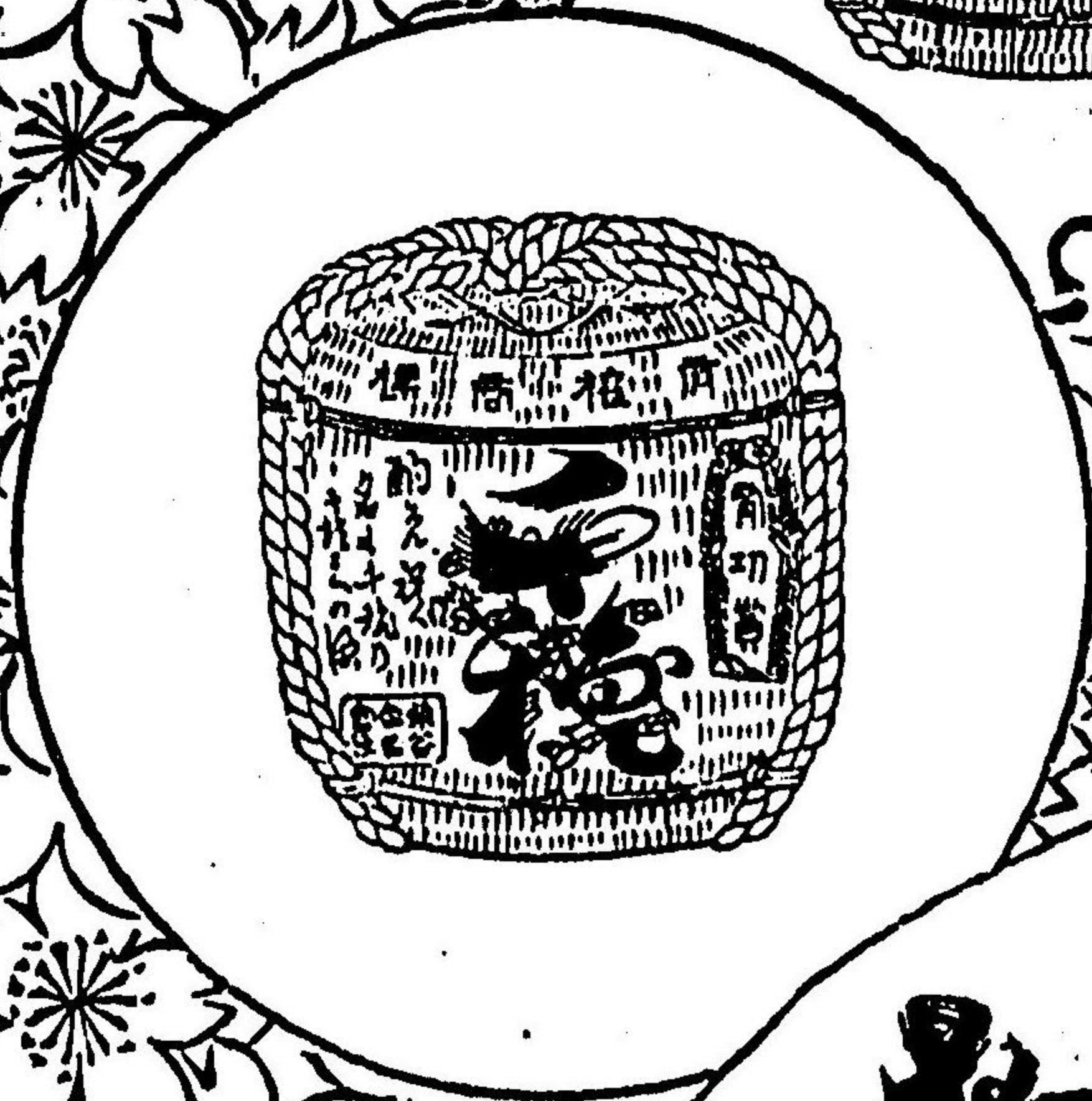
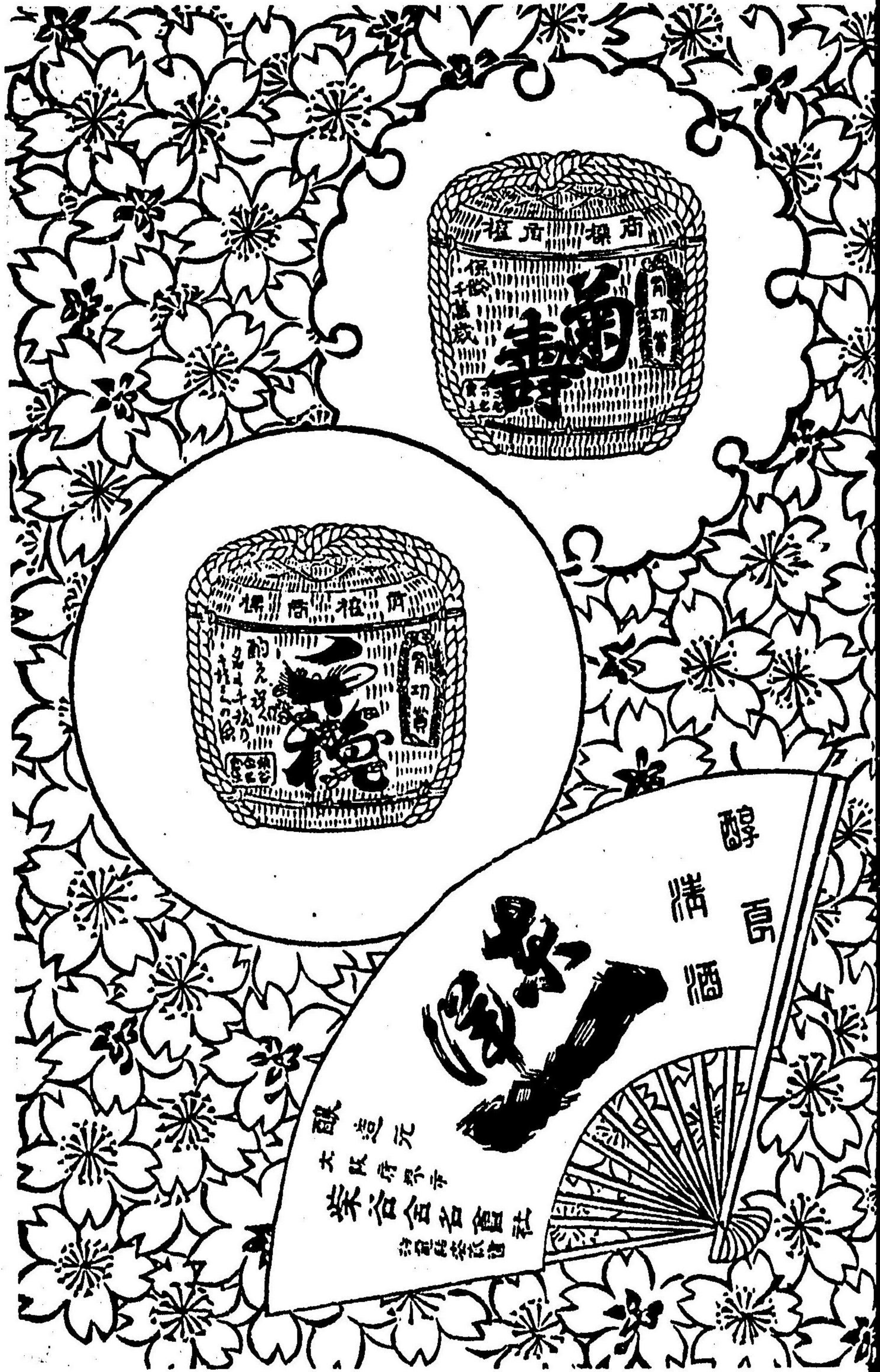
印刷者

前田長三郎

大阪府堺市大町廿七番四號

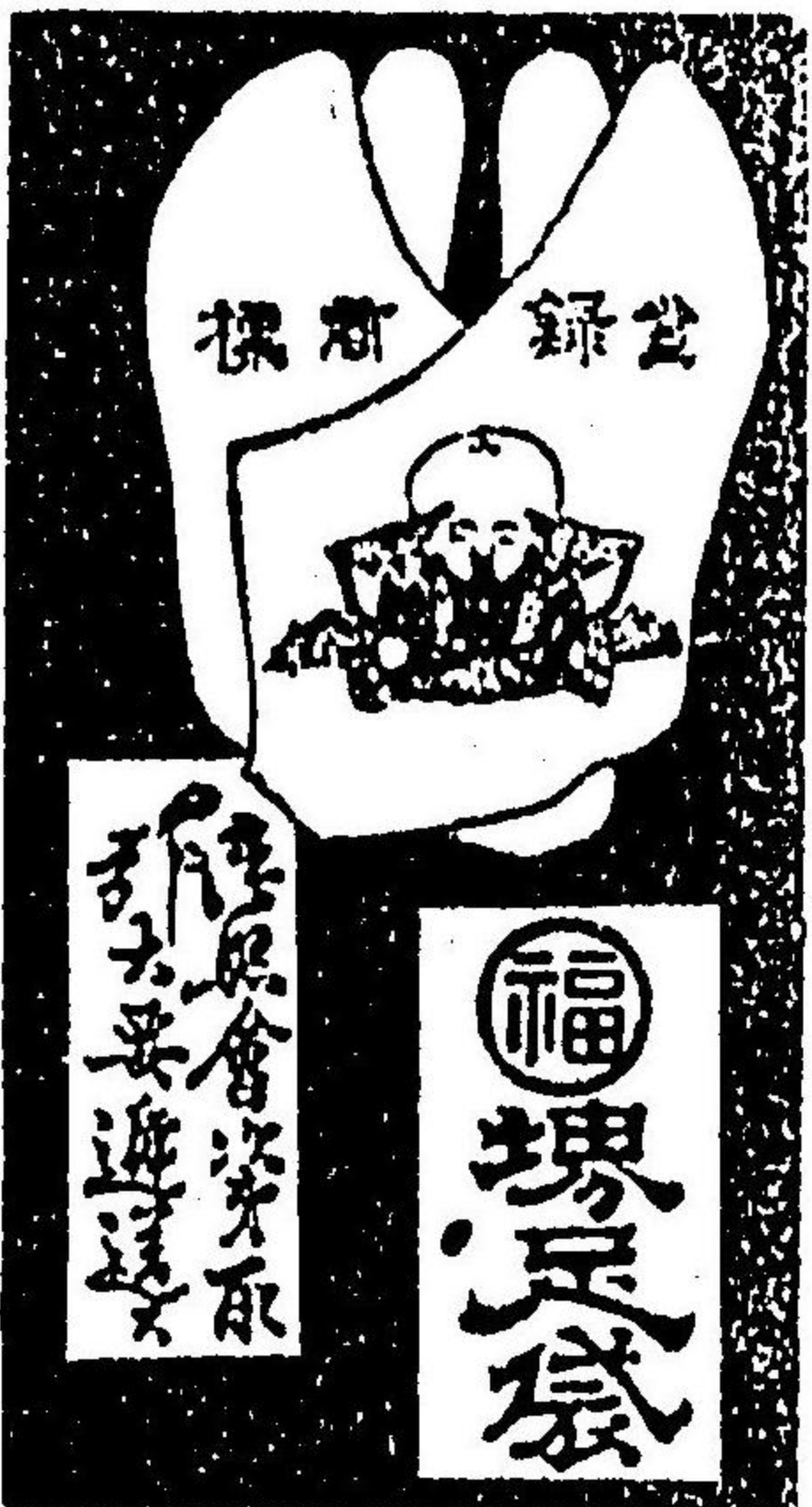
發行所 第五回博覽會堺市協賛會

製本賣捌所 前田文林堂



8/27

●全國到處ニ販賣店アリ最奇ニテ御購求テ乞福助印商標及㊦堺足袋ニ御注目願上候



元祖堺足袋製造元

大阪府堺市甲斐町東一丁

福 辻本商會

特選國産百〇六番

# 堺病院

堺市警察署前

院長 三木龍哉

(電話二一七番)

各種 薰物 線香 製造 販賣

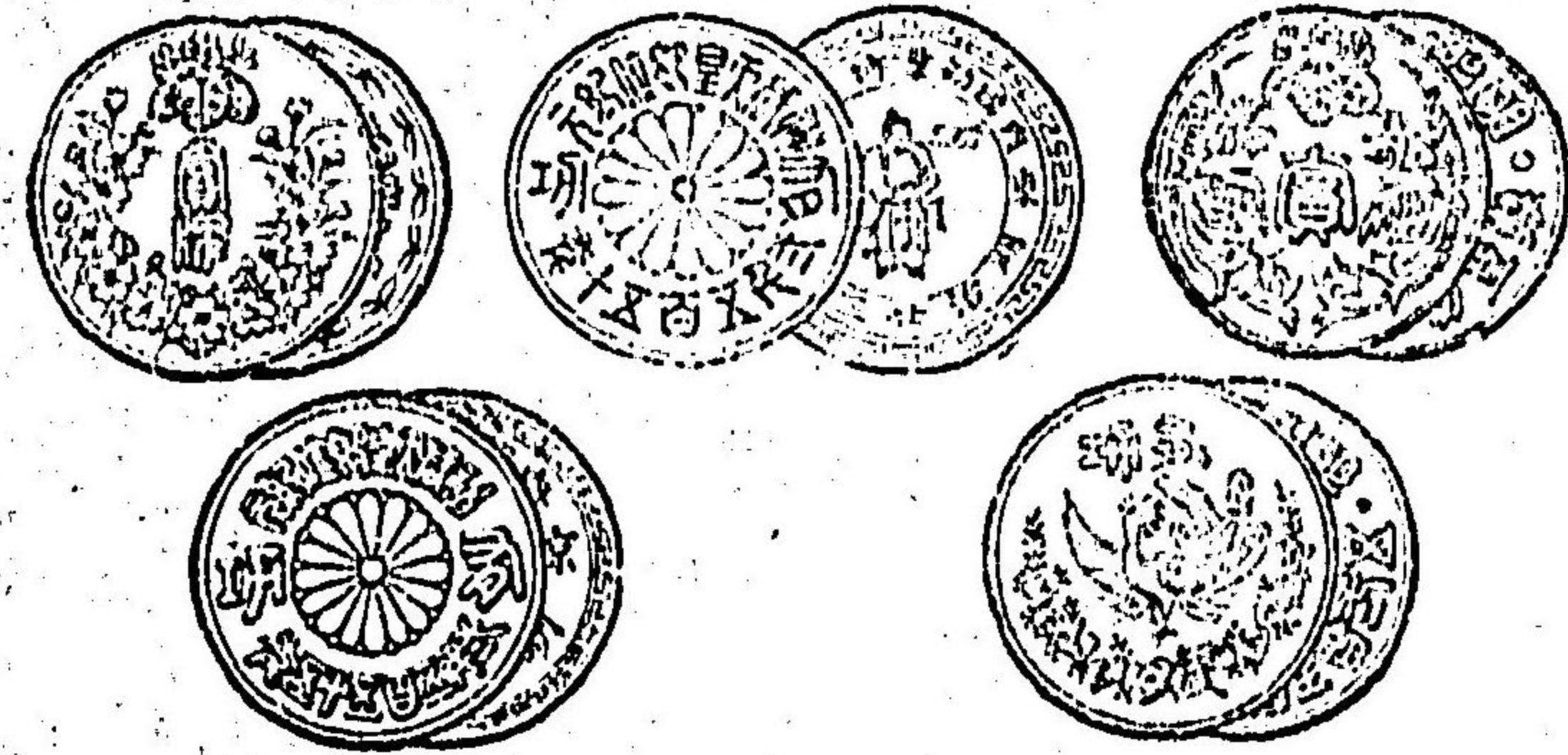
商標 中

辨商 中田梅栄堂

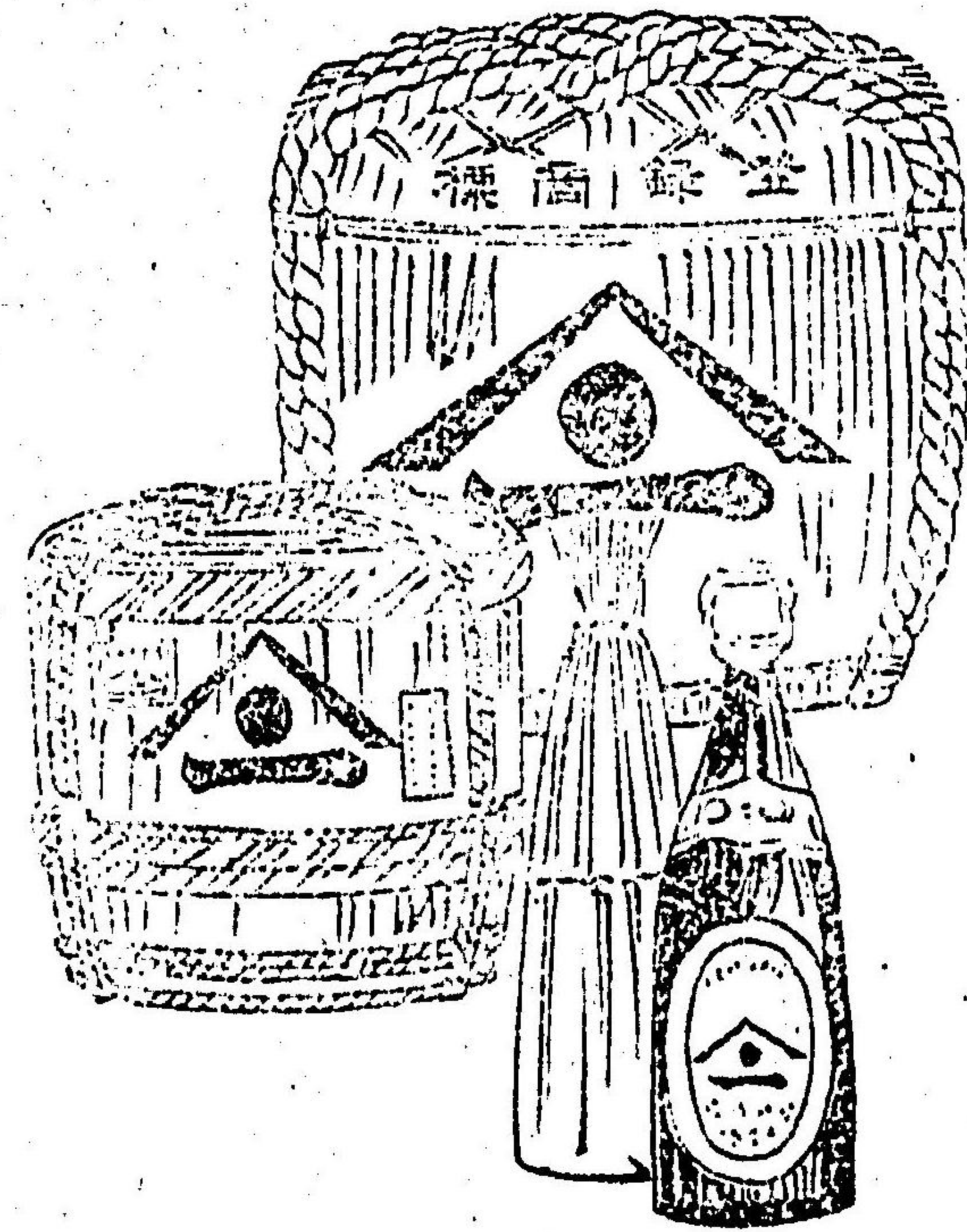
中田彦五郎

大阪府堺市車之町大道 録 沉 作 事

各國大博覽會於有功賞領



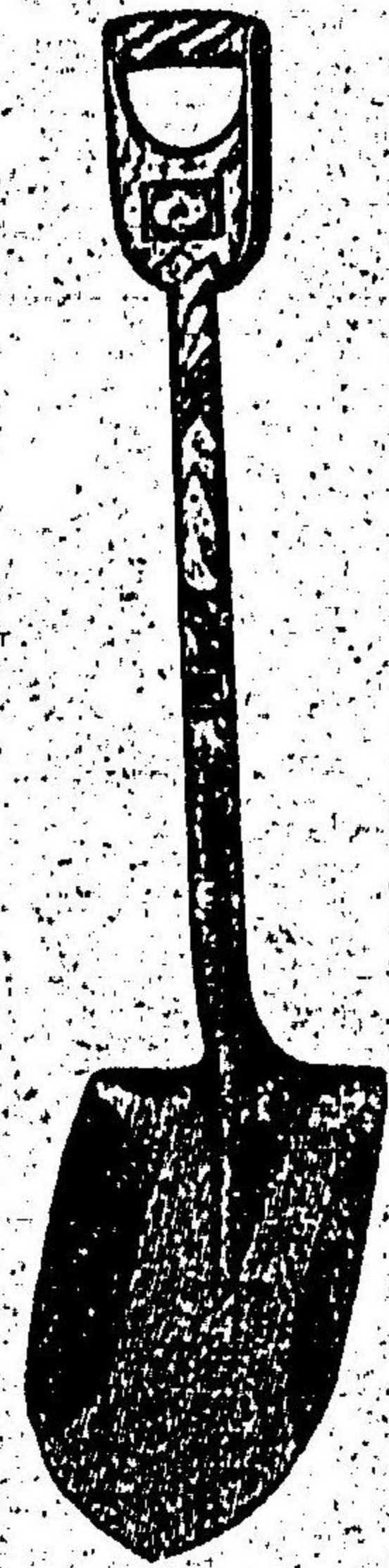
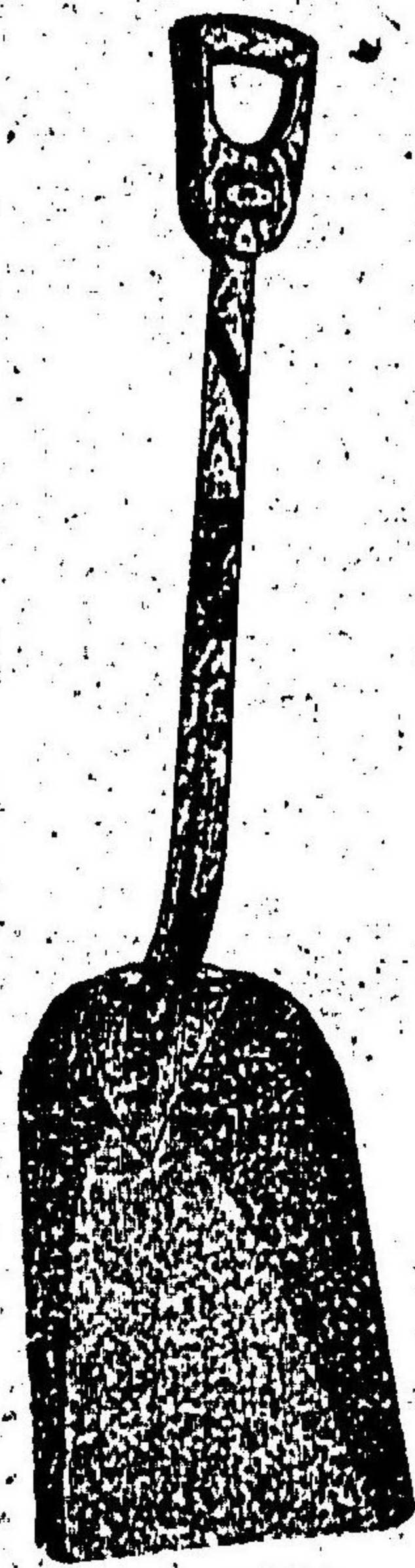
醬油



最上

大阪府堺市 松井六平 釀





堺名産打刃物  
スコップシヨベル  
鐵道礦山土工用具  
其他萬金物

製造業 販賣業  
淺香本店

堺市綾之町西壹丁  
電話五百拾叁番

商標



最獨  
良得  
品之

新發明  
打機

小袖綿  
中入綿  
蒲團綿  
各種

大阪府下堺市大町西四丁

製綿合資會社

電話前百壹番

大阪市此區滝川町

正 志谷恒三郎

電話東一九七九番

堺市龍神橋西詰角

今高田佐兵衛

電話三百三十六番

特約販賣店

# 薰香線香

製造本舖

左海市九間町

薰芳堂池野太榮

各國博覽會賞牌受領

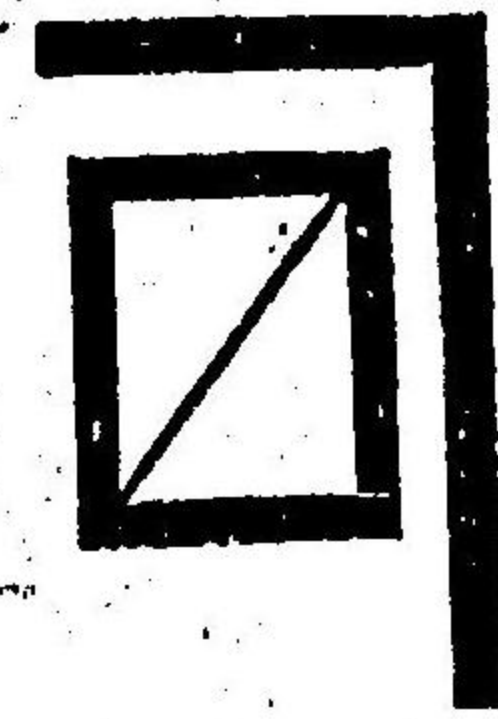
廣告

各種庖刀

并仕込ステキ種々

登錄

商標



堺妙國寺前

藤原友吉本店

京都清水登丁目

藤原支店

# 薰芳線香問屋

並ニ内外香料各種

大日本堺香舖

# 大今晴光堂

電話貳百六拾六番

# 堺煉瓦株式會社廣告

資本金

廿萬圓

木フマン式輪環窯  
舊式登窯

貳個  
三個

製造高

一ヶ月ノ製造高

百萬個

當社製品ハ佳良已ニ世ノ公評アリ數量ノ多  
少ニ拘ハラズ御注文ニ應ズベク候

大阪府堺市吾妻橋通三十三番邸

☆ 堺煉瓦株式會社

鬚付濃油香油の原料種ニ

刀刺  
御打粉  
子油  
拭用

カサ多香油

大阪府下堺市宿屋町農人町

岡村平兵衛

商標子油屋特電話貳四七番

漢網用

織物用

裁縫用

綿線系商

價格表見本等  
即申越次第通送

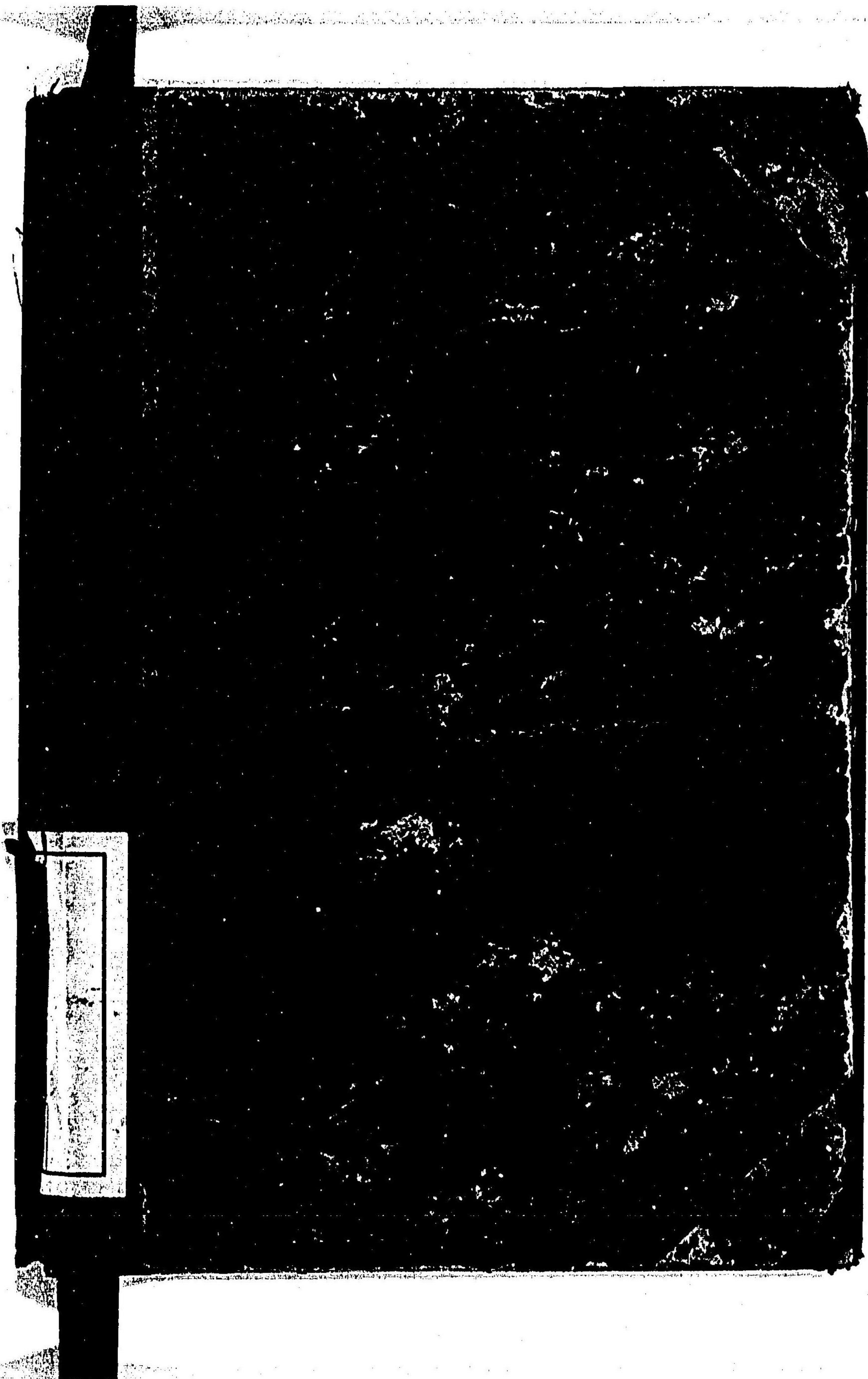
大阪府小塚市寺地出東三丁目

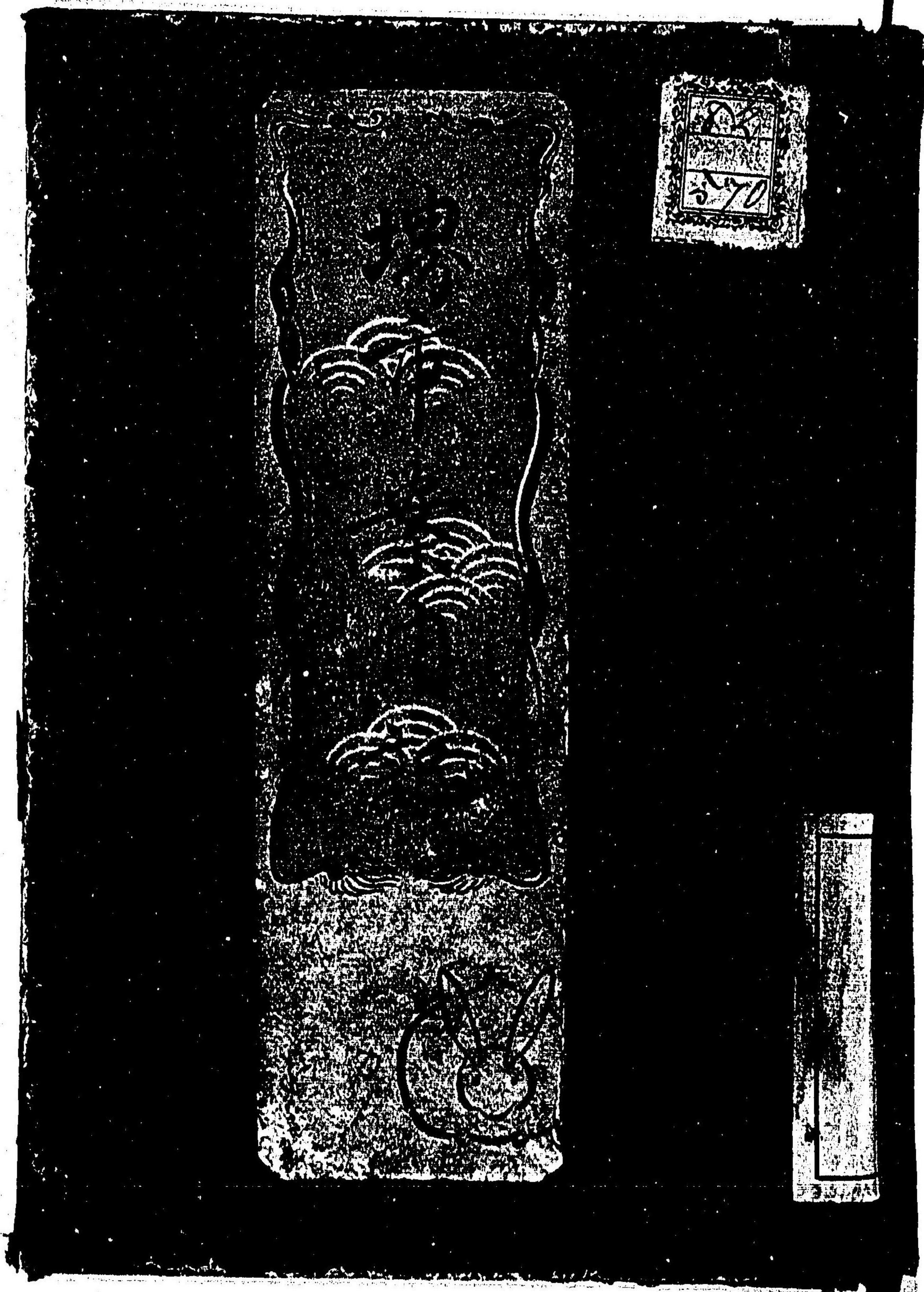
商標

尖麻田榮藏

電話百〇二番

82  
570





025442-000-3

82-570

堺市案内記

第五回博覧会堺市協賛会

M36

ADC-2894

